

Kofax TotalAgility

インストールガイド

バージョン: 7.10.0

日付: 2021-12-12

KOFAX

© 2021 Kofax. All rights reserved.

Kofax is a trademark of Kofax, Inc., registered in the U.S. and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners. No part of this publication may be reproduced, stored, or transmitted in any form without the prior written permission of Kofax.

目次

序文.....	8
関連ドキュメント.....	8
オフライン ドキュメント.....	9
トレーニング.....	9
Kofax 製品のヘルプの入手.....	9
第 1 章: インストールの計画.....	11
ユーティリティ.....	11
ライセンス プロキシ.....	12
ライセンス情報.....	12
同時ユーザー ライセンス.....	12
TotalAgility でライセンスをアクティブ化する.....	12
Kofax Message Connector.....	13
システム制限.....	14
レポート サーバー.....	14
Kofax VRS Elite.....	14
Web Capture サービス.....	15
Scan Agent Service.....	15
第 2 章: TotalAgility のインストール.....	16
サイレント インストールの実行.....	17
データベースのみのサイレント インストール.....	17
データベースをアップグレードするためのサイレント インストール.....	22
同じサーバーへの Web およびアプリケーションのサイレント インストール.....	28
別の Web サーバーまたはアプリケーション サーバーへのサイレント インストール.....	39
リアル タイム Transformation Server のサイレント インストール.....	42
Message Connector の複数インスタンスのサイレント インストール.....	51
標準インストールの実行.....	52
高速インストール.....	53
データベースのみの標準インストール.....	54
データベースをアップグレードするための標準インストール.....	57
Web サーバーの標準インストール.....	58
アプリケーション サーバーの標準インストール.....	59
Web およびアプリケーション サーバーの標準インストール.....	67
リアル タイム Transformation Server の標準インストール.....	76
Transformation Designer のヘルプのアップグレード.....	79

Docker コンテナで TotalAgility インストールを実行する.....	79
概要.....	79
制限事項.....	80
前提条件.....	80
Windows サーバー 2016 以降に Docker をインストールする.....	80
TotalAgility Docker コンテナ イメージの作成.....	82
Docker でのサイレント インストールの構成.....	83
Docker コンテナの実行.....	91
Secrets の使用.....	95
SSL 証明書をコンテナにインポートする.....	101
IIS および SQL Server で Windows 認証の使用.....	102
非標準ポートへの TotalAgility のインストール.....	105
バインドの編集.....	105
ベース アドレスの更新.....	106
Streaming サービスの再起動.....	107
データベースの手動インストール.....	107
MSDTC を構成する.....	107
MSDTC を手動で起動する.....	108
データベースを手動でインストールする.....	108
アーティファクトのインポート.....	111
高可用性のための TotalAgility の構成.....	111
iPad または iPhone を経由した TotalAgility へのアクセス.....	112
フェデレーション セキュリティ - 共通のマシン キーの生成.....	112
TotalAgility 構成ファイルの暗号化および復号化.....	113
Web.config の暗号化と復号化.....	113
実行可能ファイルの構成ファイルの暗号化および復号化.....	113
Docker コンテナ内の構成ファイルの暗号化.....	117
TotalAgility 構成設定の編集.....	118
パラメータ値の更新.....	118
ライセンス サーバーの設定の更新.....	119
エクスポート垂直スケーリングのサポート.....	119
クロス サイト リクエスト フォージェリ (CSRF) 対策.....	120
格納型クロスサイト スクリプティングの脆弱性を防ぐために設定を更新する.....	121
エクスポート アクティビティの待機時間の構成.....	124
手動認証の設定の更新.....	125
手動および Windows 認証の設定の更新.....	126
TotalAgility リンク済みサーバーの設定の更新.....	127
カスタム ジョブ スレッド プールを追加する.....	128

スレッド プールの監視間隔を追加する.....	129
言語パックをインストールする.....	132
.NET Framework 言語パックをインストールする.....	132
ウイルス対策スキャンからのフォルダの除外.....	132
TotalAgility ドキュメントにアクセスする.....	132
オンライン ドキュメント.....	132
オフライン ドキュメント.....	133
EVRSCheck ユーティリティの実行.....	135
第 3 章: Transformation Server バンドルのインストール.....	137
サイレント インストールの実行.....	137
標準インストールの実行.....	139
構成ファイルの暗号化および復号化.....	141
Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe の使用.....	142
構成ファイルの復号化.....	144
構成ファイルを編集する.....	144
NLP 言語パックを手動でインストールする.....	145
サイレント インストールを使用した Transformation Server のアップグレード.....	146
Transformation Server をアンインストールする.....	146
第 4 章: レポート サーバーのインストール.....	147
サイレント インストールの実行.....	147
標準インストールの実行.....	148
レポート サーバーをアンインストールする.....	149
第 5 章: Microsoft Dynamics CRM と TotalAgility との統合.....	151
Dynamics CRM をインストールする.....	151
Dynamics CRM の Web.config を更新する.....	151
CRM 仮想ディレクトリの Web.config を更新する.....	153
第 6 章: Microsoft Dynamics AX と TotalAgility を統合する.....	155
TotalAgility Web サービスへの Dynamics AX サービス参照を作成する.....	156
TotalAgility Web サービスへの Dynamics AX 09 サービス参照を作成する.....	156
TotalAgility Web サービスへの Dynamics AX 12 サービス参照を作成する.....	156
Dynamics AX で参照を追加する.....	157
Dynamics AX 09 の場合.....	157
Dynamics AX 12 の場合.....	157
ファイルを手動でコピーする.....	157
TotalAgility コネクタ クラスを Dynamics AX にインポートする.....	158
データベース X++ イベント メソッドの編集.....	158
データベース ログ イベントを登録する.....	159
アプリケーション プール アカウントの確認.....	159

第 7 章: Micro Focus Content Manager と TotalAgility との統合	160
Content Manager SDK のバージョンを特定する.....	160
Micro Focus Content Manager サーバーのセットアップ.....	160
TotalAgilityTrimCommunicatorService をインストールして構成する.....	160
Content Manager でイベント ハンドラを構成する.....	162
第 8 章: Kofax SignDoc と TotalAgility の統合	165
Kofax SignDoc サーバーをセットアップする.....	165
第 9 章: Web サーバーでの KCM プロキシのインストール	166
サイレント インストール.....	166
標準インストール.....	166
Docker インストール.....	167
TotalAgility Web.config に含まれる KCM サーバー URL の更新.....	167
TotalAgility Web.config に含まれる KCM サーバー URL の手動で更新.....	167
構成ユーティリティを使用する.....	168
KCM プロキシを手動でインストールする.....	168
第 10 章: HTTPS 通信の構成	169
HTTPS 通信用の TotalAgility の構成.....	169
IIS の TotalAgility アプリケーションに対する SSL の有効化.....	169
TotalAgility 構成ファイルの更新.....	170
HTTPS 通信用の Transformation Designer の構成.....	173
第 11 章: TotalAgility ライセンス プロキシをインストールする	174
TotalAgility ライセンス プロキシ情報を変更する.....	175
TotalAgility ライセンス プロキシ情報を変更する.....	176
第 12 章: TotalAgility 用に VRS Elite を構成する	177
Kofax VRS Basic OEM または Professional OEM のインストール.....	177
スタンドアロン インストール.....	177
TotalAgility ライセンス サーバーによって管理される Kofax VRS Elite ライセンス.....	177
VRS サーバーをインストールする.....	177
Kofax VRS Elite を TotalAgility Scan Client と共に使用する.....	178
第 13 章: Kofax Web Capture Service のインストール	179
デフォルトの場所にインストールする.....	179
カスタムの場所にインストールする.....	179
マルチユーザー環境で Web Capture サービスを使用する.....	179
MS ターミナル サーバーでの Web Capture サービスの使用.....	179
Citrix で Web Capture サービスを使用する.....	180
Web Capture サービスを Windows サービスとしてインストールする.....	180
Web Capture サービスをアップグレードする.....	180
第 14 章: Scan Agent Service のインストール	181

標準インストール.....	181
Scan Agent Service を使用したスキャン.....	182
第 15 章: TotalAgility の起動.....	183
TotalAgility Workspace の起動.....	183
TotalAgility Apps の起動.....	183
ログオンに関するガイダンス メモ.....	184
第 16 章: TotalAgility インストールの修復.....	185
第 17 章: TotalAgility をアンインストールする.....	186
インストール ウィザードを使用する場合.....	186
サイレント モードを使用する場合.....	186
第 18 章: TotalAgility のアップグレード.....	187
キャプチャ データの移行.....	187
キャプチャ バイナリ データ ストレージ.....	189
サイレント モードでの TotalAgility のアップグレード.....	189
アップグレード プロセス.....	190
TotalAgility コンポーネントをアップグレードする.....	190
TotalAgility データベースのアップグレード.....	191
データベースを含む TotalAgility コンポーネントをアップグレードする.....	191
キャプチャ データの移行を実行するための最新の更新の確認.....	192
データベース スクリプトを使用した TotalAgility データベースの手動アップグレード.....	193
レポート データベース 2.0.2 のアップグレード.....	196
サイレント モードでの TotalAgility のアップグレード.....	196
Message Connectors インスタンスのアップグレード.....	199
第 19 章: トラブルシューティング.....	200
TotalAgility AppPool が存在する.....	200
ソフトウェア更新プログラムのダウンロード.....	200
IPv4 および IPv6 環境でのインストールの失敗.....	200
スキャン後に Workspace にイメージが表示されない.....	201
Transformation Designer プロジェクトのインポート中の例外.....	202
TotalAgility のヘルプで検索機能が機能しない.....	202
(405) 許可されていないメソッド エラー.....	203
MIME のタイプ エラー.....	203

序文

このガイドには、以下の内容を含む Kofax TotalAgility 7.10.0 のインストール手順、およびこのバージョンへのアップグレード手順が記載されています。

- Kofax TotalAgility のインストールに役立つ準備、決定、注意事項、設定、およびヒント。
- サイレント モードで、またはクライアント/サーバー構成やスタンドアロン構成でウィザードを使用して Kofax TotalAgility をインストールする手順。
- Kofax TotalAgility を使用した、その他の Kofax 製品のインストールに関する情報。
- 各構成ファイルと設定を個別に手動で更新する代わりに、インストール後にさまざまな TotalAgility 構成ファイルを更新する手順に関する情報。

ソフトウェアをインストールする前に、このガイドを完全に参照してください。

関連ドキュメント

Kofax TotalAgility のドキュメント セット一式は[製品ドキュメント ページ](#)から入手できます。

このガイドのほか、ドキュメント セットには次の項目が含まれています。

- 『Kofax TotalAgility 前提条件ガイド』: TotalAgility をインストールするためのシステム要件、前提条件ユーティリティの実行手順、さまざまなインストール タイプに応じたソフトウェア チェックリストが含まれています。
- Kofax TotalAgility 統合サーバー インストール ガイド: Kofax 統合サーバーをインストールし、他の製品と統合する方法について説明します。
- Kofax TotalAgility オンプレミス マルチテナント インストール ガイド: オンプレミス マルチテナントシステムのインストールおよび構成方法について説明します。
- Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド: 構成ユーティリティを使用して、さまざまなタイプのインストールおよび展開の各種構成ファイルの設定を更新する方法について説明します。
- 『Kofax TotalAgility 管理者ガイド』: TotalAgility のインストールの構成とメンテナンスに関する情報を管理者に提供します。
- 『Kofax TotalAgility アーキテクチャ ガイド』: オンプレミス、オンプレミス マルチテナンシー、および Azure 環境へのさまざまな展開を含む、TotalAgility アーキテクチャの概要について説明します。
- Kofax TotalAgility ベストプラクティス ガイド: TotalAgility を使用する場合に、パフォーマンス、コスト、メンテナンス、可用性、およびセキュリティを改善するために従う必要があるベストプラクティスについて説明します。
- 『Kofax TotalAgility 機能ガイド』: TotalAgility の機能の概要を示します。

- 『Kofax TotalAgility Migration Guide』 (TotalAgility 移行ガイド): 異なるバージョンからの TotalAgility のアップグレードおよびアップグレード後の構成に関する情報を提供します。
- 『Kofax TotalAgility のヘルプ』: TotalAgility を使用した、ビジネス ジョブとケースの設計、リソースの割り当て、フォームの作成、外部アプリケーションとの統合などに関する詳細を提供します。
- Kofax TotalAgility Workspace のヘルプ: Workspace を使用してアクティビティ、ジョブ、およびリソースを管理する方法について説明します。
- Kofax TotalAgility オンプレミス マルチテナント システムのヘルプ: TotalAgility オンプレミス マルチテナント システムを使用してテナントを作成および管理する方法について説明します。
- 『Kofax TotalAgility Web Capture コントロールのヘルプ』: Web Capture コントロールを使用した、複数ページのドキュメントの作成、新しいフォルダでの新しいドキュメントの作成、誤ってスキャンされたページの削除などに関する詳細を提供します。また、Web Capture コントロール ツールバーで使用可能なボタンについても説明します。
- *Kofax Analytics for TotalAgility* 製品機能ガイド: ワークフローを通過するデータの追跡、プロセスとリソースの有効性の分析、ビジネス上の問題への対処に役立つダッシュボードの概要について説明します。
- 『Kofax TotalAgility テーブル』: Kofax Analytics for TotalAgility で使用されている Kofax TotalAgility のテーブルおよびフィールドについて説明します。
- Kofax 製品からの移行ガイド: TotalAgility ファイルと Kofax Transformation Modules のプロジェクトを TotalAgility に移行する手順の情報を示します。

オフライン ドキュメント

オフライン ドキュメントが必要な場合は、Kofax TotalAgilityDocumentation7.10.0_EN.zip や Kofax TotalAgilityDocumentation7.10.0_DE.zip など、言語ごとに用意された zip ファイルを [Kofax フルファイルメント サイト](#) から個別にダウンロードできます。

詳細については、「[TotalAgility ドキュメントへのアクセス](#)」を参照してください

トレーニング

Kofax は、製品を最大限に活用するために役立つクラスルーム トレーニングおよびオンライン トレーニングを提供しています。トレーニング コースとスケジュールの詳細については、Kofax の Web サイトにある [Kofax Education Portal](#) (Kofax エデュケーション ポータル) にアクセスしてください。

Kofax 製品のヘルプの入手

[[Kofax Knowledge Base \(Kofax ナレッジベース\)](#)] リポジトリにある記事の内容は定期的に更新され、Kofax 製品の最新情報について参照できます。製品に関してご不明の点がある場合は、ナレッジベースで情報を検索することをお勧めします。

[[Kofax Knowledge Base \(Kofax ナレッジベース\)](#)] の参照:

1. [Kofax Web サイト](#) にアクセスして、ホームページで [サポート] を選択してください。
2. [サポート] ページが表示されたら、[カスタマーサポート] > [ナレッジベース] を選択してください。

i [Kofax Knowledge Base (Kofax ナレッジベース)] は Google Chrome、Mozilla Firefox または Microsoft Edge 向けに最適化されています。

[Kofax Knowledge Base (Kofax ナレッジベース)] は以下の内容を提供します。

- 強力な検索機能で必要な情報をすぐに見つけることができます。

[Search (検索)] ボックスに目的の語句を入力し、検索アイコンをクリックしてください。

- 製品情報、設定の詳細、リリース情報などのドキュメント。

[Kofax Knowledge Base (Kofax ナレッジベース)] のホームページをスクロールして、製品ファミリーを見つけます。目的の製品ファミリー名をクリックして、関連記事の一覧を表示します。一部の製品ファミリーの場合は、関連記事を表示するために Kofax Portal (Kofax ポータル) の有効なログイン情報を入力する必要があります。

Knowledge Base (ナレッジベース) のホームページで以下が可能です。

- Kofax Community (Kofax コミュニティ) へのアクセス (全カスタマー)。

ページ上部の **[Community (コミュニティ)]** リンクをクリックしてください。

- Kofax Customer Portal (Kofax カスタマー ポータル) へのアクセス (一部のカスタマーのみ)。

ページ上部の **[Support (サポート)]** リンクをクリックしてください。[Customer & Partner Portals Overview (カスタマーとパートナー ポータル概要)] が表示されたら、**[Log in to the Customer Portal (カスタマー ポータルにログイン)]** をクリックします。

- Kofax Partner Portal (Kofax パートナー ポータル) へのアクセス (一部のパートナーのみ)。

ページ上部の **[Support (サポート)]** リンクをクリックしてください。[Customer & Partner Portals Overview (カスタマーとパートナー ポータル概要)] が表示されたら、**[Log in to the Partner Portal (パートナー ポータルにログイン)]** をクリックします。

- Kofax サポート コミットメント、ライフサイクル ポリシー、電子フルフィルメントの詳細、セルフサービス ツールへのアクセス。

[General Support (一般サポート)] セクションに移動し、**[Support Details (サポートの詳細)]** をクリックし適切なタブを選択します。

第1章

インストールの計画

サポートされるオペレーティング システムおよびその他のシステム要件については、[製品ドキュメントページ](#)サイトの『Kofax TotalAgility 技術仕様』ドキュメントを参照してください。このドキュメントは定期的に更新されます。TotalAgility 製品を適切に使用するためには、このドキュメントを注意深くお読みください。

インストールを続行する前に、これらの重要な注意事項を確認してください。

- TotalAgility をインストールする際のシステム要件、前提条件ユーティリティの実行手順、およびさまざまなインストール タイプのソフトウェア チェックリストに関する情報を表示するには、Kofax フルフィルメント サイトから Kofax TotalAgility 前提条件ガイドをダウンロードします。
- ソリューションに複数の Kofax 製品が含まれている場合は、『[Kofax 技術仕様](#)』ドキュメントを参照してください。
- TotalAgility のライセンス キーを、アカウント マネージャーまたは Kofax サポートから入手します。
- TotalAgility インストール ZIP ファイルを抽出する前に、ファイル プロパティ ウィンドウでファイルのブロックを解除します。
- TotalAgility サーバーを異なるタイムゾーンで実行すると問題が発生する可能性があるため、同じタイムゾーンで実行する必要があります。
- TotalAgility 7.10.0 に接続する Kofax Transformation Designer のインストールをアップグレードします。
- TotalAgility に含まれる VRS Elite ライセンスの数は限定されています。VRS で使用する予定のスキナーの数によっては、追加のライセンスを購入する必要があります。スキナーの VRS 認定およびライセンス要件を確認するには、Kofax Scanner Configurator を参照してください。

ユーティリティ

次のユーティリティは、TotalAgility インストール メディアに収録されています。

- **前提条件ユーティリティ:** TotalAgility をインストールする前にこのユーティリティを使用して、必要なすべてのソフトウェアがコンピュータにインストールされていることを確認します。詳細については、『[Kofax TotalAgility 前提条件ガイド](#)』を参照してください。
- **構成ユーティリティ:** TotalAgility をインストールした後にこのユーティリティを実行して、各ファイルを個別に編集するのではなく、複数の構成ファイルの設定を一度に変更または更新します。『[Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド](#)』を参照してください。
- **EvrCheck ユーティリティ:** このユーティリティを実行して、eVRS 設定が適用された後のイメージの外観をテストします。詳細については、『[EVRCheck ユーティリティの実行](#)』を参照してください。
- **Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe:** このユーティリティを使用して、実行可能ファイルの構成ファイルを暗号化および復号化します。『[TotalAgility 構成ファイルの暗号化および復号化](#)』を参照してください。

ライセンス プロキシ

ライセンス サーバーに VRS ステーションまたはリンクされた TotalAgility サーバーから直接アクセスできない場合は、TotalAgility ライセンス プロキシを使用します。アクセスできない原因としては、セキュリティ制限または Azure の使用などが考えられます。ライセンス プロキシを使用すると、ライセンス サーバーを直接アドレス指定するのではなく、TotalAgility Web サービスを通して TotalAgility ライセンス構成を使用できます。

ライセンス プロキシは、Microsoft Azure クラウドなど、複数のネットワークが論理的に分割されているネットワーク トポロジにも役立ちます。ライセンス プロキシを使用すると、ネットワーク A のコンピュータがネットワーク B の TotalAgility ライセンス サーバーを使用できるようになります。ライセンス プロキシは、ライセンス サーバーと通信する際に TotalAgility Web サービス (HTTP/HTTPS 経由) を使用します。ライセンス サーバーとの間で HTTP/HTTPS トラフィックを送受信するには、ライセンス プロキシ コンピュータのインターネット接続が機能している必要があります。

「[TotalAgility ライセンス プロキシのインストール](#)」を参照してください。

ライセンス情報

このセクションでは、ライセンスの詳細について説明します。

同時ユーザー ライセンス

同時ユーザー モデルでは、多くのユーザーが同時にシステムにログインできます。各ユーザー セッションは 1 つのライセンスを消費します。たとえば、1 人のユーザーが TotalAgility Designer と TotalAgility Workspace に同時にログインするか、ユーザーが Internet Explorer と Chrome など 2 つのブラウザで Designer にログインすると、ユーザーは 2 つの同時ライセンスを消費します。ユーザーがセッションからログオフすると、ライセンスはライセンス サーバーによって自動的に解放されます。

同時ユーザーの数が最大数に達すると、システムは使用可能な予約済みライセンスを自動的に確認します。予約済みライセンスが利用可能な場合は、新しいユーザーがログオンでき、利用可能な予約済みライセンスの数が 1 つ減ります。予約済みライセンスを管理する際は、次の事項に留意してください。

- 予約済みライセンスは、ライセンスの使用を開始してから 7 日後に有効期限が切れます。
- 各予約済みライセンスは、12 か月の間に 2 回のみ使用できます。

同時ログオンの数が上限に達した後でユーザーがログオンを試みたとき、予約済みライセンスがない場合は、システムによってエラー メッセージが表示され、ユーザーはログオンできません。

予約済みライセンスの有効期限が切れると、TotalAgility Designer と TotalAgility Workspace にエラー メッセージが表示されます。

TotalAgility でライセンスをアクティブ化する

ライセンスがアクティブ化されると、ライセンス期間が開始されます。そのため、インストール時にはアクティベーションをスキップし、TotalAgility を使用する準備ができてからアクティブ化することができます。

TotalAgility オンプレミスでライセンスをアクティブ化する

TotalAgility に初めてログオンしたとき、ライセンス アクティベーションがまだの場合は、[ライセンス アクティベーション] ウィンドウが開きます。

1. [ライセンス アクティベーション] ウィンドウで [次へ] をクリックして、[ライセンス サーバー] と [ポート番号] のデフォルト値を受け入れるか、新しい値を入力します。
2. [ライセンス サーバーの設定] をクリックして、情報を保存します。
3. 詳細な手順については、「標準インストールを実行する」の「ライセンス サーバーをアクティブ化する」の手順を参照してください。

❗ ライセンスの有効化で問題が生じた場合は、<http://www.Kofax.com/support/tools/> の Kofax サポートにお問い合わせください。

自動回復

TotalAgility のインストール後、サービス エラーが発生した場合は自動的に再起動するように Kofax ライセンス サーバー サービスを手動で構成することができます。

1. **Service Control Manager** に移動します。
2. Kofax ライセンス サーバー サービスのプロパティを編集します。
3. 回復 タブに移動します。
4. 1 回目、2 回目、およびそれ以降の失敗後にサービスがどのように応答するかを指定するオプションを構成します。

変更を有効にするためにサービスを再起動する必要はありません。

❗ この構成は、コマンドラインでも実行できます。例:

```
sc.exe failure KSALicenseService actions= restart/660000/  
restart/660000/"/660000 reset= 86400
```

Kofax Message Connector

Kofax Message Connector は、さまざまな電子形式のメッセージとファイルをインポートする Windows サービスです。次のいずれかの接続モードを使用して、ドキュメントを取得できます。

- ストレージ モード: 各種のソースからドキュメントを取得し、内部ストレージに保存して、Web サービス インターフェイスを使用して取得できるようにします。TotalAgility は、Message Connector Web サービス インターフェイスに接続し、インポートするドキュメントを取得します。
- ダイレクト モード: 各種のソースからドキュメントを取得し、TotalAgility に直接インポートします。

Kofax Message Connector では、次のような多くのソースからメッセージとファイルをインポートできます。

- 各種の電子メール プロトコル (SMTP、POP3、IMAP、EWS) を使用した、添付ファイルを含む電子メール メッセージ。
- FAX メッセージ (IP サーバー経由の内部 FAX、または Kofax Communication Server、RightFax、Biscom などの External fax server 経由の FAX)。

- ローカルまたはネットワーク フォルダのファイル。

Kofax Message Connector の前提条件については『Kofax TotalAgility 前提条件ガイド』を参照し、展開シナリオと詳細な構成については『Kofax TotalAgility 管理者ガイド』を参照してください。

システム制限

次のシステム制限は、64 ビット インストールに適用されます。32 ビット インストールの場合、これらの制限は異なる場合があります。

- Message Connector ストレージでのメッセージの最大サイズは、8 GB です。
- 1 台のコンピュータ上に、最大で 3 つの Message Connector インスタンスが許可されます。
- KfxConverter の場合、システム メモリ使用の上限は最大 4 GB です。

i 入力ファイルのサイズの上限は、ドキュメントのページ数、ドキュメントのタイプ、および変換のタイプによって異なる場合があります。

レポート サーバー

Kofax Reporting は、運用メトリックと監査データの履歴を一元的に保管します。Kofax Reporting に、レポート サービスやデータベースなどのコンポーネントが含まれます。

i Transformation Server はプロセス利用率が高い (99%) ため、レポート サーバーを Transformation Server と同じマシンにインストールすると **SQL** タイムアウト エラーが発生します。そのため、レポート サーバーは Transformation Server とは分けてインストールする必要があります。

Kofax VRS Elite

VRS 認定スキャナと共に使用することでスキャンの生産性とドキュメント キャプチャの効率を劇的に高める、特許取得済みのイメージ再現ソフトウェア Kofax VRS Elite を強くお勧めします。お使いのスキャナが VRS 対応製品でない場合は、TotalAgility に含まれている Kofax イメージ処理技術を使用できます。

次のようないくつかの Kofax VRS ライセンス オプションが利用可能です。

Kofax VRS Basic または Professional OEM

多くの業界標準スキャナに含まれている Kofax VRS Basic または Professional OEM ライセンスが自動的にアクティブ化されます。これらのスキャナでは、Kofax VRS Elite にアップグレードする場合にのみライセンス アクティベーションが必要です。

スタンドアロン ワークステーション

スタンドアロン ライセンスを手動でアクティブ化します。このライセンスは、無効化されるまでワークステーションに残ります。スタンドアロン ライセンスは、一度に 1 つのスキャン ステーションでのみアクティブ化できます。

TotalAgility ライセンス サーバー

TotalAgility ライセンス サーバーから同時 VRS Elite ライセンスを一元管理します。

TotalAgility ライセンス サーバーを通じて VRS ライセンスを一元管理するには、各 VRS ステーションがライセンス サーバーと直接またはライセンス プロキシを介して通信する必要があります。

Web Capture サービス

Web スキャンを有効にするには、Kofax Web Capture Service をインストールする必要があります。ブラウザからインストールする場合、インストールを完了するには管理者権限が必要です。

Kofax Web Capture Service は、デフォルトの場所またはカスタムの場所にインストールします。

Web Capture サービスは一度だけインストールする必要があり、サポートされているすべてのブラウザで Web スキャンが有効になります。

一時ファイルは、「Interprocess」フォルダの下に作成されます。ユーザーには、このフォルダへの読み取り/書き込みアクセス権が必要です。

Web Capture サービスは、マルチユーザー環境で使用することもできます。

Scan Agent Service

Scan Agent Service は、非同期アップロードが可能です。これを使用すると、スキャン オペレータは、スキャン ジョブによるアップロードが完了するまで待たずに次のバッチに進むことができます。

このサービスは、スキャン ステーションでメインの TotalAgility サイトへのネットワーク帯域幅に制限があるリモート スキャン シナリオで役立ちます。

この機能を使用すると、イメージのアップロードがバックグラウンドで実行されている間にスキャン オペレータは物理的なスキャンを通常の方法で続けることができるため、効率が向上します。

この機能は、スキャン新規ジョブ作成フォームでのみ使用できます。

スキャン新規ジョブ作成フォームでは、スキャン ステーションに Scan Agent Service がインストールされていることが検出されると、自動的に非同期イメージ アップロード モードが使用されます。それ以外の場合、すなわち Scan Agent Service が検出されないときは、同期イメージ アップロード モードが使用されます。

デバイス新規ジョブ作成フォームの場合は、すべてのイメージがアップロードされるまでプロセスが待機してから最初のアクティビティに進めるように、プロセスの最初のアクティビティに [スキャン済み] > 0 の前提条件を追加する必要があります。

第 2 章

TotalAgility のインストール

この章では、TotalAgility の 2 つのインストール方法について説明します。

- 同じ構成を使用する複数のサーバーに対する **サイレント インストール**。
- インストール ウィザードを使用した **標準インストール**。

TotalAgility には、次のいずれかのタイプのインストールを実行できます。

- データベースのみ: Kofax TotalAgility 専用のデータベース コンポーネントのみをインストールします。他のコンポーネントはインストールされません。
- データベースのアップグレード: TotalAgility がローカルにインストールされていない場合は、すべてのデータベースを最新バージョンの TotalAgility にアップグレードします。

i TotalAgility がローカルにインストールされていない場合は、バージョン TotalAgility 7.4.0 より前のデータベースのアップグレードはサポートされません。

- **Web** サーバー: 任意のアプリケーション サーバーを指定するサーバーをインストールします。デフォルトのポート以外のコンピュータに TotalAgility をインストールする場合、アプリケーション サーバーのマシン名とポート番号を入力する必要があります。たとえば、<appserver_name:82> のように入力します。Web サーバーの場合は、TotalAgility Designer と TotalAgility Workspace の SDK サービスおよびユーザー インターフェイスがインストールされます。
- アプリケーション サーバー: リモート クライアントが接続するサーバーをインストールし、Web サーバーをセットアップします。アプリケーション サーバーの場合は、コア サービスのみがインストールされ、TotalAgility Designer および Workspace のユーザー インターフェイスとそのショートカットはインストールされません。
- **Web** およびアプリケーション サーバー: 1 つのコンピュータに Web サーバーとアプリケーション サーバーをインストールします。
- リアル タイム **Transformation** サービス: リアル タイム Transformation サービスをインストールします。



- TotalAgility をインストールするには管理者アカウントが必要です。
- TotalAgility を実行するユーザーに「サービスとしてログオン」権限があることを確認してください。
- ホットキーを使用して、次の画面に移動できます。
- インストール後、各構成ファイルを個別に編集するか、構成ユーティリティを実行して、構成設定を変更できます。構成ユーティリティは、インストール メディアに収録されています。構成設定を変更する各サーバーに、ユーティリティを手動でコピーする必要があります。『Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド』を参照してください。

サイレント インストールの実行

TotalAgility をコマンドラインまたはバッチ ファイルから自動的にインストールするには、TotalAgility サイレント インストールを使用します。サイレント インストール ファイルを編集すると、ユーザーの操作なしでインストールが継続されます。

こちらも参照してください。

- データベースのみのサイレント インストール
- データベースをアップグレードするためのサイレント インストール
- 同じサーバーへの Web およびアプリケーションのサイレント インストール
- 別の Web サーバーまたはアプリケーション サーバーへのサイレント インストール
- リアルタイム Transformation Server のサイレント インストール

データベースのみのサイレント インストール

1. TotalAgility インストール メディアの \\TotalAgilityInstall に移動し、テキスト エディタを使用して SilentInstallConfig.xml を開きます。
2. SilentInstallConfig.xml で、次のパラメータを更新します。

パラメータ	デフォルト値	説明
DatabaseInformation		
InstallDatabases	true	データベースをインストールします。 データベースのインストールを無視するには、false に設定します。
OverwriteIfExisting	false	true に設定すると、既存のデータベースが上書きされます。 ① 既存データベースの詳細が有効でない場合、またはデータベースが存在しない場合は、エラーが発生し、インストールが失敗します。
Main Database		
DatabaseName	TotalAgility	メイン データベースの名前を指定します。

パラメータ	デフォルト値	説明
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>① リモート データベースと一緒に TotalAgility をインストールする場合は、データベースが存在するマシンのサーバー名 (<Server>servername</Server>) を使用して <code>SilentInstallConfig.xml</code> を更新します。 インストール中にデータベースとの接続に使用されるアカウントには、DB_CREATOR 権限が必要です。</p> </div>
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 資格情報を使用します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	新しいデータベースを作成するには、true に設定します。
Audit Database		
DatabaseName	TotalAgility	監査データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
SqlScript		
CreateScript	Create_Audit.sql	デフォルトを受け入れます。
DropScript	Drop_Audit.sql	デフォルトを受け入れます。
InitializeScript	Initialise_Audit.sql	デフォルトを受け入れます。
ConversionScript	Convert_Audit.SQL	SQL に変更がある場合のみ、パッチに必要です。
Security		

パラメータ	デフォルト値	説明
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 資格情報を使用します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	新しいデータベースを作成するには、true に設定します。
Finished Jobs Database		
DatabaseName	TotalAgility	終了済みジョブ データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
SqlScript		
CreateScript	Create_Archive.sql	デフォルトを受け入れます。
DropScript	Drop_Archive.sql	デフォルトを受け入れます。
Conversion Script	Convert_Archive.SQL	SQL に変更がある場合のみ、パッチに必要です。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 資格情報を使用します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	新しいデータベースを作成するには、true に設定します。
DataLayer - TotalAgility_Documents Database		
DatabaseName	TotalAgility_Documents	TotalAgility_Documents データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
SqlScript		
CreateScript	Repository2012_TablesCreate .sql	デフォルトを受け入れます。
DropScript	Repository2012_Drop.sql	デフォルトを受け入れます。

パラメータ	デフォルト値	説明
Conversion Script	Repository2012_Convert.SQL	SQL に変更がある場合のみ、パッチに必要です。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 資格情報を使用するには、true に設定します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。 それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	新しいデータベースを作成するには、true に設定します。
Reporting_Analytics Database		
DatabaseName	TotalAgility_Reporting	TotalAgility_Reporting データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
SqlScript		
CreateScript	Kofax.Reporting.Analytics. SQL_TablesCreate.sql	デフォルトを受け入れます。
DropScript	Kofax.Reporting.Analytics. SQL_Drop.sql	デフォルトを受け入れます。
InitializeScript	Kofax.Reporting.Analytics. SQL_Initialize.sql	デフォルトを受け入れます。
Conversion Script	空	SQL の変更が必要な場合のみ、パッチに必要です。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 資格情報を使用するには、true に設定します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。 それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	新しいデータベースを作成するには、true に設定します。
Reporting_Staging Database		
DatabaseName	TotalAgility_Reporting_Staging	TotalAgility_Reporting_Staging データベースの名前を指定します。

パラメータ	デフォルト値	説明
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
SqlScript		
CreateScript	Kofax.Reporting.Analytics. Staging.SQL_TablesCreate.sql	デフォルトを受け入れます。
DropScript	Kofax.Reporting.Analytics. Staging.SQL_Drop.sql	デフォルトを受け入れます。
InitializeScript	Kofax.Reporting.Analytics. Staging.SQL_Initialize.sql	デフォルトを受け入れます。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 資格情報を使用します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	新しいデータベースを作成するには、true に設定します。
Install Info		
InstallType	Both	値を DatabaseOnly に変更します。 ① データベースのみをインストールする場合、サービスは無視され、CoreworkerService、ImportService、ExportService などのサービスはインストールされません。
<SiteRoot>	デフォルトの Web サイト	標準ポート (80 および 443) 以外の非標準ポートを使用するカスタム サイトの下に TotalAgility をインストールします。 たとえば、ポート番号 85 を使用する IIS の下に「testsite」というカスタム サイトを作成します。
KTAResourceName	空	インストール時に作成される TotalAgility ユーザーのユーザー名を指定します。
KTAResourcePassword	空	インストール時に作成される TotalAgility ユーザーのパスワード (6 文字以上の英数字) を指定します。

パラメータ	デフォルト値	説明
RunAsSystemAccount	false	<p>true に設定すると、IIS アプリケーション プールおよび Kofax TotalAgility サービスは LocalSystem アカウントとして実行されます。</p> <p>i このパラメータを True に設定した場合でも、ユーザーは TotalAgility のインストール時に [Kofax TotalAgility リソース資格情報] ウィンドウで指定した資格情報を使用してログオンできません。</p>

3. ファイルを保存して閉じます。
4. コマンドプロンプトで、コマンドラインを Setup.exe ファイルのルート ディレクトリに変更します。
5. Setup.exe /Silent を実行します。
データベースは自動的にインストールされます。
エラーを報告するログ ファイルが生成されます (エラーがある場合)。
インストールの成功または失敗は、イベント ログに記録されます。
インストールを自動化するときに、コマンドラインから setup.exe を実行するか、サイレントインストールとして setup.exe を実行すると、次の情報を示すコードが 1 つ返されます。
 - 0 = 成功
 - 1 = 警告付きで成功
 - 2 = 失敗

こちらも参照してください。

- データベースをアップグレードするためのサイレント インストール
- 同じサーバーへの Web およびアプリケーションのサイレント インストール
- 別の Web サーバーまたはアプリケーション サーバーへのサイレント インストール
- リアルタイム Transformation Server のサイレント インストール

データベースをアップグレードするためのサイレント インストール

1. TotalAgility インストール メディアの \\TotalAgilityInstall に移動し、テキスト エディタを使用して SilentInstallConfig.xml を開きます。
2. SilentInstallConfig.xml で、次のパラメータを更新します。

パラメータ	デフォルト値	説明
<ServicesInstallOptions>		

パラメータ	デフォルト値	説明
	すべてのサービスに対して true	すべてのサービスに対して false に設定します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>i TotalAgility データベースをアップグレードする場合、Core Worker サービス、レポート サービス、ライセンス サービス、Transformation Server などのサービスは無視されて、インストールされません。</p> </div>
DatabaseInformation		
InstallDatabases	true	データベースのインストールを無視するには、false に設定します。true に設定すると、データベースがインストールされます。
OverwriteIfExisting	true	true に設定すると、既存のデータベースが上書きされます。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>i 既存データベースの詳細が有効でない場合、またはデータベースが存在しない場合は、エラーが発生し、インストールが失敗します。</p> </div>
Main Database		
DatabaseName	TotalAgility	メイン データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>i リモート データベースと一緒に TotalAgility をインストールする場合は、データベースが存在するマシンのサーバー名 (<Server>servername</Server>) を使用して SilentInstallConfig.xml を更新します。インストール中にデータベースとの接続に使用されるアカウントには、DB_CREATOR 権限が必要です。</p> </div>
Security		

パラメータ	デフォルト値	説明
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 資格情報を使用します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	デフォルトを受け入れます。 true に設定すると、新しいデータベースが作成されます。
Audit Database		
DatabaseName	TotalAgility	監査データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
SqlScript		
CreateScript	Create_Audit.sql	デフォルトを受け入れます。
DropScript	Drop_Audit.sql	デフォルトを受け入れます。
InitializeScript	Initialise_Audit.sql	デフォルトを受け入れます。
ConversionScript	Convert_Audit.SQL	SQL に変更がある場合のみ、パッチに必要です。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 資格情報を使用します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	新しいデータベースを作成するには、true に設定します。
終了済みジョブ データベース		
DatabaseName	TotalAgility	終了済みジョブ データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
SqlScript		

パラメータ	デフォルト値	説明
CreateScript	Create_Archive.sql	デフォルトを受け入れます。
DropScript	Drop_Archive.sql	デフォルトを受け入れます。
Conversion Script	Convert_Archive.SQL	SQLに変更がある場合のみ、パッチに必要です。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 資格情報を使用します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	新しいデータベースを作成するには、true に設定します。
DataLayer - TotalAgility_Documents Database		
DatabaseName	TotalAgility_Documents	TotalAgility_Documents データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
SqlScript		
CreateScript	Repository2012_TablesCreate.sql	デフォルトを受け入れます。
DropScript	Repository2012_Drop.sql	デフォルトを受け入れます。
Conversion Script	Repository2012_Convert.SQL	SQLに変更がある場合のみ、パッチに必要です。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 資格情報を使用するには、true に設定します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	新しいデータベースを作成するには、true に設定します。
Reporting_Analytics Database		

パラメータ	デフォルト値	説明
DatabaseName	TotalAgility_Reporting	TotalAgility_Reporting データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
SqlScript		
CreateScript	Kofax.Reporting.Analytics. SQL_TablesCreate.sql	デフォルトを受け入れます。
DropScript	Kofax.Reporting.Analytics. SQL_Drop.sql	デフォルトを受け入れます。
InitializeScript	Kofax.Reporting.Analytics. SQL_Initialize.sql	デフォルトを受け入れます。
Conversion Script	空	SQL の変更が必要な場合のみ、パッチに必要です。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 資格情報を使用するには、true に設定します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	新しいデータベースを作成するには、true に設定します。
Reporting_Staging Database		
DatabaseName	TotalAgility_Reporting_Staging	TotalAgility_Reporting_Staging データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
SqlScript		
CreateScript	Kofax.Reporting.Analytics. Staging.SQL_TablesCreate.sql	デフォルトを受け入れます。
DropScript	Kofax.Reporting.Analytics. Staging.SQL_Drop.sql	デフォルトを受け入れます。
InitializeScript	Kofax.Reporting.Analytics. Staging.SQL_Initialize.sql	デフォルトを受け入れます。
Security		

パラメータ	デフォルト値	説明
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 資格情報を使用します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	新しいデータベースを作成するには、true に設定します。
Install Info		
InstallType	Both	値を UpgradeDatabasesOnly に変更します。 すべてのデータベースが TotalAgility の最新バージョンにアップグレードされます。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p>i TotalAgility がローカルにインストールされていない場合は、TotalAgility 7.4.0 より前のデータベースのアップグレードはサポートされません。</p> </div>
<SiteRoot>	デフォルトの Web サイト	標準ポート (80 および 443) 以外の非標準ポートを使用するカスタムサイトの下に TotalAgility をインストールします。 たとえば、ポート番号 85 を使用する IIS の下に「testsite」というカスタムサイトを作成します。
KTAResourceName	空	インストール時に作成される TotalAgility ユーザーのユーザー名を指定します。
KTAResourcePassword	空	インストール時に作成される TotalAgility ユーザーのパスワード (6 文字以上の英数字) を指定します。

パラメータ	デフォルト値	説明
RunAsSystemAccount	false	<p>true に設定すると、IIS アプリケーション プールおよび Kofax TotalAgility サービスは LocalSystem アカウントとして実行されます。</p> <p>i このパラメータを True に設定した場合でも、ユーザーは TotalAgility のインストール時に [Kofax TotalAgility リソース資格情報] ウィンドウで指定した資格情報を使用してログオンできます。</p>

3. ファイルを保存して閉じます。
4. コマンド プロンプトで、コマンド ラインを Setup.exe ファイルのルート ディレクトリに変更します。
5. Setup.exe /Silent を実行します。
データベースは自動的にインストールされます。
エラーを報告するログ ファイルが生成されます (エラーがある場合)。
インストールの成功または失敗は、イベント ログに記録されます。
インストールを自動化するときに、コマンドラインから setup.exe を実行するか、サイレント インストールとして setup.exe を実行すると、次の情報を示すコードが 1 つ返されます。
 - 0 = 成功
 - 1 = 警告付きで成功
 - 2 = 失敗

こちらも参照してください。

- データベースのみのサイレント インストール
- 同じサーバーへの Web およびアプリケーションのサイレント インストール
- 別の Web サーバーまたはアプリケーション サーバーへのサイレント インストール
- リアルタイム Transformation Server のサイレント インストール

同じサーバーへの Web およびアプリケーションのサイレント インストール

次のパラメータを Web/アプリケーション サーバー インストール用に更新します。

1. TotalAgility インストール メディアの \\TotalAgilityInstall に移動し、テキスト エディタを使用して SilentInstallConfig.xml を開きます。
2. SilentInstallConfig.xml で、次のパラメータを更新します。

i このガイドのコードをコピーして貼り付ける場合、改行を修正してください。

パラメータ	デフォルト値	説明
ServicesInstallOptions		

パラメータ	デフォルト値	説明
CoreWorkerService	true	Core Worker サービスをインストールします。必要に応じて、false に設定できます。
ImportService	true	インポート サービスをインストールします。必要に応じて、false に設定できます。
ExportService	true	エクスポート サービスをインストールします。必要に応じて、false に設定できます。
ReportingService	true	レポート サービスをインストールします。必要に応じて、false に設定できます。
LicenseService	true	ライセンス サービスをインストールします。必要に応じて、false に設定できます。
TransformationService	true	Transformation サービスをインストールします。必要に応じて、false に設定できます。
CoreServices	true	コア サービスをインストールします。必要に応じて、false に設定できます。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>❗ False に設定すると、アプリケーション サーバーに Transformation Server のみがインストールされるため、IIS の前提条件は不要です。Transformation Server のスタンドアロン インストールには、IIS は必要ありません。</p> </div>
LicenseServer		
LicenseServerName	localhost	ライセンス サーバーの名前を入力します。
PortNumber	3581	この値は変更しないでください。
SerialNumber	空	TotalAgility のシリアル番号を入力します。
ProductCode	空	TotalAgility の製品コードを入力します。
SkipLicense	true	ライセンスのアクティベーションをスキップします。 ライセンスのアクティベーションを行うには、false に設定します。TotalAgility をインストールするには、シリアル番号と製品コードを入力する必要があります。
InstallDirectory	C:\Program Files\ Kofax\TotalAgility	TotalAgility のインストール先ディレクトリを指定します。

パラメータ	デフォルト値	説明
DatabaseInformation		
InstallDatabases	true	データベースをインストールします。 データベースのインストールを無視するには、false に設定します。
OverwriteIfExisting	true	true に設定すると、既存のデータベースが上書きされます。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>i 既存データベースの詳細が有効でない場合、またはデータベースが存在しない場合は、エラーが発生し、インストールが失敗します。</p> </div>
ScriptsLocation	C:\ Program Files \ Kofax \ TotalAgility \ DatabaseScripts \ SQL Server \ \	スクリプトをインストールするディレクトリを指定します。
Main Database		
DatabaseName	TotalAgility	メイン データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>i リモート データベースと一緒に TotalAgility をインストールする場合は、データベースが存在するマシンのサーバー名 (<Server>servername</Server>) を使用して SilentInstallConfig.xml を更新します。 インストール中にデータベースとの接続に使用されるアカウントには、DB_CREATOR 権限が必要です。</p> </div>
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 資格情報を使用します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	新しいデータベースを作成するには、true に設定します。
Audit Database		

パラメータ	デフォルト値	説明
DatabaseName	TotalAgility	監査データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 資格情報を使用します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	新しいデータベースを作成するには、true に設定します。
終了済みジョブ データベース		
DatabaseName	TotalAgility	終了済みジョブ データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 資格情報を使用します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	新しいデータベースを作成するには、true に設定します。
Forms	空	
DataLayer - TotalAgility_Documents Database		
DatabaseName	TotalAgility_Documents	TotalAgility_Documents データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。
Security		

パラメータ	デフォルト値	説明
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 資格情報を使用します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	新しいデータベースを作成するには、true に設定します。
Reporting_Analytics Database		
DatabaseName	TotalAgility_Reporting	
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 資格情報を使用します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	新しいデータベースを作成するには、true に設定します。
Reporting_Staging Database		
DatabaseName	TotalAgility_Reporting_スレージング	TotalAgility_Reporting_Staging データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 資格情報を使用します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	新しいデータベースを作成するには、true に設定します。

パラメータ	デフォルト値	説明
Identity Information		
UserName	ユーザー名	TotalAgility サービスの Windows サービス アカウントのユーザー名を入力します。
Password	パスワード	TotalAgility サービスの Windows サービス アカウントのパスワードを入力します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>i サービス アカウント名の末尾が \$(ドル) である場合は、パスワードを指定しないでください。</p> </div>
RunAsSystemAccount	false	このパラメータを true に設定した場合: <ul style="list-style-type: none"> アプリケーション プールおよび Kofax TotalAgility サービスは LocalSystem アカウントを使用して作成されます。 ユーザーは TotalAgility のインストール時に [Kofax TotalAgility リソース資格情報] ウィンドウで指定した資格情報を使用してログオンできます。 データベースは、SQL 認証を使用して作成する必要があります。
RunAsNetworkServiceAccount	false	true に設定すると、IIS アプリケーション プールおよび Kofax TotalAgility サービスは NT Authority\Network Service ユーザー名として実行されます。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>i Managed Service Account (gMSA) を利用する Docker インストールの場合のみ、RunAsNetworkServiceAccount を True に設定します。</p> </div>
Prerequisite Info		
ValidOS	true	オペレーティング システムが有効かどうかを確認します。
SQLServerInstalled	true	SQL Server がインストールされているかどうかを確認するには、true に設定します。
SQLClientInstalled	false	SQL クライアントがインストールされているかどうかを確認するには、true に設定します。
IISInstalled	true	IIS がインストールされているかどうかを確認します。
SslEnabled	false	https を有効にするには、true に設定します。「 HTTPS 通信用の構成 」を参照してください。

パラメータ	デフォルト値	説明
Install Info		
InstallAction	Install	デフォルトを受け入れます。
InstallMode	Silent	デフォルトを受け入れます。
InstallType	Both	デフォルトを受け入れます。
AuthenticationMode	Windows	認証モードを Windows に設定します。
Transformation Server Info		
<p>i TransformationService が true の場合は、これらの設定を構成します。</p>		
TSConfigFile	空	<p>構成する Transformation Server の名前と共に .ini ファイルのパスを指定します。</p> <p>i .ini ファイルを指定すると、TransformationServerInfo の設定は .ini ファイルから取得されます。SilentInstallConfig で指定されたパラメータは無視されます。パラメータについては、.INI ファイルの例を参照してください。</p>
LogFile	C:\Program Files\Kofax\TotalAgility\TransformationServer\Tslog.txt	<p>Transformation Server ログファイルが作成される場所を設定します。ログファイルのパスが有効でない場合、Transformation Server のインストールは失敗します。</p> <p>例:</p> <pre>C:\Program Files \Kofax\TotalAgility \TransformationServer \TSLog.txt</pre>
InstallLocation	C:\Program Files\Kofax\TotalAgility\TransformationServer	別の場所にインストールするには、Transformation Server のインストール先ディレクトリを指定します。

パラメータ	デフォルト値	説明
WindowsServiceAccount	ユーザー名	<p>Transformation Server を実行するユーザーの名前を入力します。</p> <p>ドメイン ユーザーを指定するには、<ドメイン>\<ユーザー> の形式でユーザー名を入力します。</p> <p>Transformation Server は Windows 認証が使用されるすべての場所でこのアカウントを使用して認証するため、アカウントの詳細が正しいことを確認してください。例: TA データベース。</p> <p>すべての通信とリソース アクセスは、このアカウントで実行されます。したがって、Transformation Server が実行されているアカウントを、ダミー アカウントにすることはできません。</p>
WindowsServicePassword	パスワード	ユーザーのパスワードを入力します。
UseSpecificPool	false	<p>この Transformation Server をプールに追加するには、このパラメータを設定します。</p> <p>値なしを含む他の任意の値は false として扱われ、Transformation Server はプールに関係なくすべてのアクティビティを処理します。</p>
PoolName	空	<p>UseSpecificPool=true を設定した場合は、Transformation Server のプール名を入力します。</p> <p>i プール名を空のままにすると、プールに関係なく、すべてのアクティビティが処理されます。</p>
OLEnabled	true	<p>この Transformation Server インスタンスでオンライン ラーニング タスクを有効にします。</p> <p>オンライン ラーニング タスクを無効にするには、false または他の任意の値に設定します。</p> <p>i キャプチャ アクティビティのスループットを改善するために Transformation Server の複数のインスタンスがインストールされている場合、オンライン ラーニングはクラスター内の単一の Transformation Server インスタンスでのみ有効にする必要があります。</p>

パラメータ	デフォルト値	説明
WcfPort	9001	同期呼び出し (ファジー検索やプッシュされたアクティビティなど) の実行中に Transformation Server と通信するために TotalAgility で使用されるポートを入力します。
ReservedSlots	0	プッシュされたアクティビティおよび優先度の高いアクティビティ用に予約されている、この Transformation Server のスロット数を入力します。
OverrideDefSlots	空	デフォルトでは、Transformation Server は同時に機能している Transformation Server 制御プロセスのうち実際に処理を行っているものの数を、マシンの CPU コア数に基づいて判別します。 独自の値を指定するには、ここに値を入力します。
MaxSlots	0	CPUSERVER_OVERRIDE_DEF_SLOTS を true に設定した場合は、この Transformation Server の処理スロットの数を入力します。
InstallOCRAddons	1	追加の OCR エンジン (A2iA CheckReader および A2iA FieldReader) をインストールします。
EnableSyncCalls	true	同期呼び出しを有効にします。 同期呼び出しを無効にするには、false に設定します。
NlpWestern	false	true に設定されている場合は、英語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語、およびドイツ語の自然言語処理言語バンドルがインストールされます。
NlpWesternExtended	false	true に設定されている場合は、イタリア語、ルーマニア語、およびオランダ語の自然言語処理言語バンドルがインストールされます。
NlpExtended	false	true に設定されている場合は、日本語、中国語、および韓国語の自然言語処理言語バンドルがインストールされます。
IsIntegration Server	false	TotalAgility 統合サーバーをインストールするには、true に設定します。
InstallLicenseProxy	false	ライセンス プロキシをインストールするには、true に設定します。 true に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。

パラメータ	デフォルト値	説明
KTAResourceName	空	インストール時に作成される TotalAgility ユーザーのユーザー名を指定します。
KTAResourcePassword	空	インストール時に作成される TotalAgility ユーザーのパスワード (6 文字以上の英数字) を指定します。
StartServices	true	サービスを開始します。
ImportWorkspacePackage	false	Workspace パッケージをインポートするには、true に設定します。
<SiteRoot>	デフォルトの Web サイト	標準ポート (80 および 443) 以外の非標準ポートを使用するカスタム サイトの下に TotalAgility をインストールします。たとえば、ポート番号 85 を使用する IIS の下に「testsite」というカスタム サイトを作成します。
CaptureConfiguration		
CloudStorageType	SQLServer	デフォルトでは、キャプチャ データは SQL Server に保存されます。クラウドストレージタイプを、Windows Azure Blob ストレージでは「Azure」に、Amazon S3 ストレージでは「AWS」に、SQL Server とファイルシステムでは「SqlFileStream」に変更します。
AzureBlobStorageConnectionString	空	Blob ストレージ サービスに接続するためのアカウント接続文字列。
AzureBlobStorageContainerName	空	ストレージ サービスのコンテナ名。
AmazonS3AccessKey	空	Amazon S3 ストレージ サービスに接続するためのアクセス キー。
AmazonS3SecretKey	空	Amazon S3 ストレージ サービスのシークレット キー。
AmazonS3BucketName	空	ストレージ サービスのバケット名。バケットとは、データ ストレージ用の Amazon S3 の基本的なコンテナのことです。
AmazonS3RegionName	空	S3 リージョン名。
FileStreamFileGroup	空	FILESTREAM ファイル グループ名。

3. ファイルを保存して閉じます。
4. コマンド プロンプトで、コマンド ラインを Setup.exe ファイルのルート ディレクトリに変更します。

5. Setup.exe /Silent を実行します。

サイレント構成ファイルで **True** に設定されたパラメータに基づいて、次の項目がインストールされます。

- Kofax TotalAgility
- Kofax エクスポート コネクタ (KIC)
- KofaxTransformation Designer



- Transformation Designer がインストールされるのは、TotalAgility ビルド フォルダ内に TransformationDesignerInstaller.exe が含まれている場合のみです。
- ネットワーク共有から Kofax TotalAgility をインストールする場合は、ユーザーにネットワーク共有への書き込み権限があることを確認してください。この権限がない場合は、インポート コネクタが正常にインストールされません。

- Kofax エクスポート コネクタのユーティリティ
- ライセンス サービス
- Transformation Server ([TransformationService] パラメータが true に設定されていて、Transformation Server に次のパラメータが設定されている場合):
 - WindowsServiceAccount
 - WindowsServicePassword

エラーを報告するログ ファイルが生成されます。

インストールの成功または失敗は、イベント ログに記録されます。

インストールを自動化するときに、コマンドラインから setup.exe を実行するか、サイレント インストールとして setup.exe を実行すると、次の情報を示すコードが 1 つ返されます。

- 0 = 成功
- 1 = 警告付きで成功
- 2 = 失敗

.INI ファイルの例

```
TS_SERVICE_ACCOUNT=username
TS_SERVICE_PASSWORD=password
TS_USE_SPECIFIC_POOL=FALSE
TS_POOL_NAME=
TS_OL_ENABLED=TRUE
TS_WCF_PORT=9001
TS_RESERVED_SLOTS=0
TS_OVERRIDE_DEF_SLOTS=
TS_MAX_SLOTS=0
TS_ENABLE_SYNC_CALLS=TRUE
TS_MAIN_DB_CONNECTION_STRING=Server=servername;Trusted_Connection=Yes;Database=
TotalAgility;
TS_SYNCHRONOUS_ONLY=false
```

こちらも参照してください。

- [データベースのみのサイレント インストール](#)
- [データベースをアップグレードするためのサイレント インストール](#)

- 別の Web サーバーまたはアプリケーション サーバーへのサイレント インストール
- リアルタイム Transformation Server のサイレント インストール

別の Web サーバーまたはアプリケーション サーバーへのサイレント インストール

別の Web サーバーまたはアプリケーション サーバーに TotalAgility をインストールします。

アプリケーション サーバーへのサイレント インストール

次のパラメータをアプリケーション サーバー用に更新します。

1. TotalAgility インストール メディアの \\TotalAgilityInstall に移動し、テキスト エディタを使用して SilentInstallConfig.xml を開きます。
2. SilentInstallConfig.xml で、次のパラメータを更新します。
 - InstallType = ApplicationServer.
 - 他のパラメータについては、「[同じサーバーへの Web およびアプリケーションのサイレント インストール](#)」を参照してください。

i サイレント構成ファイルの **ServicesInstallOptions** セクションの値を True/False に設定して、特定のコンポーネントをインストールするかどうかを選択できます。

3. ファイルを保存して閉じます。
4. コマンド プロンプトで、コマンド ラインを Setup.exe ファイルのルート ディレクトリに変更します。
5. Setup.exe /Silent を実行します。

サイレント構成ファイルで **True** に設定されたパラメータに基づいて、次の項目がインストールされます。

- Kofax TotalAgility
- Kofax エクスポート コネクタ (KIC)
- KofaxTransformation Designer

i

- Transformation Designer がインストールされるのは、TotalAgility ビルド フォルダ内に Transformation Designer Installer.exe が含まれている場合のみです。
- ネットワーク共有から Kofax TotalAgility をインストールする場合は、ユーザーにネットワーク共有への書き込み権限があることを確認してください。この権限がない場合は、インポート コネクタが正常にインストールされません。

- Kofax エクスポート コネクタのユーティリティ
- ライセンス サービス
- Transformation Server (**[TransformationService]** パラメータが True に設定されており、Transformation Server に次のパラメータが設定されている場合):
 - WindowsServiceAccount

- WindowsServicePassword

❗ アプリケーション サーバーに Transformation サービスのみをインストールする場合は、Transformation サービスを True に設定し、Core Worker サービスを False に設定します。コア サービスを除外しない場合、TotalAgility では IIS を要件とするメッセージが表示されますが、アプリケーション サーバーに Transformation サービスをインストールするために IIS は必要ありません。

エラーを報告するログ ファイルが生成されます (エラーがある場合)。

インストールの成功または失敗は、イベント ログに記録されます。

インストールを自動化するときに、コマンドラインから setup.exe を実行するか、サイレント インストールとして setup.exe を実行すると、次の情報を示すコードが 1 つ返されます。

- 0 = 成功
- 1 = 警告付きで成功
- 2 = 失敗

Web サーバーへのサイレント インストール

1. インストール メディアの \\TotalAgilityInstall に移動し、テキスト エディタを使用して SilentInstallConfig.xml を開きます。
2. SilentInstallConfig.xml で、次のパラメータを更新します。

パラメータ	デフォルト	説明
InstallDirectory	C:\Program Files \\ TotalAgility \\ TotalAgility	TotalAgility のインストール先ディレクトリを指定します。
ApplicationServerName	デフォルトなし	アプリケーション サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。 ❗ アプリケーション サーバーが標準以外のポートにインストールされている場合は、Web サーバー上にある SilentInstallConfig.xml の <ApplicationServerName> パラメータを次のように変更する必要があります。 <pre><ApplicationServerName>FQDN:portnumber <ApplicationServerName>"</pre>
Identity Information		
UserName	ユーザー名	RunAsSystemAccount が false の場合は、TotalAgility を実行するユーザーの名前を入力します。
Password	パスワード	RunAsSystemAccount が false の場合は、TotalAgility を実行するパスワードを入力します。 ❗ サービス アカウント名の末尾が \$(ドル) である場合は、パスワードを指定しないでください。

パラメータ	デフォルト	説明
RunAsSystemAccount	false	<p>true に設定すると、IIS アプリケーション プールおよび Kofax TotalAgility サービスは LocalSystem アカウントとして実行されます。</p> <p>i このパラメータを true に設定した場合、データベースは SQL 認証を使用して作成する必要があります。</p>
RunAsNetworkService Account	false	<p>true に設定すると、IIS アプリケーション プールおよび Kofax TotalAgility サービスは NT Authority\Network Service ユーザー名として実行されます。</p> <p>i</p> <ul style="list-style-type: none"> Managed Service Account (gMSA) を利用する Docker インストールの場合のみ、RunAsNetworkServiceAccount を True に設定します。 このパラメータを true に設定した場合、データベースは SQL 認証を使用して作成する必要があります。
Prerequisite Info		
ValidOS	true	オペレーティング システムが有効かどうかを確認するには、true に設定します。
SQLServerInstalled	true	SQL Server がインストールされているかどうかを確認するには、true に設定します。
SQLClientInstalled	false	SQL クライアントがインストールされているかどうかを確認するには、true に設定します。
IISInstalled	true	IIS がインストールされているかどうかを確認するには、true に設定します。
SslEnabled	false	https を有効にするには、true に設定します。「 HTTPS 通信用の構成 」を参照してください。
Install Info		
InstallAction	Install	デフォルトを受け入れます。
InstallMode	Silent	デフォルトを受け入れます。
InstallType	Both	WebServer を入力します。
<SiteRoot>	デフォルトの Web サイト	<p>標準ポート (80 および 443) 以外の非標準ポートを使用するカスタム サイトの下に TotalAgility をインストールします。</p> <p>たとえば、ポート番号 85 を使用する IIS の下に「testsite」というカスタム サイトを作成します。</p>

3. ファイルを保存して閉じます。
4. コマンド プロンプトで、コマンド ラインを Setup.exe ファイルのルート ディレクトリに変更します。

5. Setup.exe/Silent を実行します。

Kofax TotalAgility は自動的にインストールされます。

エラーを報告するログ ファイルが生成されます (エラーがある場合)。

インストールの成功または失敗は、イベント ログに記録されます。

インストールを自動化するときに、コマンドラインから setup.exe を実行するか、サイレント インストールとして setup.exe を実行すると、次の情報を示すコードが 1 つ返されます。

- 0 = 成功
- 1 = 警告付きで成功
- 2 = 失敗

こちらも参照してください。

- [データベースのみのサイレント インストール](#)
- [データベースをアップグレードするためのサイレント インストール](#)
- [同じサーバーへの Web およびアプリケーションのサイレント インストール](#)
- [リアルタイム Transformation Server のサイレント インストール](#)

リアルタイム Transformation Server のサイレント インストール

1. TotalAgility インストール メディアの \\TotalAgilityInstall に移動し、テキスト エディタを使用して SilentInstallConfig.xml を開きます。
2. SilentInstallConfig.xml で、次のパラメータを更新します。

パラメータ	デフォルト値	説明
InstallDirectory	C:\Program Files\ Kofax \ TotalAgility	TotalAgility のインストール先ディレクトリを指定します。
DatabaseInformation		
InstallDatabases	false	データベースのインストールを無視するには、false に設定します。
OverwriteIfExisting	false	true に設定すると、既存のデータベースが上書きされます。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p>i 既存データベースの詳細が有効でない場合、またはデータベースが存在しない場合は、エラーが発生し、インストールが失敗します。</p> </div>
Main Database		
DatabaseName	TotalAgility	メイン データベースの名前を指定します。

パラメータ	デフォルト値	説明
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>i リモート データベースと一緒に TotalAgility をインストールする場合は、データベースが存在するマシンのサーバー名 (<Server>servername</Server>) を使用して SilentInstallConfig.xml を更新します。 インストール中にデータベースとの接続に使用されるアカウントには、DB_CREATOR 権限が必要です。</p> </div>
SqlScript		
CreateScript	Create_Main.SQL	デフォルトを受け入れます。
DropScript	Drop_Main.sql	デフォルトを受け入れます。
InitializeScript	Initialise_Main.sql	デフォルトを受け入れます。
ConversionScript	Convert_Main.SQL	SQL に変更がある場合のみ、パッチに必要です。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 資格情報を使用するには、true に設定します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。 それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	新しいデータベースを作成するには、true に設定します。
Audit Database		
DatabaseName	TotalAgility	監査データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。
SqlScript		
CreateScript	Create_Audit.sql	デフォルトを受け入れます。
DropScript	Drop_Audit.sql	デフォルトを受け入れます。
InitializeScript	Initialise_Audit.sql	デフォルトを受け入れます。
ConversionScript	Convert_Audit.SQL	SQL に変更がある場合のみ、パッチに必要です。

パラメータ	デフォルト値	説明
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 資格情報を使用するには、true に設定します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	新しいデータベースを作成するには、true に設定します。
終了済みジョブ データベース		
DatabaseName	TotalAgility	終了済みジョブ データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。
SqlScript		
CreateScript	Create_Archive.sql	デフォルトを受け入れます。
DropScript	Drop_Archive.sql	デフォルトを受け入れます。
Conversion Script	Convert_Archive.SQL	SQL に変更がある場合のみ、パッチに必要です。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 資格情報を使用するには、true に設定します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	新しいデータベースを作成するには、true に設定します。
DataLayer - TotalAgility_Documents Database		
DatabaseName	TotalAgility_Documents	TotalAgility_Documents データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。
SqlScript		
CreateScript	Repository2012_TablesCreate.sql	デフォルトを受け入れます。

パラメータ	デフォルト値	説明
DropScript	Repository2012_Drop.sql	デフォルトを受け入れます。
Conversion Script	Repository2012_Convert.SQL	SQL に変更がある場合のみ、パッチに必要です。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 資格情報を使用するには、true に設定します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。 それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	新しいデータベースを作成するには、true に設定します。
Reporting_Analytics Database		
DatabaseName	TotalAgility_Reporting	TotalAgility_Reporting データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。
SqlScript		
CreateScript	Kofax.Reporting.Analytics. SQL_TablesCreate.sql	デフォルトを受け入れます。
DropScript	Kofax.Reporting.Analytics. SQL_Drop.sql	デフォルトを受け入れます。
InitializeScript	Kofax.Reporting.Analytics. SQL_Initialize.sql	デフォルトを受け入れます。
Conversion Script	空	SQL の変更が必要な場合のみ、パッチに必要です。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 資格情報を使用するには、true に設定します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。 それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	新しいデータベースを作成するには、true に設定します。
Reporting_Staging Database		

パラメータ	デフォルト値	説明
DatabaseName	TotalAgility_Reporting_Staging	TotalAgility_Reporting_Staging データベースの名前を指定します。
Server	サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。
SqlScript		
CreateScript	Kofax.Reporting.Analytics. Staging.SQL_TablesCreate.sql	デフォルトを受け入れます。
DropScript	Kofax.Reporting.Analytics. Staging.SQL_Drop.sql	デフォルトを受け入れます。
InitializeScript	Kofax.Reporting.Analytics. Staging.SQL_Initialize.sql	デフォルトを受け入れます。
Conversion Script	空	SQL の変更が必要な場合のみ、パッチに必要です。
Security		
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 資格情報を使用するには、true に設定します。 false に設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。 それ以外の場合は、ユーザー名とパスワードを空白のままにします。
UserName	空	
Password	空	
NewDatabase	false	新しいデータベースを作成するには、true に設定します。
Identity Information		
UserName	ユーザー名	TotalAgility サービスの Windows サービス アカウントのユーザー名を入力します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p>i サービス アカウント名の末尾が \$ (ドル) である場合は、パスワードを指定しないでください。</p> </div>
Password	パスワード	TotalAgility サービスの Windows サービス アカウントのパスワードを入力します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p>i サービス アカウント名の末尾が \$ (ドル) である場合は、パスワードを指定しないでください。</p> </div>

パラメータ	デフォルト値	説明
RunAsSystemAccount	false	<p>true に設定すると、IIS アプリケーション プールおよび Kofax TotalAgility サービスは LocalSystem アカウントとして実行されます。</p> <p>i このパラメータを true に設定した場合、データベースは SQL 認証を使用して作成する必要があります。</p>
RunAsNetworkServiceAccount	false	<p>true に設定すると、IIS アプリケーション プールおよび Kofax TotalAgility サービスは NT Authority\Network Service ユーザー名を使用して作成されます。</p> <p>i</p> <ul style="list-style-type: none"> Managed Service Account (gMSA) を利用する Docker インストールの場合のみ、RunAsNetworkServiceAccount を True に設定します。 このパラメータを true に設定した場合、データベースは SQL 認証を使用して作成する必要があります。
Install Info		
InstallType	RTTS	<p>デフォルトを受け入れます。</p> <p>i RTTS をインストールする場合、サービスは無視されません。CoreworkerService、ImportService、ExportServiceなどのサービスはインストールされません。</p>
SslEnabled	false	<p>true に設定すると、https を有効にできます。「HTTPS 通信用の構成」を参照してください。</p>
Transformation Server Info		
TransformationService	true	<p>デフォルトを受け入れます。</p>

パラメータ	デフォルト値	説明
TSGlobalFile	デフォルトなし	<p>構成する Transformation Server の名前と共に .ini ファイルのパスを指定します。</p> <p>! .ini ファイルを指定すると、TransformationServerInfo の設定は .ini ファイルから取得されます。SilentInstallConfig で指定されたパラメータは無視されず。パラメータについては、.INI ファイルの例を参照してください。</p>
LogFile	C:\Program Files \Kofax\TotalAgility \Transformation Server \Tslog.txt	<p>Transformation Server ログファイルが作成される場所を指定します。ログファイルのパスが有効でない場合、Transformation Server のインストールは失敗します。</p> <p>例: C:\Program Files \Kofax\TotalAgility \TransformationServer \Tslog.txt</p>
InstallLocation	例: C:\Program Files (x86)\Kofax\TotalAgility\TransformationServer	Transformation Server のインストール先ディレクトリを指定します。
WindowsServiceAccount	ユーザー名	Transformation Server を実行するユーザーの名前を入力します。
WindowsServicePassword	パスワード	ユーザーのパスワードを入力します。
UseSpecificPool	false	この Transformation Server をプールに追加するには、true に設定します。プールに関係なく、Transformation Server がすべてのアクティビティを処理するように設定するには、false に設定します (または空白のままにするか、他の任意の値を割り当てます)。
PoolName	空	<p>UseSpecificPool=true を設定した場合は、Transformation Server のプール名を入力します。</p> <p>i プール名を空のままにすると、プールに関係なく、すべてのアクティビティが処理されます。</p>

パラメータ	デフォルト値	説明
OLEnabled	true	<p>この Transformation Server インスタンスでオンライン ラーニング タスクを有効にするには、true に設定します。オンライン ラーニング タスクを無効にするには、false または他の任意の値に設定します。</p> <p>i キャプチャ アクティビティのスループットを改善するために Transformation Server の複数のインスタンスがインストールされている場合、オンライン ラーニングはクラスタ内の単一の Transformation Server インスタンスでのみ有効にする必要があります。</p>
WcfPort	9001	同期呼び出し (ファジー検索やプッシュされたアクティビティなど) の実行中に Transformation Server と通信するために TotalAgility で使用されるポートを入力します。
ReservedSlots	0	プッシュされたアクティビティおよび優先度の高いアクティビティ用に予約されている、この Transformation Server のスロット数を入力します。
OverrideDefSlots	空 (false)	この Transformation Server のデフォルトの処理スロット数の上書きには、このパラメータを true に設定します。他の任意の値 (空を含む) は false として扱われ、システム構成に基づいて処理スロットのデフォルト数が自動的に設定されます。
MaxSlots	0	CPUSERVER_OVERRIDE_DEF_SLOTS を true に設定した場合は、この Transformation Server の処理スロット数を入力します。
EnableSyncCalls	true	同期呼び出しを有効にするには true に設定し、これらの呼び出しを無効にするには false に設定します。
NlpWestern	false	true に設定されている場合は、英語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語、およびドイツ語の自然言語処理言語バンドルがインストールされます。
NlpWesternExtended	false	true に設定されている場合は、イタリア語、ルーマニア語、およびオランダ語の自然言語処理言語バンドルがインストールされます。

パラメータ	デフォルト値	説明
NlpExtended	false	true に設定されている場合は、日本語、中国語、および韓国語の自然言語処理言語バンドルがインストールされます。
<InstallSynchronous>	false	Transformation Server を同期モードでインストールするには、true に設定します。 ポート番号をTransformation Server サービスに対して指定します (デフォルト: 9001)。ポート番号はアプリケーションの設定として TotalAgility Web.config ファイルに保存されます。 <pre><add key="TSExternalServicePortForSyncProcessing" value="9001" /></pre> ① デフォルトのポート番号を変更する場合は、Web.config ファイルを更新してから、Kofax TotalAgility IIS アプリケーションプールを再起動する必要があります。
StartServices	true	
<SiteRoot>	デフォルトの Web サイト	標準ポート (80 および 443) 以外の非標準ポートを使用するカスタム サイトの下に TotalAgility をインストールします。 たとえば、ポート番号 85 を使用する IIS の下に「testsite」というカスタム サイトを作成します。

3. ファイルを保存して閉じます。
4. コマンドプロンプトで、コマンドラインを Setup.exe ファイルのルート ディレクトリに変更します。
5. Setup.exe /Silent を実行します。
リアルタイム Transformation Server がインストールされます。リアルタイム Transformation サービスは、Transformation Server を同期モードでセットアップし、クライアントが呼び出すことができる TotalAgility のコア API および SDK API を構成します。
エラーを報告するログファイルが生成されます (エラーがある場合)。
インストールの成功または失敗は、イベント ログに記録されます。
インストールを自動化するときに、コマンドラインから setup.exe を実行するか、サイレントインストールとして setup.exe を実行すると、次の情報を示すコードが 1 つ返されます。
 - 0 = 成功
 - 1 = 警告付きで成功
 - 2 = 失敗

6. インストールが予測どおりに機能することを確実にするには、次の手順を実行します。
 - a. [プログラム ファイル]/Kofax/ TotalAgility/Agility.Server.Web に移動して、テキスト エディタで Web.config を開きます。
 - b. TransformationServerExternalService_Binding バインディング パラメータを見つけ、<transport ClientCredentialType> 値が Windows に設定されていることを確認します。
 - c. Web 構成ファイルを保存して、閉じます。

こちらも参照してください。

- データベースのみのサイレント インストール
- データベースをアップグレードするためのサイレント インストール
- 同じサーバーへの Web およびアプリケーションのサイレント インストール
- 別の Web サーバーまたはアプリケーション サーバーへのサイレント インストール

Message Connector の複数インスタンスのサイレント インストール

コンピュータに Message Connector のインスタンスを 3 つまでインストールできます。

1. Message Connector の最初のインスタンスをインストールするには、TotalAgility をインストールする前に、SilentInstallConfig.xml で ImportService パラメータの値を true に設定します。「同じサーバーへの Web およびアプリケーションのサイレント インストール」または「別の Web およびアプリケーション サーバーへのサイレント インストール」を参照してください。
2. Message Connector の 2 番目のインスタンスをインストールするには、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
msiexec /i <\\TotalAgility\KIC\Export\MC\MC.msi> TRANSFORMS=:I02
MSINEWINSTANCE=1 Kofax="<path>" <options>
```

ここで、<\\TotalAgility\KIC\Export\MC\MC.msi> は TotalAgility セットアップ フォルダのパスです。

<path> では、Message Connector の 2 番目のインスタンスのインストール パスを指定します。インストール時に、このパスに \KIC-ED\MC02 が追加されます。

3. Message Connector の 3 番目のインスタンスをインストールするには、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
msiexec /i <\\TotalAgility\KIC\Export\MC\MC.msi> TRANSFORMS=:I03
MSINEWINSTANCE=1 Kofax="<path>" <options>
```

ここで、<\\TotalAgility\KIC\Export\MC\MC.msi> は TotalAgility セットアップ フォルダのパスです。

<path> では、Message Connector の 3 番目のインスタンスのインストール パスを指定します。インストール時に、このパスに \KIC-ED\MC03 が追加されます。

i Message Connector の 2 番目と 3 番目のインスタンスについては、必要に応じて、<options> で次のコマンド オプションを使用します。

- /qn - サイレント インストール
- /qb - 基本的なユーザー インターフェイス (進行状況バー) を使用するサイレント インストール
- ALLUSERS=1 - すべてのユーザー向けのインストール

次のコマンドでは、TotalAgility セットアップ フォルダが C: ドライブ内にあり、Message Connector の 2 番目のインスタンスが C:\Program Files (x86)\Kofax にインストールされると想定します。

```
msiexec /i C:\TotalAgility\KIC\Export\MC\MC.msi TRANSFORMS=:I02  
MSINEWINSTANCE=1 Kofax="C:\Program Files (x86)\Kofax" /qn /norestart  
ALLUSERS=1
```

標準インストールの実行

標準インストーラ ウィザードを使用して TotalAgility をインストールできます。

選択したインストール タイプに基づいて、アプリケーション サーバーまたは Web/アプリケーション サーバーのインストール ウィザードを実行すると、次の項目がインストールされます。

- TotalAgility
- Kofax インポート コネクタ
- Transformation Designer



- Transformation Designer がインストールされるのは、TotalAgility インストール フォルダ内に TransformationDesignerInstaller.exe が含まれている場合のみです。
- ネットワーク共有から Kofax TotalAgility をインストールする場合は、ユーザーにネットワーク共有への書き込み権限があることを確認してください。この権限がない場合は、インポート コネクタが正常にインストールされません。

- Kofax エクスポート コネクタのユーティリティ
- ライセンス サービス
- レポート サービス



- レポート クライアントは、TotalAgility サーバーのインストール中に Transformation Server に自動的にインストールされます。

標準インストーラ ウィザードを使用して TotalAgility をインストールする場合、インストール オプション タイプとして [標準] または [高速] を選択できます。

- 標準インストール: TotalAgility は、インストールの種類 (データベースのみ、Web サーバー、アプリケーション サーバーなど) と指定した設定に応じてインストールされます。
- 高速インストール: TotalAgility は、すべてのデフォルト設定を使用してインストールされるため、ユーザー操作が最小限に抑えられます。高速モードでは、Web /アプリー体型サーバー、SQL Express および Transformation Server がインストールされます。TotalAgility のインストール中またはインストール後にライセンス サーバーを構成できます。

高速インストール

高速インストールを使用して、最小限のユーザー操作で TotalAgility をインストールします。

1. インストール メディアの \\TotalAgilityInstall に移動し、次のいずれかのコマンドを実行します。
 - UAC (ユーザー アカウント制御) が有効になっている場合は、Setup.exe を右クリックして 管理者として実行 を選択します。
 - UAC が有効になっていない場合は、**Setup.exe** を実行します。

インストールが開始します。

2. **[Kofax TotalAgility インストール プログラム]** ウィンドウで [次へ] をクリックし、Enter キーを押して次のウィンドウに移動します。

① セットアップを終了するには、[キャンセル] をクリックするか、Esc キーを押します。

3. **[Kofax Inc. ソフトウェア ライセンス契約書]** ウィンドウで、ライセンス契約の条項に同意し、[次へ] をクリックします。
[インストール オプション タイプ] ウィンドウが開きます。
4. [高速] を選択します。
5. TotalAgility のインストール中にライセンスの詳細を指定するには、[ライセンスをスキップ] チェックボックスをオフのままにします。
このオプションを選択して、ライセンスの詳細表示をスキップすることを確認した場合、[ライセンス] ウィンドウは表示されません。インストール後にライセンス サーバーを構成する必要があります。
6. [次へ] をクリックします。
[ライセンスをスキップ] チェックボックスをオンにしなかった場合は、[ライセンス] ウィンドウが開きます。
7. ライセンス サーバーの詳細を入力して、[次へ] をクリックします。
[資格情報] ウィンドウが開きます。
8. Kofax TotalAgility を実行するには、Windows アカウントのユーザー名とパスワードを入力します。
[インストールの進行状況] ウィンドウにインストールの進行状況が表示されます。セットアップにより、必要なファイル、データベース、およびその他の統合製品がインストールされます。
9. [終了] をクリックします。

これでインストールは完了です。インストール レポートの概要パネルを確認します。

エラー ログが作成されていないことを確認します。Setup.exe.config のシステム診断セクションにパスが定義されていない場合、デフォルトでは、エラーが発生すると、TotalAgility によって、setup.exe と同じ場所にログ ファイル **KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.log** が作成されます。ただし、<add name="KTALog" type="System.Diagnostics.TextWriterTraceListener" initializeData="[ログ ファイル パス][ログ ファイル名]" でパスを指定することにより、ログ ファイルのパスを定義できます。また、ログ ファイルがデスクトップに作成されます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。

データベースのみの標準インストール

1. インストール メディアの \\TotalAgilityInstall に移動し、次のコマンドのいずれかを実行します。
 - UAC (ユーザー アカウント制御) が有効になっている場合は、Setup.exe を右クリックして 管理者として実行 を選択します。
 - UAC が有効になっていない場合は、**Setup.exe** を実行します。

インストールが開始します。

2. **[Kofax TotalAgility インストール プログラム]** ウィンドウで **[次へ]** をクリックし、Enter キーを押して次のウィンドウに移動します。

i セットアップを終了するには、**[キャンセル]** をクリックするか、Esc キーを押します。

3. **[Kofax Inc. ソフトウェア ライセンス契約書]** ウィンドウで、ライセンス契約の条項に同意し、**[次へ]** をクリックします。
[インストール オプション タイプ] ウィンドウが開きます。
4. インストール オプションとして **[標準]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。
5. **[インストール タイプ]** ウィンドウで、**[データベースのみ]** (デフォルト: Web/アプリケーション サーバー) を選択して、**[次へ]** をクリックします。

[データベース] ウィンドウが開きます。

6. 次のいずれかを行います。
 - デフォルトでは、**[データベースのインストール]** がオンになっています。**[次へ]** をクリックして、データベースをインストールします。
 - 同じデータベースがデータベース サーバーにすでに含まれている場合、既存のデータベースを上書きするには、**[存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?]** のチェック ボックスをオンにします。**[テスト接続]** オプションが使用可能になります。**[接続のテスト]** をクリックして、データベース接続をテストします。データベースが正常に接続されたら、**[OK]** をクリックします。

i データベースの詳細が有効でない場合、またはデータベースが存在しない場合、データベースへの接続は失敗します。

7. **[次へ]** をクリックします。
[DB 接続結果] ウィンドウが開き、データベースへの接続の結果が表示されます。データベースへの接続に失敗した場合は、インストールを続行できません。**[戻る]** をクリックし、必要に応じて変更します。

i **[DB 接続結果]** ウィンドウが開くのは、前の手順で「データベースのインストール」または「存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?」のチェック ボックスがオンになっている場合のみです。

8. データベースが正常に接続されたら、[次へ] をクリックします。
[キャプチャ バイナリ データ ストレージ] ウィンドウが開きます。
9. デフォルトでは、ドキュメントのキャプチャ、.NET Store DLL、CCM Pack などのバイナリ データは TotalAgility データベースに保存されます。Amazon S3 や Windows Azure Blob ストレージなどの事前構成済みの外部クラウド データ ストレージ サービスを使用して、バイナリ データを保存および処理できます。クラウド サービスは、SQL Server のメンテナンス コストを削減し、メンテナンスを外部サービスに委任し、暗号化するのに役立ちます。

i ストレージ タイプを Azure/Amazon BLOB ストレージまたは [SQL Server とファイル システム] に変更すると、バイナリ データは選択したストレージ タイプで保存されます。ストレージ タイプを変更すると、後でオフにすることはできません。

次のいずれかのキャプチャ データ ストレージ タイプを選択します。

ストレージタイプ	説明
[SQL Server] (デフォルト)	SQL Server のキャプチャ データを格納します。
[SQL Server とファイル システム]	<p>FILESTREAM ファイル グループを保存します。</p> <p>キャプチャ ドキュメントはファイル システムに保存されます。データベースには、"FILESTREAM" と呼ばれる特定のファイルグループがあります。SQL Server データベースを使用して、ドキュメントに対してアクションを実行できます。管理者はこれらのファイル グループを作成します。これらのファイル グループが [ファイル ストレージ設定] の下に表示されるようにするには、[スタート] > [プログラム] > [SQL Server Configuration Manager] > [SQL Server のプロパティ] > [FILESTREAM] から、SQL Server Configuration Manager で FILESTREAM 機能を有効にする必要があります。</p> <p>[ファイル ストレージ設定] の下に、SQL Server Configuration Manager で構成されたファイル グループがリストされます。キャプチャ バイナリを保存するファイル グループを選択します。</p> <p>i FILESTREAM は SQL Server 認証ではサポートされていません。また、データベースが存在しない場合はサポートされません。</p>
[Windows Azure Blob ストレージ]	<p>キャプチャ データを、Azure Blob ストレージ サービスに格納します。次のクラウド アカウント設定を構成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> a. Blob ストレージ サービスに接続するための [アカウント接続文字列] を入力します。 b. ストレージ サービスの [コンテナ名] を入力します。

ストレージタイプ	説明
[Amazon S3]	<p>次のクラウド アカウント設定を構成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> [アクセス キー] を入力して、Amazon S3 ストレージ サービスに接続します。 [シークレット キー] を入力します。 [領域] リストで、アジア太平洋 (シドニー) などの定義済みの S3 地域を選択します。(デフォルト: 米国東部 (オハイオ)) [バケット名] を入力します。 バケットとは、データ ストレージ用の Amazon S3 の基本的なコンテナのことです。

10. [次へ] をクリックします。

[Kofax TotalAgility リソース 資格情報] ウィンドウが開きます。

11. インストール時に作成されるユーザーの資格情報 ([ユーザー名]、[パスワード] (6 文字以上の英数字)、および[確認]用パスワード) を入力します。
デフォルトでは、ユーザー名フィールドにはログオンしているユーザーの名前が表示されます。必要に応じて、別のユーザー名を指定できます。

12. [次へ] をクリックします。

[インストール レビュー] ウィンドウが開き、設定が表示されます。

13. 設定を確認し、[次へ] をクリックしてインストールを開始します。

[インストールの進行状況] ウィンドウにインストールの進行状況が表示されます。セットアップにより、必要なファイル、データベース、およびその他の統合製品がインストールされます。

[ライセンス] ウィンドウが開きます。

14. ライセンス サーバーに接続するには、次の手順を実行します。

- a. [ライセンス サーバー] フィールドに、ライセンス サーバーの場所を入力します。

❗ 共有ライセンス サーバーに接続するには、共有ライセンス サーバーの名前または IP アドレスを入力します。

- b. [ポート番号] フィールドに、ライセンス サーバーがリスンするポート番号を入力します。今はライセンス サーバーとの接続をスキップして、TotalAgility の起動時に接続する場合は、[スキップ] をクリックします。

15. [次へ] をクリックします。

Kofax TotalAgility の [インストール完了] ウィンドウにインストールのサマリーが表示されます。

エラー ログが作成されていないことを確認します。Setup.exe.config のシステム診断セクションにパスが定義されていない場合、デフォルトでは、エラーが発生すると、TotalAgility によって、setup.exe と同じ場所にログ ファイル **KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.log** が作成されます。ただし、<add name="KTALog" type="System.Diagnostics.TextWriterTraceListener" initializeData="[ログ ファイル パス] [ログ ファイル名]" でパスを指定することにより、ログ ファイルのパスを定義できます。また、ログ ファイルがデスクトップに作成されます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。

16. [終了] をクリックします。

これでインストールは完了です。

データベースをアップグレードするための標準インストール

TotalAgility がローカルにインストールされていない場合は、すべてのデータベースを最新バージョンの TotalAgility にアップグレードできます。

i TotalAgility 7.4.0 より前のデータベースのアップグレードはサポートされていません。

1. TotalAgility インストール メディアの \\TotalAgilityInstall に移動し、次のいずれかのコマンドを実行します。
 - UAC (ユーザー アカウント制御) が有効になっている場合は、Setup.exe を右クリックして 管理者として実行 を選択します。
 - UAC が有効になっていない場合は、**Setup.exe** を実行します。

インストールが開始します。

2. **[Kofax TotalAgility インストール プログラム]** ウィンドウで **[次へ]** をクリックし、Enter キーを押して次のウィンドウに移動します。

i セットアップを終了するには、**[キャンセル]** をクリックするか、Esc キーを押します。

3. **[Kofax Inc. ソフトウェア ライセンス契約書]** ウィンドウで、ライセンス契約の条項に同意し、**[次へ]** をクリックします。
4. インストール オプションとして **[標準]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。
5. **[インストール タイプ]** ウィンドウで、**[データベースのアップグレード]** (デフォルト: Web/アプリケーション サーバー)。
Workspace パッケージをインポートするには、**[システム Workspace パッケージのインポート]** のチェック ボックスをオンにします (デフォルト: クリア)。
6. **[次へ]** をクリックします。
[データベース] ウィンドウが開きます。
7. アップグレードする下位バージョンのデータベースを指定するには、必要に応じてデータベースに対して以下を実行します。アップグレードするデータベース名を入力し、**[サーバー]** の省略記号をクリックし、データベース サーバーのモデルを選択し、**[セキュリティ]** グループで **[Windows 認証]** を使用するか、SQL Server 認証を選択してユーザー名とパスワードを指定してから、**[OK]** をクリックします。すべてのデータベースが同じサーバー上にある場合は、**[これらの設定を他のすべてのデータベースに適用する]** チェック ボックスをオンにします。
8. **[次へ]** をクリックします。
[インストール レビュー] ウィンドウが開きます。
9. 設定を確認し、**[次へ]** をクリックしてインストールを開始します。
[インストールの進行状況] ウィンドウにインストールの進行状況が表示されます。セットアップにより、TotalAgility データベースがアップグレードされます。

エラー ログが作成されていないことを確認します。Setup.exe.config のシステム診断セクションにパスが定義されていない場合、デフォルトでは、エラーが発生すると、TotalAgility によって、setup.exe と同じ場所にログ ファイル **KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.log** が作成されます。ただし、<add name="KTALog" type="System.Diagnostics.TextWriterTraceListener" initializeData="[ログ ファイル パス] [ログ ファイル名]" でパスを指定することにより、ログ ファイルのパスを定義できます。また、ログ ファイルがデスクトップに作成されます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。

10. Kofax TotalAgility の [インストール完了] ウィンドウに、インストールのサマリーが表示されます。[終了] をクリックします。
これでインストールは完了です。

Web サーバーの標準インストール

1. TotalAgility インストール メディアの \\TotalAgilityInstall に移動し、次のいずれかのコマンドを実行します。
 - UAC (ユーザー アカウント制御) が有効になっている場合は、Setup.exe を右クリックして 管理者として実行 を選択します。
 - UAC が有効になっていない場合は、**Setup.exe** を実行します。

インストールが開始します。

2. **[Kofax TotalAgility インストール プログラム]** ウィンドウで [次へ] をクリックするか、Enter キーを押して次のウィンドウに移動します。

i セットアップを終了するには、[キャンセル] をクリックするか、Esc キーを押します。

3. **[Kofax Inc. ソフトウェア ライセンス契約書]** ウィンドウで、ライセンス契約の条項に同意し、[次へ] をクリックします。
4. インストール オプションとして **[標準]** を選択し、[次へ] をクリックします。
5. **[インストール タイプ]** ウィンドウで、**[Web サーバー]** (デフォルト: Web/アプリケーション サーバー) を選択して、[次へ] をクリックします。
[ソフトウェア チェック] ウィンドウに、検出されたソフトウェアのリストが表示されます。TotalAgility を使用するには、TotalAgility をインストールする前に、特定のソフトウェアをシステムにインストールする必要があります。
6. **[検出されたソフトウェア]** リストを確認し、次の手順を実行します。
 - システムに必要なソフトウェアの一部がインストールされていない場合は、[キャンセル] をクリックしてインストーラを閉じ、ソフトウェアをインストールします。
 - システムに必要なソフトウェアがすべてインストールされている場合は、[次へ] をクリックします。**[インストール先]** ウィンドウが開きます。
7. デフォルトのインストール フォルダを使用するか、[参照] をクリックして別のパスを選択し、[次へ] をクリックします。
[オプション付きでサーバーの場所を選択] ウィンドウが表示されます。
8. **[サーバー名]** フィールドに、既存の TotalAgility アプリケーション・サーバーの名前を入力します。名前は、<machinename>.<fullyqualifieddomainname>:<portnumber> などで完全に修飾する必要があります。

i ポート番号は、ポート 80 以外の場合のみ必須です。

9. SSL をサポートするには、**[SSL のサポート]** チェック ボックスをオンにします。

i SSL オプションは、IIS で https バインディングを構成した場合にのみ使用できます。「[HTTPS 通信用の TotalAgility の構成](#)」を参照してください。

10. [次へ] をクリックします。
[資格情報] ウィンドウが開きます。

11. TotalAgility を実行するユーザーの資格情報 (パスワードおよび確認用パスワード) を入力します。
12. **[TotalAgility アプリケーションをホストするルート Web サイト]** リストで、TotalAgility アプリケーションをホストする Web サイトを選択します。デフォルトでは、**[デフォルトの Web サイト]** が選択されています。

i IIS マネージャーで追加された Web サイトがこのリストに表示されます。IIS マネージャーで Web サイトを追加するには、**[スタート]** > **[ファイル名を指定して実行]** > **Inetmgr** > **[サイト]** > **[Web サイトの追加]** をクリックします。
13. **[Windows 認証]** で次のいずれかを実行します。
 - TotalAgility Designer および Workspace に自動的にログオンするには、**[Windows 認証]** チェックボックスをオンのままにします (デフォルト)。
 - TotalAgility Designer および Workspace に手動でログオンするには、**[Windows 認証]** チェックボックスをオフにします。
14. **[次へ]** をクリックします。
[インストール レビュー] ウィンドウが開き、設定が表示されます。
15. 設定を確認し、**[次へ]** をクリックしてインストールを開始します。
[インストールの進行状況] ウィンドウが開きます。セットアップにより、必要なファイル、データベース、およびその他の統合製品がインストールされます。
エラー ログが作成されていないことを確認します。Setup.exe.config のシステム診断セクションにパスが定義されていない場合、デフォルトでは、エラーが発生すると、TotalAgility によって、setup.exe と同じ場所にログ ファイル **KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.log** が作成されます。ただし、<add name="KTALog" type="System.Diagnostics.TextWriterTraceListener" initializeData="[ログ ファイル パス] [ログ ファイル名]" でパスを指定することにより、ログ ファイルのパスを定義できます。また、ログ ファイルがデスクトップに作成されます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。
16. **[終了]** をクリックします。
これでインストールは完了です。

こちらも参照してください。

- [高速インストール](#)
- [データベースのみの標準インストール](#)
- [データベースをアップグレードするための標準インストール](#)
- [アプリケーション サーバーの標準インストール](#)
- [Web およびアプリケーション サーバーの標準インストール](#)
- [リアルタイム Transformation Server の標準インストール](#)

アプリケーション サーバーの標準インストール

1. TotalAgility インストール メディアの \\TotalAgilityInstall に移動し、次のいずれかのコマンドを実行します。
 - UAC (ユーザー アカウント制御) が有効になっている場合は、Setup.exe を右クリックして 管理者として実行 を選択します。
 - UAC が有効になっていない場合は、**Setup.exe** を実行します。
 インストールが開始します。

2. **[Kofax TotalAgility インストール プログラム]** ウィンドウで **[次へ]** をクリックし、Enter キーを押して次のウィンドウに移動します。

❶ セットアップを終了するには、**[キャンセル]** をクリックするか、Esc キーを押します。

3. **[Kofax Inc. ソフトウェア ライセンス契約書]** ウィンドウで、ライセンス契約の条項に同意し、**[次へ]** をクリックします。
4. インストール オプションとして **[標準]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。
5. **[インストール タイプ]** ウィンドウで、**[アプリケーション サーバー]** (デフォルト: Web/アプリケーション サーバー) を選択して、**[次へ]** をクリックします。
[アプリケーション サーバー] ウィンドウが開きます。
6. デフォルトでは、Windows サービスと WCF サービスが選択されて、インストールされます。インストールしないサービスがある場合は、そのサービスのチェック ボックスをオフにします。

Windows サービスには以下が含まれます。

- コア サービス
- レポート サービス
- ライセンス サービス (プライマリ ライセンス サーバーまたはバックアップ ライセンス サーバー)
デフォルトでは、**[プライマリ サーバー]** が選択されます。プライマリ ライセンス サーバーが接続に失敗した場合は、ライセンス サーバーの構成ファイルを手動で更新してバックアップ サーバーに接続するか、TotalAgility のインストール後に構成ユーティリティを実行して設定を自動的に更新できます。また、TotalAgility を 7.7.0 より前のバージョンからアップグレードした後は、新しいライセンス動作を使用するように設定を更新して、ライセンス サーバーを再構成する必要があります。「[ライセンス サーバーの設定の更新](#)」を参照してください。
- Transformation サービス
他のすべての Windows サービスを除外してアプリケーション サーバーに Transformation サービスのみをインストールした場合は、WCF コア サービスのチェック ボックスもオフにする必要があります。WCF コア サービスを除外しない場合、TotalAgility の setup.exe では IIS を要件とするメッセージが表示されますが、アプリケーション サーバーに Transformation サービスをインストールするために IIS は必要ありません。
- インポート サービス
Message Connector の複数のインスタンスをインストールできるようになりました。インポート サービスのインスタンス 2 とインスタンス 3 のチェック ボックスを選択します。TotalAgility をアンインストールすると、Message Connector のすべてのインスタンスもアンインストールされます。
- エクスポート サービス

WCF サービスにはコア サービスが含まれます。

7. **[次へ]** をクリックします。
[ソフトウェア チェック] ウィンドウが開きます。サービスとデータベースの選択、および必要なソフトウェアがインストールされているかどうかに基づいて、必要なソフトウェアのリストが表示されます。
8. **[検出されたソフトウェア]** リストを確認し、次の手順を実行します。
 - システムに必要なソフトウェアの一部がインストールされていない場合は、**[キャンセル]** をクリックしてインストーラを閉じ、ソフトウェアをインストールします。

- システムに必要なソフトウェアがすべてインストールされている場合は、[次へ] をクリックします。
[インストール先] ウィンドウが開きます。
- 9. デフォルトのインストール フォルダを使用して TotalAgility をインストールするか、[参照] をクリックして別のフォルダを選択し、[次へ] をクリックします。
[資格情報] ウィンドウが開きます。
- 10. TotalAgility を実行するユーザーの資格情報 (パスワードおよび確認用パスワード) を入力します。
管理者以外のアカウントの資格情報を入力する場合は、Streaming サービスが実行されるように変更する必要があります。

i サービス アカウント名の末尾が \$ (ドル) である場合は、パスワードを指定しないでください。
- 11. [次へ] をクリックします。
[データベース] ウィンドウが開きます。

12. 次のいずれかを行います。

オプション	説明
デフォルト設定を使用します。	[データベースのインストール] チェック ボックスをオンのままにして、 手順 13 を実行します。
同じ名前のデータベースが既に存在し、既存のデータベースを上書きします。	<p>a. [存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?] チェック ボックスをオンにします。 [テスト接続] オプションが使用可能になります。</p> <p>b. [接続のテスト] をクリックします。 ポップアップにデータベース接続の結果が表示されます。データベースの詳細が有効でない場合、またはデータベースが存在しない場合、データベースへの接続は失敗します。</p> <p>c. [次へ] をクリックします。</p> <p>d. [はい] をクリックして、データベースの上書きを確認します。</p> <div style="background-color: #e6f2ff; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>i</p> </div>
ローカル マシン上の既存のデータベースを指定します。	<p>a. [データベースのインストール] および、[存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?] チェック ボックスをオフにします。</p> <p>b. 各データベースの名前を入力して、手順 13 に従います。</p>
別のマシン上の既存のデータベースを指定します。	<p>a. [データベースのインストール] および [存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?] チェック ボックスをオンにします。</p> <p>b. 各データベースに、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データベース名を入力します。 2. [サーバー] の省略記号をクリックして、データベース サーバーのモードを選択します。 3. [セキュリティ] グループで、[Windows 認証] を使用するか、SQL Server 認証を選択してユーザー名とパスワードを指定し、[OK] をクリックします。 4. すべてのデータベースが同じサーバー上にある場合は、[これらの設定を他のすべてのデータベースに適用する] チェック ボックスをオンにします。



- アプリケーション プールがシステム アカウントで実行されている場合は、エラーが表示されません。
- データベースを操作するには、信頼できるアカウントが必要です。SQL 資格情報を入力して、[OK] をクリックします。
- データベースなしで TotalAgility をインストールする場合は、構成ユーティリティを使用して、後の段階でデータベースが使用可能になったときにデータベースを指定できます。『Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド』を参照してください。

13. [次へ] をクリックします。

[DB 接続結果] ウィンドウが開き、データベースとの接続結果が表示されます。データベースへの接続に失敗した場合は、インストールを続行できません。[戻る] をクリックし、必要に応じて変更します。

i **[DB 接続結果]** ウィンドウが開くのは、前の手順で「データベースのインストール」または「存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?」のチェック ボックスがオンになっている場合のみです。

14. データベースが正常に接続されたら、[次へ] をクリックします。

[キャプチャ バイナリ データ ストレージ] ウィンドウが開きます。

15. デフォルトでは、ドキュメントのキャプチャ、.NET Store DLL、CCM Pack などのバイナリ データは TotalAgility データベースに保存されます。Amazon S3 や Windows Azure Blob ストレージなどの事前構成済みの外部クラウド データ ストレージ サービスを使用して、バイナリ データを保存および処理できます。クラウド サービスは、SQL Server のメンテナンスコストを削減し、メンテナンスを外部サービスに委任し、暗号化するのに役立ちます。

i ストレージ タイプを Azure/Amazon BLOB ストレージまたは [SQL Server とファイル システム] に変更すると、バイナリ データは選択したストレージ タイプで保存されます。ストレージ タイプを変更すると、後でオフにすることはできません。

次のいずれかのキャプチャ データ ストレージ タイプを選択します。

ストレージタイプ	説明
[SQL Server] (デフォルト)	SQL Server のキャプチャ データを格納します。
[SQL Server とファイル システム]	<p>FILESTREAM ファイル グループを保存します。</p> <p>キャプチャ ドキュメントはファイル システムに保存されます。データベースには、"FILESTREAM" と呼ばれる特定のファイルグループがあります。SQL Server データベースを使用して、ドキュメントに対してアクションを実行できます。管理者はこれらのファイル グループを作成します。これらのファイル グループが [ファイル ストレージ設定] の下に表示されるようにするには、[スタート] > [プログラム] > [SQL Server Configuration Manager] > [SQL Server のプロパティ] > [FILESTREAM] から、SQL Server Configuration Manager で FILESTREAM 機能を有効にする必要があります。</p> <p>[ファイル ストレージ設定] の下に、SQL Server Configuration Manager で構成されたファイル グループがリストされます。キャプチャ バイナリを保存するファイル グループを選択します。</p> <p>i FILESTREAM は SQL Server 認証ではサポートされていません。また、データベースが存在しない場合はサポートされません。</p>
[Windows Azure Blob ストレージ]	<p>キャプチャ データを、Azure Blob ストレージ サービスに格納します。次のクラウド アカウント設定を構成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> Blob ストレージ サービスに接続するための [アカウント接続文字列] を入力します。 ストレージ サービスの [コンテナ名] を入力します。

ストレージタイプ	説明
[Amazon S3]	<p>次のクラウド アカウント設定を構成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> [アクセス キー] を入力して、Amazon S3 ストレージ サービスに接続します。 [シークレット キー] を入力します。 [領域] リストで、アジア太平洋 (シドニー) などの定義済みの S3 地域を選択します。(デフォルト: 米国東部 (オハイオ)) [バケット名] を入力します。 バケットとは、データ ストレージ用の Amazon S3 の基本的なコンテナのことです。

- [次へ] をクリックします。
[Kofax TotalAgility リソース 資格情報] ウィンドウが開きます
- インストール時に作成されるユーザーの資格情報 ([ユーザー名]、[パスワード] (6 文字以上の英数字)、および[確認]用パスワード) を入力します。
デフォルトでは、ユーザー名フィールドにはログオンしているユーザーの名前が表示されます。必要に応じて、別のユーザー名を指定できます。
- [次へ] をクリックします。
[インストール オプション] ウィンドウが開きます。
- 自動的にサービスを開始するには、[サービスの自動開始] チェック ボックスをオンのままにして、[次へ] をクリックします。
[インストール レビュー] ウィンドウが開き、設定が表示されます。
- [次へ] をクリックしてインストールを開始します。
[インストールの進行状況] ウィンドウが開きます。セットアップにより、必要なファイル、データベース、およびその他の統合製品がインストールされます。
- [次へ] をクリックします。
[ライセンス] ウィンドウが開きます。

22. 次のいずれかを行います。

オプション	説明
ライセンス サーバーに接続します。	<p>a. [ライセンス サーバー] フィールドに、ライセンス サーバーの場所を入力します。</p> <p>i 共有ライセンス サーバーに接続するには、共有ライセンス サーバーの名前または IP アドレスを入力します。</p> <p>b. [ポート番号] フィールドに、ライセンス サーバーがリスンするポート番号を入力します。</p> <p>c. [次へ] をクリックします。2 番目のライセンス ウィンドウが開きます。次の手順に従います。</p>
<p>ライセンス サーバーとの接続をスキップして、TotalAgility を起動するときに接続します。</p> <p>または</p> <p>データベースを手動でインストールするように選択した場合 (手順 12)。</p>	<p>a. [スキップ] をクリックします。</p> <p>b. [終了] をクリックします。</p>

23. TotalAgility の [シリアル番号] および [製品コード] を入力します。ライセンス サーバーが共有ライセンス サーバーの場合は、シリアル番号と製品コードがデフォルトで表示されます。
24. 選択したライセンス サーバーの [ID] が [マシン ID] フィールドに表示されます。
25. ライセンスのアクティベーションを行うには、ライセンスのアクティベーション方法を選択します。
- [自動]: インターネット接続が利用可能な場合は、このオプションを使用します。ライセンスのアクティベーションはオンラインで行われます。
 - [手動]: インターネットに接続されていない場合、または Kofax 製品のインストーラやライセンスユーティリティからの自動アクティベーションが成功しなかった場合は、このオプションを使用

します。[アクティベーション コード] ボックスが表示され、アクティベーション コードを指定できるようになります。

a. アクティベーション コードを取得するには:

1. ブラウザに次の URL を入力します。

<http://activatelegacy.Kofax.com/support/Activation/manual.aspx>
Kofax 製品ライセンス アクティベーション ページが開きます。

2. 購入時に発行された [シリアル番号] を入力します。ハードウェア キーを保持している場合は、シリアル番号 (通常は 7 文字) がキーに印字されています。
3. 製品ライセンスのアクティベーションを行うために必要な情報を Kofax から送信する場合の宛先となる電子メール アドレスを入力します。
4. [次へ] をクリックして、アクティベーション プロセスを続行します。

① Kofax Capture または Ascent Capture を使用していない場合は、[バージョン] 選択フィールドを無視します。

5. [アクティベーション コード] をコピーして、[ライセンス] ウィンドウのフィールドに貼り付けます。
 6. [アクティブ化] をクリックしてライセンスのアクティベーションを行うか、[スキップ] をクリックします。ライセンスのアクティベーションをスキップすると、ライセンスのアクティベーションが後で必要になるという警告が表示されます。
- b. アクティベーション コードを取得したら、コードをコピーします。**
- c. [ライセンス] ウィンドウの[アクティベーション コード] フィールドにコードを貼り付けます。**
- d. [アクティブ化] をクリックしてライセンスのアクティベーションを行うか、[スキップ] をクリックしてライセンスのアクティベーションを後で行います。ライセンスのアクティベーションをスキップすると、サマリーパネルに、ライセンスのアクティベーションが後で必要になるという警告が表示されます。**

26. [終了] をクリックします。

これでインストールは完了です。

TotalAgility がインストールされると、インストーラから Kofax Transformation Server バンドルをインストールするよう求められます。



- 5 で選択しなかったサービスをインストールする場合は、TotalAgility をアンインストールし、[アプリケーション サーバー] ウィンドウで必要なサービスを選択して再インストールする必要があります。
- エラー ログが作成されていないことを確認します。Setup.exe.config のシステム診断セクションにパスが定義されていない場合、デフォルトでは、エラーが発生すると、TotalAgility によって、setup.exe と同じ場所にログ ファイル **KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.log** が作成されます。ただし、<add name="KTALog" type="System.Diagnostics.TextWriterTraceListener" initializeData="[ログ ファイル パス] [ログ ファイル名]" でパスを指定することにより、ログ ファイルのパスを定義できます。また、ログ ファイルがデスクトップに作成されます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。

TotalAgility をインストールした後に、次の操作を行う場合は、TotalAgility をさらに設定します。

- [TotalAgility の起動](#)
- [Dynamics CRM との統合](#)
- [Dynamics AX との統合](#)
- [Micro Focus Content Manager との統合](#)



インストールした TotalAgility のバージョンを表示するには、TotalAgility Designer にログインして、[システム] > [システム設定] に移動します。バージョン情報は、[システム設定] ページの右下に表示されます。最後の 3 桁はビルド番号に対応しています。

こちらも参照してください。

- [高速インストール](#)
- [データベースのみの標準インストール](#)
- [データベースをアップグレードするための標準インストール](#)
- [アプリケーション サーバーの標準インストール](#)
- [Web サーバーの標準インストール](#)
- [Web およびアプリケーション サーバーの標準インストール](#)
- [リアルタイム Transformation Server の標準インストール](#)

Web およびアプリケーション サーバーの標準インストール

このインストール タイプは、Web サーバーとアプリケーション サーバーを単一のマシンにインストールします。

1. TotalAgility インストール メディアの \\TotalAgilityInstall に移動し、次のいずれかのコマンドを実行します。
 - UAC (ユーザー アカウント制御) が有効になっている場合は、Setup.exe を右クリックして 管理者として実行 を選択します。

- UAC が有効になっていない場合は、**Setup.exe** を実行します。

インストールが開始します。

2. **[Kofax TotalAgility インストール プログラム]** ウィンドウで **[次へ]** をクリックし、Enter キーを押して次のウィンドウに移動します。

❶ セットアップを終了するには、**[キャンセル]** をクリックするか、Esc キーを押します。

3. **[Kofax Inc. ソフトウェア ライセンス契約書]** ウィンドウで、ライセンス契約の条項に同意し、**[次へ]** をクリックします。
4. インストール オプションとして **[標準]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。
5. **[インストール タイプ]** ウィンドウで、**[Web/アプリケーション サーバー]** (デフォルト: Web/アプリケーション サーバー) を選択して、**[次へ]** をクリックします。
[アプリケーション サーバー] ウィンドウが開きます。
6. デフォルトでは、Windows サービスと WCF サービスが選択されて、インストールされます。インストールしないサービスがある場合は、そのサービスのチェック ボックスをオフにします。

Windows サービスには以下が含まれます。

- コア サービス
- レポート サービス
- ライセンス サービス (プライマリ ライセンス サーバーまたはバックアップ ライセンス サーバー)
デフォルトでは、**[プライマリ サーバー]** が選択されます。プライマリ ライセンス サーバーが接続に失敗した場合は、ライセンス サーバーの構成ファイルを手動で更新してバックアップ サーバーに接続するか、TotalAgility のインストール後に構成ユーティリティを実行して設定を自動的に更新できます。また、TotalAgility を 7.7.0 より前のバージョンからアップグレードした後は、新しいライセンス動作を使用するように設定を更新して、ライセンス サーバーを再構成する必要があります。「**ライセンス サーバーの設定の更新**」を参照してください。
- Transformation サービス
- インポート サービス
Message Connector の複数のインスタンスをインストールできるようになりました。インポート サービスのインスタンス 2 とインスタンス 3 のチェック ボックスを選択します。TotalAgility をアンインストールすると、Message Connector のすべてのインスタンスもアンインストールされます。
- エクスポート サービス

WCF サービスにはコア サービスが含まれます。

コア サービスのチェック ボックスをオフにした場合、アプリケーション サーバーに Transformation Server のみがインストールされるため、IIS の前提条件は不要です。Transformation Server のスタンドアロン インストールには、IIS は必要ありません。

7. **[次へ]** をクリックします。

[ソフトウェア チェック] ウィンドウが開きます。サービスとデータベースの選択、および必要なソフトウェアがインストールされているかどうかに基づいて、必要なソフトウェアのリストが表示されます。

8. **[検出されたソフトウェア]** リストを確認し、次の手順を実行します。

- システムに必要なソフトウェアの一部がインストールされていない場合は、**[キャンセル]** をクリックしてインストーラを閉じ、ソフトウェアをインストールします。

- ・ システムに必要なソフトウェアがすべてインストールされている場合は、[次へ] をクリックします。

[インストール先] ウィンドウが開きます。

9. デフォルトのインストール フォルダを使用するか、[参照] をクリックして、TotalAgility がインストールされる目的の場所を選択します。
10. [次へ] をクリックします。
[資格情報] ウィンドウが開きます。
11. TotalAgility を実行するユーザーの資格情報 ([パスワード] および[パスワードの確認]) を入力します。

i サービス アカウント名の末尾が \$(ドル) である場合は、パスワードを指定しないでください。

12. [TotalAgility アプリケーションをホストするルート Web サイト] リストで、TotalAgility アプリケーションをホストする Web サイトを選択します。デフォルトでは、[デフォルトの Web サイト] が選択されています。

i IIS マネージャーで追加された Web サイトがこのリストに表示されます。IIS マネージャーで Web サイトを追加するには、[スタート] > [ファイル名を指定して実行] > Inetmgr > [サイト] > [Web サイトの追加] をクリックします。

13. SSL をサポートするには、[SSL のサポート] チェック ボックスをオンにします。(デフォルト: クリア)

i

- ・ SSL オプションは、IIS で https バインディングを構成した場合にのみ使用できます。「[HTTPS 通信用の TotalAgility の構成](#)」を参照してください。
- ・ TotalAgility Designer で HTTPS が使用されている場合、TotalAgility をリンクすると一部のブラウザのサーバーでは、クライアント証明書を選択して自分自身を認証するように求めるプロンプトが表示されます。TotalAgility は、指定されたクライアント証明書を必要に応じて自動的に渡すため、プロンプトは無視してください。

14. [Windows 認証] で次のいずれかを実行します。
 - ・ TotalAgility Designer および Workspace に自動的にログオンするには、[Windows 認証] チェック ボックスをオンのままにします (デフォルト)。
 - ・ TotalAgility Designer および Workspace に手動でログオンするには、[Windows 認証] チェック ボックスをオフにします。
15. [次へ] をクリックします。
[データベース] ウィンドウが開きます。

16. 次のいずれかを行います。

オプション	説明
デフォルト設定を使用します。つまり、新しいデータベースがインストールされます。	<p>以下を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. [データベースのインストール] チェック ボックスがオンになっています。 b. [存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?] チェック ボックスがオフになっています。
同じ名前のデータベースが既に存在し、既存のデータベースを上書きします。	<ul style="list-style-type: none"> a. [存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?] チェック ボックスをオンにします。 [テスト接続] オプションが使用可能になります。 b. [接続のテスト] をクリックします。 ポップアップにデータベース接続の結果が表示されます。データベースの詳細が有効でない場合、またはデータベースが存在しない場合、データベースへの接続は失敗します。 c. [次へ] をクリックします。 d. [はい] をクリックして、データベースの上書きを確認します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>i 既存のデータベースを上書きするように選択したものの、データベースの詳細が有効なデータベースではない場合、またはデータベースが存在しない場合は、エラーが発生します。</p> </div>
ローカル マシン上の既存のデータベースを指定します。	<ul style="list-style-type: none"> a. [データベースのインストール] および [存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?] チェック ボックスをオフにします。 b. 各データベースの名前を入力して、手順 13 に従います。
別のマシン上の既存のデータベースを指定します。	<ul style="list-style-type: none"> a. [データベースのインストール] および、[存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?] チェック ボックスをオフにします。 b. 各データベースに、次の手順を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> 1. 名前を入力します。 2. [サーバー] の省略記号をクリックします。データベースが配置されているデータベース サーバーを選択します。 3. [セキュリティ] グループで、[Windows 認証] を使用するか、SQL Server 認証を選択してユーザー名とパスワードを指定し、[OK] をクリックします。 4. すべてのデータベースが同じサーバー上にある場合は、[これらの設定を他のすべてのデータベースに適用する] チェック ボックスをオンにします。
データベースを手動でインストールします。	<ul style="list-style-type: none"> a. setup.exe ウィザードをこの画面に戻します。 b. [データベースのインストール] および、[存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?] チェック ボックスをオフにします。 c. データベースをインストールします。 d. データベースのインストール後、この画面で適切な設定を構成し、手順 13 に従います。



- アプリケーション プールがシステム アカウントで実行されている場合は、エラーが表示されません。
- データベースを操作するには、信頼できるアカウントが必要です。SQL 資格情報を入力して、[OK]をクリックします。
- データベースなしで TotalAgility をインストールする場合は、構成ユーティリティを使用して、後の段階でデータベースが使用可能になったときにデータベースを指定できます。『Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド』を参照してください。

17. [次へ] をクリックします。

[DB 接続結果] ウィンドウが開き、データベースとの接続結果が表示されます。データベースへの接続に失敗した場合は、インストールを続行できません。[戻る] をクリックし、必要に応じて変更します。



[DB 接続結果] ウィンドウが開くのは、前の手順で「データベースのインストール」または「存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?」のチェック ボックスがオンになっている場合のみです。

18. データベースが正常に接続されたら、[次へ] をクリックします。

[キャプチャ バイナリ データ ストレージ] ウィンドウが開きます。

19. デフォルトでは、ドキュメントのキャプチャ、.NET Store DLL、CCM Pack などのバイナリ データは TotalAgility データベースに保存されます。Amazon S3 や Windows Azure Blob ストレージなどの事前構成済みの外部クラウド データ ストレージ サービスを使用して、バイナリ データを保存および処理できます。クラウド サービスは、SQL Server のメンテナンス コストを削減し、メンテナンスを外部サービスに委任し、暗号化するのに役立ちます。



ストレージ タイプを Azure/Amazon BLOB ストレージまたは [SQL Server とファイル システム] に変更すると、バイナリ データは選択したストレージ タイプで保存されます。ストレージ タイプを変更すると、後でオフにすることはできません。

次のいずれかのキャプチャ データ ストレージ タイプを選択します。

ストレージタイプ	説明
[SQL Server] (デフォルト)	SQL Server のキャプチャ データを格納します。

ストレージタイプ	説明
[SQL Server とファイル システム]	<p>FILESTREAM ファイル グループを保存します。</p> <p>キャプチャ ドキュメントはファイル システムに保存されます。データベースには、"FILESTREAM" と呼ばれる特定のファイルグループがあります。SQL Server データベースを使用して、ドキュメントに対してアクションを実行できます。管理者はこれらのファイル グループを作成します。これらのファイル グループが [ファイル ストレージ設定] の下に表示されるようにするには、[スタート] > [プログラム] > [SQL Server Configuration Manager] > [SQL Server のプロパティ] > [FILESTREAM] から、SQL Server Configuration Manager で FILESTREAM 機能を有効にする必要があります。</p> <p>[ファイル ストレージ設定] の下に、SQL Server Configuration Manager で構成されたファイル グループがリストされます。キャプチャ バイナリを保存するファイル グループを選択します。</p> <p>i FILESTREAM は SQL Server 認証ではサポートされていません。また、データベースが存在しない場合はサポートされません。</p>
[Windows Azure Blob ストレージ]	<p>キャプチャ データを、Azure Blob ストレージ サービスに格納します。次のクラウド アカウント設定を構成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> Blob ストレージ サービスに接続するための [アカウント接続文字列] を入力します。 ストレージ サービスの [コンテナ名] を入力します。
[Amazon S3]	<p>次のクラウド アカウント設定を構成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> [アクセス キー] を入力して、Amazon S3 ストレージ サービスに接続します。 [シークレット キー] を入力します。 [領域] リストで、アジア太平洋(シドニー)などの定義済みの S3 地域を選択します。(デフォルト: 米国東部(オハイオ)) [バケット名] を入力します。 バケットとは、データ ストレージ用の Amazon S3 の基本的なコンテナのことです。

20. [次へ] をクリックします。

[Kofax TotalAgility リソース 資格情報] ウィンドウが開きます。

21. インストール時に作成されるユーザーの資格情報 ([ユーザー名]、[パスワード] (6 文字以上の英数字)、および [パスワードの確認]) を入力します。

i デフォルトでは、ユーザー名フィールドにはログオンしているユーザーの名前が表示されます。必要に応じて、別のユーザー名を指定できます。

22. [次へ] をクリックします。

[インストール オプション] ウィンドウが開きます。

23. 自動的にサービスを開始するには、[サービスの自動開始] チェック ボックスをオンのままにして、[次へ] をクリックします。

[インストール レビュー] ウィンドウが開き、設定が表示されます。

24. 設定を確認し、[次へ] をクリックしてインストールを開始します。

[インストールの進行状況] ウィンドウにインストールの進行状況が表示されます。セットアップにより、必要なファイル、データベース、およびその他の統合製品がインストールされます。

[ライセンス] ウィンドウが開きます。

25. 次のいずれかを行います。

オプション	説明
ライセンス サーバーに接続します。	<p>a. [ライセンス サーバー] フィールドに、ライセンス サーバーの場所を入力します。</p> <p>i 共有ライセンス サーバーに接続するには、共有ライセンス サーバーの名前または IP アドレスを入力します。</p> <p>b. [ポート番号] フィールドに、ライセンス サーバーがリスンするポート番号を入力します。</p> <p>c. [次へ] をクリックします。2 番目のライセンス ウィンドウが開きます。次の手順に従います。</p>
ライセンス サーバーとの接続をスキップして、TotalAgility を起動するときに接続します。 または データベースを手動でインストールするように選択した場合 (手順 13)。	<p>a. [スキップ] をクリックします。</p> <p>b. [終了] をクリックします。</p>

26. [次へ] をクリックします。

[インストールの進行状況] ウィンドウが開きます。セットアップにより、必要なファイル、データベース、およびその他の統合製品がインストールされます。

27. [次へ] をクリックします。

[ライセンス] ウィンドウが開きます。

28. ライセンス サーバーに接続するには:

- a. [ライセンス サーバー] フィールドに、ライセンス サーバーの場所を入力します。

i 共有ライセンス サーバーに接続するには、共有ライセンス サーバーの名前または IP アドレスを入力します。

- b. [ポート番号] フィールドに、ライセンス サーバーがリスンするポート番号を入力します。

- c. [次へ] をクリックします。2 番目のライセンス ウィンドウが開きます。

次の場合は [スキップ] をクリックして、手順 24 に進みます。

- 今はライセンス サーバーとの接続をスキップして、TotalAgility の起動時に接続する場合。
- データベースを手動でインストールするように選択した場合 (手順 12)。

29. TotalAgility の [シリアル番号] および [製品コード] を入力します。

i ライセンス サーバーが共有ライセンス サーバーの場合は、[シリアル番号] と [製品コード] がデフォルトで表示されます。

30. 選択したライセンス サーバーの [ID] が [マシン ID] フィールドに表示されます。

31. ライセンスのアクティベーションを行うには、ライセンスのアクティベーション方法を選択します。

- **[自動]:** インターネット接続が利用可能な場合は、このオプションを使用します。ライセンスのアクティベーションはオンラインで行われます。
- **[手動]:** インターネットに接続されていない場合、または Kofax 製品のインストーラやライセンスユーティリティからの自動アクティベーションが成功しなかった場合は、このオプションを使用します。[アクティベーション コード] ボックスが表示され、アクティベーション コードを指定できるようにになります。

a. アクティベーション コードを取得するには:

1. ブラウザに次の URL を入力します。

<http://activatelegacy.Kofax.com/support/Activation/manual.aspx>
Kofax 製品ライセンス アクティベーション ページが開きます。

- 2. 購入時に発行された [シリアル番号] を入力します。** ハードウェア キーを保持している場合は、シリアル番号 (通常は 7 文字) がキーに印字されています。
- 3. 製品ライセンスのアクティベーションを行うために必要な情報を Kofax から送信する場合の宛先となる電子メール アドレスを入力します。**
- 4. [次へ] をクリックして、アクティベーション プロセスを続行します。**

! Kofax Capture または Ascent Capture をお持ちでない場合は、「バージョン」選択フィールドを無視してください。

- 5. [アクティベーション コード] をコピーして、[ライセンス] ウィンドウのフィールドに貼り付けます。**
- 6. [アクティブ化] をクリックしてライセンスのアクティベーションを行うか、[スキップ] をクリックします。** ライセンスのアクティベーションをスキップすると、ライセンスのアクティベーションが後で必要になるという警告が表示されます。

b. アクティベーション コードを取得したら、コードをコピーします。

c. [ライセンス] ウィンドウの[アクティベーション コード] フィールドにコードを貼り付けます。

d. [アクティブ化] をクリックしてライセンスのアクティベーションを行うか、[スキップ] をクリックしてライセンスのアクティベーションを後で行います。 ライセンスのアクティベーションをスキップすると、サマリーパネルに、ライセンスのアクティベーションが後で必要になるという警告が表示されます。

! ライセンスがアクティブ化されると、ライセンス期間が開始されます。そのため、インストール時にはアクティベーションをスキップし、TotalAgility を使用する準備ができてからアクティブ化することが考えられます。初めて TotalAgility にログインする場合は、ライセンスをアクティブ化する必要があります。

32. [終了] をクリックします。

これでインストールは完了です。

TotalAgility がインストールされると、インストーラから Transformation Server をインストールするよう求められます。



- さらにサービスをインストールするには、TotalAgility をアンインストールし、[Application Server] ウィンドウで必要なサービスを選択して再インストールする必要があります。
- エラー ログが作成されていないことを確認します。Setup.exe.config のシステム診断セクションにパスが定義されていない場合、デフォルトでは、エラーが発生すると、TotalAgility によって、setup.exe と同じ場所にログ ファイル **KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.log** が作成されます。ただし、<add name="KTALog" type="System.Diagnostics.TextWriterTraceListener" initializeData="[ログ ファイル パス] [ログ ファイル名]" でパスを指定することにより、ログ ファイルのパスを定義できます。また、ログ ファイルがデスクトップに作成されます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。

TotalAgility をインストールした後に、次の操作を行う場合は、TotalAgility をさらに設定します。

- [TotalAgility の起動](#)
- [Dynamics CRM との統合](#)
- [Dynamics AX との統合](#)
- [Micro Focus Content Manager との統合](#)



インストールした TotalAgility のバージョンを表示するには、TotalAgility Designer にログインして、[システム] > [システム設定] に移動します。バージョン情報は、[システム設定] ページの右下に表示されます。最後の 3 桁はビルド番号に対応しています。

こちらも参照してください。

- [高速インストール](#)
- [データベースのみの標準インストール](#)
- [データベースをアップグレードするための標準インストール](#)
- [アプリケーション サーバーの標準インストール](#)
- [Web サーバーの標準インストール](#)
- [リアルタイム Transformation Server の標準インストール](#)

リアルタイム Transformation Server の標準インストール

1. インストール メディアの \\TotalAgilityInstall に移動し、次のコマンドのいずれかを実行します。
 - UAC (ユーザー アカウント制御) が有効になっている場合は、Setup.exe を右クリックして 管理者として実行 を選択します。
 - UAC が有効になっていない場合は、**Setup.exe** を実行します。インストールが開始します。

2. **Kofax TotalAgility** インストール プログラム ウィンドウで **次へ** をクリックし、Enter キーを押して次のウィンドウに移動します。

❶ セットアップを終了するには、**[キャンセル]** をクリックするか、Esc キーを押します。

3. **[Kofax Inc. ソフトウェア ライセンス契約書]** ウィンドウで、ライセンス契約の条項に同意し、**[次へ]** をクリックします。
4. インストール オプションとして **[標準]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。
5. **[インストール タイプ]** ウィンドウで **[リアルタイム Transformation サービス]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。
[ソフトウェア チェック] ウィンドウが開きます。サービスとデータベースの選択、および必要なソフトウェアがインストールされているかどうかに基づいて、必要なソフトウェアのリストが表示されます。
6. **[検出されたソフトウェア]** リストを確認し、次の手順を実行します。
 - システムに必要なソフトウェアの一部がインストールされていない場合は、**[キャンセル]** をクリックしてインストーラを閉じ、ソフトウェアをインストールします。
 - システムに必要なソフトウェアがすべてインストールされている場合は、**[次へ]** をクリックします。
[インストール先] ウィンドウが開きます。
7. デフォルトのインストール フォルダを使用するか、**[参照]** をクリックして別のパスを選択し、**[次へ]** をクリックします。
[資格情報] ウィンドウが開きます。
8. TotalAgility を実行するユーザーの資格情報 (パスワードおよび確認用パスワード) を入力します。

❶ サービス アカウント名の末尾が \$ (ドル) である場合は、パスワードを指定しないでください。

9. **[TotalAgility アプリケーションをホストするルート Web サイト]** リストで、TotalAgility および Workspace アプリケーションをホストする Web サイトを選択します。デフォルトでは、**[デフォルトの Web サイト]** が選択されています。

❶ IIS マネージャーで追加された Web サイトがこのリストに表示されます。IIS マネージャーで Web サイトを追加するには、**[スタート] > [ファイル名を指定して実行] > Inetmgr > [サイト] > [Web サイトの追加]** をクリックします。

10. SSL をサポートするには、**[SSL のサポート]** チェック ボックスをオンにします。

❶ SSL オプションは、IIS で https バインディングを構成した場合にのみ使用できます。「[HTTPS 通信用の TotalAgility の構成](#)」を参照してください。

11. **[Windows 認証]** オプションで次のいずれかを実行します。
 - TotalAgility および Workspace に自動的にログオンするには、**[Windows 認証]** チェック ボックスをオンのままにします (デフォルト)。
 - TotalAgility および Workspace に手動でログオンするには、**[Windows 認証]** チェック ボックスをオフにします。
12. **[次へ]** をクリックします。
[データベース] ウィンドウが開きます。

13. デフォルト設定を使用するか、以下を実行します。
 - ローカル マシンの既存のデータベースを指し示す場合は、各データベースの名前を入力し、インストール時に作成されるユーザーの資格情報 (パスワードと確認用パスワード) を入力します。
 - 別のマシンの既存のデータベースを指し示す場合は、各データベースの名前を入力します。[サーバー] の省略記号をクリックし、データベースが存在するデータベース サーバーを選択し、[セキュリティ] グループで、[Windows 認証] を使用するか、SQL Server 認証を選択してユーザー名とパスワードを指定し、[OK] クリックします。すべてのデータベースが同じサーバー上にある場合は、[これらの設定を他のすべてのデータベースに適用する] チェック ボックスをオンにします。
14. [次へ] をクリックします。
[インストール レビュー] ウィンドウが開きます。
15. 設定を確認して、[次へ] をクリックします。
[インストールの進行状況] ウィンドウが開きます。セットアップにより、必要なファイル、データベース、およびその他の統合製品がインストールされます。
16. [終了] をクリックします。
これでインストールは完了です。

i エラー ログが作成されていないことを確認します。Setup.exe.config のシステム診断セッションにパスが定義されていない場合、デフォルトでは、エラーが発生すると、TotalAgility によって、setup.exe と同じ場所にログ ファイル **KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.log** が作成されます。ただし、<add name="KTALog" type="System.Diagnostics.TextWriterTraceListener" initializeData="[ログ ファイル パス][ログ ファイル名]" でパスを指定することにより、ログ ファイルのパスを定義できます。また、ログ ファイルがデスクトップに作成されます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。

17. インストールが予測どおりに機能することを確実にするには、次の手順を実行します。
 - a. <Program Files>/Kofax/TotalAgility/Agility.Server.Web に移動して、Web.config ファイルを編集します。
 - b. Transformation ServerExternalService Binding バインディング パラメータを見つけ、<transport clientCredentialType> 値が Windows に設定されていることを確認します。
 - c. Web.config を保存して閉じます。

こちらも参照してください。

- [高速インストール](#)
- [データベースのみの標準インストール](#)
- [データベースをアップグレードするための標準インストール](#)
- [アプリケーション サーバーの標準インストール](#)
- [Web サーバーの標準インストール](#)
- [Web およびアプリケーション サーバーの標準インストール](#)

Transformation Designer のヘルプのアップグレード

Kofax TotalAgility 7.10.0 をインストールするときに、『Transformation Designer のヘルプ』は自動的にアップグレードされません。そのため、ドキュメントをアップグレードするには、ここに示した手順に従う必要があります。

1. Transformation Designer ドキュメントがインストールされている場所に移動します。デフォルトでは、`%ProgramData%/Kofax/Transformation` です。
「Help」ディレクトリが表示されます。
2. フォルダの名前を「Help_7.10.0」または類似の名前に変更します。
後で再度必要になるので、ウィンドウは開いたままにします。
3. Kofax TotalAgility 7.10.0 ISO ファイル内の `\\Transformation Designer` に移動します。
「Help.zip」という ZIP ファイルが表示されます。
4. 「Help.zip」を `%ProgramData%/Kofax/Transformation` に展開して、作成されたディレクトリ
の名前が「Help」であることを確認します。
5. Transformation Designer を開き、F1 キーを押してヘルプを開きます。
アップグレードされたヘルプが表示されます。
ヘルプが表示されない場合は、Help ディレクトリの構造が「Help_7.10.0」ディレクトリの構造と一致していることを確認してから再試行してください。

Docker コンテナで TotalAgility インストールを実行する

概要

Docker は、アプリケーションを開発、配布、および実行するためのオープン プラットフォームです。Docker を使用すると、アプリケーションをインフラストラクチャから分割できます。Docker を使用することで、アプリケーションの管理と同じ方法でインフラストラクチャを管理できます。

Docker は、コンテナと呼ばれる緩やかに隔離された環境に TotalAgility などのアプリケーションをパッケージ化し、そこで実行する機能を備えています。この分離とセキュリティにより、使用するリソースを仮想マシンよりも抑えながら、1 台のホストで多くのコンテナを同時に実行できます。

TotalAgility アプリケーションは、独立したコンテナまたはオーケストレーションされた一連のコンテナとして、本番環境に展開できます。これは、本番環境がローカル データセンター、クラウド プロバイダ、または両方のハイブリッドのいずれであっても、同じように機能します。TotalAgility が Docker コンテナに展開される場合、TotalAgility インストール プログラムを使用する必要はありません。TotalAgility はすでにインストールされており、コンテナの実行時に必要とされるものは、データベース接続文字列などの関連する構成設定のみです。

デフォルトでは、すべての TotalAgility コンテナでメモリおよび CPU の制限はありません。SQL Server は別の Windows コンテナまたは別のマシンで実行されますが、TotalAgility コンテナでは実行されません。

制限事項

制限事項は、次のとおりです。

- 現在、Microsoft は Docker Windows コンテナで MSDTC を公式にサポートしていません。この制限のため、TotalAgility では標準で分割データベース (メインとアーカイブ) をサポートできません。回避策として、Globally Managed Service Accounts (GMSA) 利用して、コンテナの Active Directory サポートを有効にします。コンテナをホスト マシンおよび SQL サーバー マシンと同じドメインに配置すると、MSDTC は、Active Directory を使用してマシン名を解決することにより、ライブ データベースとアーカイブ データベースの間で分散トランザクションを実行できるようになります。
- エクスポート コネクタは、コンテナではサポートされていません。

前提条件

データベースにはスタンドアロン サーバー (コンテナではなく) を使用することをお勧めします。そのため、コンテナ内で TotalAgility を実行する前に、TotalAgility データベースをセットアップし、リモートでアクセスできるようにしておく必要があります (IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名を使用)。

このセットアップを使用するには、使用されている SQL Server で次の構成が必要です。

- ファイアウォールは、SQL Server へのリモート アクセスを許可する必要があります。
- ユーザーも Windows 認証なしでアクセスできるため、SQL Server 自体を混合モードでのリモート アクセスを許可するように構成する必要があります。
- SQL Server に対して TCP/IP プロトコルを有効にする必要があります。名前付きパイププロトコルは機能しないことに注意してください。

Windows サーバー 2016 以降に Docker をインストールする

Windows サーバーで Docker を設定します。それには、TotalAgility Windows コンテナの実行をサポートするために Windows Server 2016 以降が必要です。

i Windows Server 2016 に Docker を設定した場合、イメージ品質の分析、モバイル ID、およびモバイルカード キャプチャはサポートされません。

1. 管理者特権で PowerShell コマンド プロンプトを開き、次のコマンドを入力します。

```
Install-Module DockerMsftProvider -Force
Install-Package Docker -ProviderName DockerMsftProvider -Force
```

2. 再起動が必要な場合は、次のコマンドを使用してインスタンスを再起動します。

```
(Install-WindowsFeature Containers).RestartNeeded
```

このコマンドの出力が「はい」の場合、次のコマンドを使用してサーバーを再起動します。Restart-Computer

3. 「docker info」コマンドを実行して、Docker Engine - Enterprise インストールをテストします。

```
docker info
Containers: 1
  Running: 0
  Paused: 0
  Stopped: 1
Images: 26
Server Version: 18.09.3
Storage Driver: windowsfilter
```



```

Windows:
Execution Driver: <not supported>
Logging Driver: json-file
Plugins:
  Volume: local
  Network: ics l2bridge l2tunnel nat null overlay transparent
Kernel Version: 10.0 14393 (14393.2828.amd64fre.rs1_release_inmarket.190216-1457)
Operating System: Windows Server 2016 Standard Version 1607 (OS Build 14393.2828)
OSType: windows
Architecture: x86_64
CPUs: 4
Total Memory: 10.04 GiB
Name: HV-Docker-QA
ID: HI53:GJSY:3BWT:Z3S5:3NWU:DEFN:6D3X:KCXO:2EMJ:ITZR:QAVY:VXFK
Docker Root Dir: C:\ProgramData\docker
Debug Mode (client): false
Debug Mode (server): false
Registry: https://index.docker.io/v1/
Labels:
Insecure Registries:
  127.0.0.0/8

```

4. この項目は任意です。Docker 内での Transformation Server の NLP サポートは、デフォルトでは有効ではありません。Docker を Transformation Server 内で NLP と連携させ、Docker コンテナイメージのデフォルトの最大サイズを増やすには、次の手順を実行します。
 - a. C:\ProgramData\docker\config にある **daemon.json** を開きます。この場所にファイルが存在しない場合は、ファイルを作成します。
 - b. daemon.json に次のテキストを追加します。

```

{
  "storage-opts": ["size=50GB"]
}

```

- c. Docker Engine サービスを再起動します。

Docker でイメージ品質の分析、モバイル ID、およびモバイル カード キャプチャを使用する

コンテナでイメージ品質の分析、モバイル ID、およびモバイル カード キャプチャを使用するには、Windows Server 2019 以降をコンテナ ホストとして使用し、Docker ファイルで `mcr.microsoft.com/windows:1809` という Docker ベースのコンテナを指定する必要があります。

Docker ファイルに以下の変更を加えます。

- 次のように、`RUN powershell C:\KTA\PowershellScripts\ConfigureContainer.ps1` という行の前に、`RUN powershell "Set-ExecutionPolicy -ExecutionPolicy RemoteSigned"` という行を追加します。

`InstallWindowsFeatures.ps1` powershell スクリプトに以下の変更を加えます。

- 次の行を見つけます。

```

Install-WindowsFeature -Name NET-Framework-Features -Source C:\kta\NET-Framework35-Features -Verbose
(Install-WindowsFeature cmdlet is not supported in Windows 1809 image)

```

- 上の行を次の行に置き換えます。

```
dism /Online /Add-Package /PackagePath:c:\kta\NET-Framework35-Features\Microsoft-
Windows-InternetExplorer-Optional-Package~31bf3856ad364e35~amd64~en-US~.cab
dism /Online /Add-Package /PackagePath:c:\kta\NET-Framework35-Features\microsoft-
windows-internetexplorer-optional-package~31bf3856ad364e35~amd64~~.cab

dism /Online /Add-Package /PackagePath:c:\kta\NET-Framework35-Features\Microsoft-
Windows-NetFx3-OnDemand-Package~31bf3856ad364e35~amd64~en-US~.cab
dism /Online /Add-Package /PackagePath:c:\kta\NET-Framework35-Features\microsoft-
windows-netfx3-ondemand-package~31bf3856ad364e35~amd64~~.cab
```



- また、モバイル ID およびモバイル カード キャプチャでは、VC++ 2013 x86 再頒布可能パッケージが前提条件として必要です。これは、自動的にダウンロードされ、Docker ファイルにインストールされるようにすることができます。
- Windows サーバー 2016 または 2019 Docker イメージでモバイル ID およびモバイル カード キャプチャ アプリケーション (32 ビット dll 依存関係) を実行する場合は、次の dll が存在することを確認してください。32 ビットバージョンの DLL (avicap32.dll、avifil32.dll、msacm32.dll、msvfw32.dll) をホストの C:\Windows\SysWOW64 からコピーし、DLL を Docker コンテナの C:\Windows\SysWOW64 folder フォルダに貼り付けます。Transformation サービスを実行しているすべてのコンテナに、これらの DLL をコピーする必要があります。

TotalAgility Docker コンテナ イメージの作成

コンテナは、そのイメージと、作成時または起動時に指定する構成オプションによって定義されます。

Docker では、前提条件をインストールするベースとして Microsoft の「microsoft/aspnet」イメージが使用されるため、Docker イメージを作成するにはインターネット接続が必要です。イメージから機能を取得できない場合、ベース OS またはインターネットからインストールされるためです。

- TotalAgility Docker コンテナを正常に構築するには、約 100 GB の空きディスク容量が必要です。

オンプレミス

オンプレミス環境で TotalAgility Docker イメージを作成するには、以下の手順を実行します。

1. Kofax TotalAgility-7.10.0.ZIP の内容を <source directory> に抽出します。
2. 新しいフォルダ <workingdirectory> を作成します。
Docker コマンドは、このディレクトリから実行されます。
3. [ソース ディレクトリ]\Utilities\Docker の内容を [作業ディレクトリ] にコピーします。
4. [ソース ディレクトリ] フォルダの内容を [作業ディレクトリ]\ContainerFiles に移動します。
ファイル構造は、次のようになります。
[作業ディレクトリ]\Dockerfile
[作業ディレクトリ]\ContainerFiles\[ソース ディレクトリ]のすべての内容
[作業ディレクトリ]\ContainerFiles\PowerShellScripts

5. 各コンテナ タイプでの必要に応じて、パラメータを更新します。「サイレント インストールの構成」を参照してください。

IIS に依存しないコンテナ タイプの場合、次の手順で Docker ファイルを更新します。#FROM microsoft/aspnet の行に # を追加してコメントアウトし、#FROM mcr.microsoft.com/dotnet/framework/runtime の行から # を削除してコメント解除します。

6. イメージを作成するには、コンテナ ホストで PowerShell ウィンドウを開き、次のコマンドを実行します。

```
docker build -t <imagenamegoeshere> "<fullpathtoworkingdirectory>"
```

① コンテナ ホストとは、Docker サーバーがインストールされているマシンです。ビルド コマンドのパフォーマンスは、コンテナ ホスト マシンのプロセッサの数に依存します。このコマンドが完了するまで、クアッドコア プロセッサ構成で約 1 時間かかる可能性があります。

例 次のコマンドは、C:\Docker\Kofax TotalAgility 内の内容を使用して、「kofaxop」という名前のイメージを生成します。

```
docker build -t kofaxop "C:\Docker\ Kofax TotalAgility "
```

Docker でのサイレント インストールの構成

1. TotalAgility インストール メディアの \\TotalAgilityInstall に移動し、テキスト エディタを使用して SilentInstallConfig.xml を開きます。
2. 以下に、この展開で使用可能な Docker コンテナ タイプと、SilentInstallConfig.xml で更新される必須の構成パラメータを示します。

- デモ
- アプリケーション サーバー (コア サービスと Core Worker)
- Web サーバー
- Web サーバーとアプリケーション サーバー (コア サービスと Core Worker)
- レポート サーバー
- ライセンス サーバー
- Transformation Server
- リアルタイム Transformation サービス

① アプリケーション サーバー、Web サーバー、レポート サーバー、ライセンス サーバー、Transformation Server を任意に組み合わせて、Docker コンテナを作成できます。リアルタイム Transformation Server (RTTS) は、専用の Docker コンテナでのみサポートされます。

デモ

次のパラメータをデモ サーバー インストール用に更新します。

- ① このガイドのコードをコピーして貼り付ける場合、改行を修正してください。

パラメータ	値	説明
ServicesInstallOptions		

パラメータ	値	説明
ImportService	true	
ExportService	false	エクスポート サービスは、Docker コンテナ内ではサポートされません。
LicenseService	true	
CoreWorkerService	true	
ReportingService	true	
TransformationService	true	
CoreServices	true	
DatabaseInformation		
InstallDatabases	false	Docker イメージ インストールの一部と行われるデータベースのインストールをスキップします。
Identity Information		
RunAsSystemAccount	true	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが LocalSystem アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。
RunAsNetworkServiceAccount	false	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが NT Authority\Network Service アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p>i RunAsSystemAccount または RunAsNetworkServiceAccount が True の場合、これを使用して、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行できます。</p> </div>
[Install Info]		
InstallType	Both	
AuthenticationMode	Anonymous	認証モードを Windows または匿名に設定します。
StartServices	false	サービスは、コンテナが実行された後にのみ開始されます。

アプリケーション サーバー (コア サービスと Core Worker)

次のパラメータをアプリケーション サーバー インストール用に更新します。

パラメータ	値	説明
ServicesInstallOptions		
ImportService	true	
ExportService	false	エクスポート サービスは、Docker コンテナ内ではサポートされません。
ReportingService	false	

パラメータ	値	説明
LicenseService	false	
CoreWorkerService	true	
CoreService	true	
TransformationService	false	
DatabaseInformation		
InstallDatabases	false	Docker イメージ インストールの一部と行われるデータベースのインストールをスキップします。
Identity Information		
RunAsSystemAccount	true	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが LocalSystem アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。
RunAsNetworkServiceAccount	false	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが NT Authority\Network Service アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p>i RunAsSystemAccount または RunAsNetworkServiceAccount が True の場合、これを使用して、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行できます。</p> </div>
[Install Info]		
InstallType	ApplicationServer	
AuthenticationMode	Anonymous	認証モードを Windows または匿名に設定します。
StartServices	false	サービスは、コンテナが実行された後にのみ開始されます。

Web サーバー

次のパラメータを Web サーバー インストール用に更新します。

パラメータ	値	説明
DatabaseInformation		
InstallDatabases	false	Docker イメージ インストールの一部と行われるデータベースのインストールをスキップします。
Identity Information		
RunAsSystemAccount	true	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが LocalSystem アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。

パラメータ	値	説明
RunAsNetworkServiceAccount	false	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが NT Authority\Network Service アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>📘 RunAsSystemAccount または RunAsNetworkServiceAccount が True の場合、これを使用して、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行できます。</p> </div>
Install Info		
InstallType	WebServer	
AuthenticationMode	Anonymous	認証モードを Windows または 匿名に設定します。
StartServices	false	サービスは、コンテナが実行された後にのみ開始されます。

Web サーバーとアプリケーション サーバー (コア サービスと Core Worker)

次のパラメータを Web サーバーとアプリケーション サーバーの両方のインストール用に更新します。

パラメータ	値	説明
ServicesInstallOptions		
ImportService	true	
ExportService	false	エクスポート サービスは、Docker コンテナ内ではサポートされません。
ReportingService	false	
LicenseService	false	
CoreWorkerService	true	
CoreService	true	
TransformationService	false	
DatabaseInformation		
InstallDatabases	false	Docker イメージ インストールの一部と行われるデータベースのインストールをスキップします。
Identity Information		
RunAsSystemAccount	true	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが LocalSystem アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。

パラメータ	値	説明
RunAsNetworkServiceAccount	false	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが NT Authority\Network Service アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>i RunAsSystemAccount または RunAsNetworkServiceAccount が True の場合、これを使用して、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行できます。</p> </div>
[Install Info]		
InstallType	Both	
AuthenticationMode	Anonymous	認証モードを Windows または匿名に設定します。
StartServices	false	サービスは、コンテナが実行された後にのみ開始されます。

レポート サーバー

次のパラメータをレポート サーバー インストール用に更新します。

パラメータ	値	説明
ServicesInstallOptions		
ImportService	false	
ExportService	false	エクスポート サービスは、Docker コンテナ内ではサポートされません。
ReportingService	true	
LicenseService	false	
CoreWorkerService	false	
CoreService	false	
TransformationService	false	
DatabaseInformation		
InstallDatabases	false	Docker イメージ インストールの一部と行われるデータベースのインストールをスキップします。
Identity Information		
RunAsSystemAccount	true	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが LocalSystem アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。

パラメータ	値	説明
RunAsNetworkServiceAccount	false	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが NT Authority\Network Service アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>i RunAsSystemAccount または RunAsNetworkServiceAccount が True の場合、これを使用して、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行できます。</p> </div>
Install Info		
インストール タイプ	ApplicationServer	
AuthenticationMode	Anonymous	認証モードを Windows または匿名に設定します。
StartServices	false	サービスは、コンテナが実行された後にのみ開始されます。

ライセンス サーバー

次のパラメータをライセンス サーバー インストール用に更新します。

パラメータ	値	説明
ServicesInstallOptions		
LicenseService	true	
CoreWorkerService	false	
ReportingService	false	
TransformationService	false	
CoreServices	false	
DatabaseInformation		
InstallDatabases	false	Docker イメージ インストールの一部と行われるデータベースのインストールをスキップします。
Identity Information		
RunAsSystemAccount	true	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが LocalSystem アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。
RunAsNetworkServiceAccount	false	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが NT Authority\Network Service アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>i RunAsSystemAccount または RunAsNetworkServiceAccount が True の場合、これを使用して、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行できます。</p> </div>

パラメータ	値	説明
[Install Info]		
InstallType	ApplicationServer	
StartServices	false	サービスは、コンテナが実行された後にのみ開始されます。

i コンテナを構成して開始した後は、ライセンスのアクティベーションは行われません。TotalAgility Designer を使用してライセンスのアクティベーションを行う必要があります。

Transformation Server

次のパラメータを Transformation Server インストール用に更新します。

パラメータ	値	説明
ServicesInstallOptions		
CoreWorkerService	false	
ImportService	false	
ExportService	false	エクスポート サービスは、Docker コンテナ内ではサポートされません。
ReportingService	false	
LicenseService	false	
TransformationService	true	
CoreServices	false	
DatabaseInformation		
InstallDatabases	false	Docker イメージ インストールの一部と行われるデータベースのインストールをスキップします。
Identity Information		
RunAsSystemAccount	true	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが LocalSystem アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。
RunAsNetworkServiceAccount	false	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが NT Authority\Network Service アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。 i RunAsSystemAccount または RunAsNetworkServiceAccount が True の場合、これを使用して、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行できます。
[Install Info]		

パラメータ	値	説明
InstallType	ApplicationServer	
AuthenticationMode	Anonymous	認証モードを Windows または匿名に設定します。
StartServices	false	サービスは、コンテナが実行された後にのみ開始されます。
NlpWestern	false	true に設定されている場合は、英語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語、およびドイツ語の自然言語処理言語バンドルがインストールされます。
NlpWesternExtended	false	true に設定されている場合は、イタリア語、ルーマニア語、およびオランダ語の自然言語処理言語バンドルがインストールされます。
NlpExtended	false	true に設定されている場合は、日本語、中国語、および韓国語の自然言語処理言語バンドルがインストールされます。

❗ Docker 内での Transformation Server の NLP サポートは、デフォルトでは有効ではありません。Docker を Transformation Server 内で NLP と連携させ、Docker コンテナ イメージのデフォルトの最大サイズを増やすには、次の手順を実行します。

1. C:\ProgramData\docker\config にある **daemon.json** を開きます。この場所にファイルが存在しない場合は、ファイルを作成します。
2. daemon.json に次のテキストを追加します。

```
{
  "storage-opts": ["size=50GB"]
}
```

3. Docker Engine サービスを再起動します。

リアルタイム Transformation サービス

次のパラメータをリアルタイム Transformation サービス インストール用に更新します。

パラメータ	値	説明
ServicesInstallOptions		
CoreServices	true	
DatabaseInformation		
InstallDatabases	false	Docker イメージ インストールの一部と行われるデータベースのインストールをスキップします。
Identity Information		
RunAsSystemAccount	true	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが LocalSystem アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。

パラメータ	値	説明
RunAsNetworkServiceAccount	false	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが NT Authority\Network Service アカウントとして実行されます。これは、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行する場合にも使用できます。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>i RunAsSystemAccount または RunAsNetworkServiceAccount が True の場合、これを使用して、コンテナを Group Managed Service Account (gMSA) として実行できます。</p> </div>
Install Info		
InstallType	RTTS	
AuthenticationMode	Anonymous	認証モードを Windows または匿名に設定します。
StartServices	false	サービスは、コンテナが実行された後にのみ開始されます。

Docker コンテナへのレガシー ラッパーのインストール

PowerShell スクリプトを使用して、Docker コンテナにレガシー ラッパーをインストールできます。

1. TotalAgility インストール メディアの \\Utilities\Docker\ContainerFiles \PowershellScripts\Startup.ps1 に移動します。
2. テキスト エディタで Startup.ps1 を開きます。
3. レガシー ラッパーをインストールするには、このスクリプト ファイルの次のスニペットをコメント解除します。

```
#if (Test-path -Path 'C:\Program Files\ Kofax \ TotalAgility \LegacyWrappers
\WrapperInstaller.exe')
#{
#   'C:\Program Files\ Kofax \ TotalAgility \LegacyWrappers
\WrapperInstaller.exe'
#}
```

4. 変更を保存します。

Docker コンテナの実行

Docker コンテナは、コンテナのランタイム環境をサポートする任意のマシンで実行されます。アプリケーションをホスト オペレーティング システムに関連付ける必要はないため、アプリケーション環境と基盤となるオペレーティング環境の両方をクリーンかつ最小限の状態に保つことができます。

コンテナが実行を停止しているときに発生した状態の変化は、永続ストレージに保存している場合を除き、失われません。

Docker コンテナの実行前に、データベースがセットアップされている必要があります (データベースのみのインストール モードを使用)。

このセットアップを使用するには、SQL Server で次の構成が必要です。

- ファイアウォールは、SQL Server へのリモート アクセスを許可する必要があります。
- ユーザーは Windows 認証なしのアクセスも許可されるため、SQL Server 自体は混合モードでのリモート アクセスを許可するように構成する必要があります。

6. Message Connector に必要なポート番号を開くには、「-p 5003:25086」を「docker run」コマンドに追加する必要があります。例:

```
docker run -d --hostname "opdemo2" --name "opdemo2" --env-file "C:\Docker\TotalAgility\dockersettings.env" -p 5000:80 -p 5003:25086 kofaxop
```

i 5003 は、Message Connector の転送ポート番号の例です。Message Connector 用に構成されたポート番号を使用します。同様に、Message Connector の他のインスタンスのポート番号を構成できます。

複数のホストで TotalAgility コンテナを実行している場合は、組み込み DNS サーバーを備えた Docker Swarm または Kubernetes オーケストレータを使用して、複数のホスト間でコンテナの DNS を解決することをお勧めします。

コンテナ オーケストレータを使用しないで、Transformation Server 同期プロセスを使用している場合は、TRANS_SERVER_INSTANCE データベース テーブルを手動で更新して、Transformation Server コンテナが実行されているホストの IP URL を含める必要があります。Transformation Server サービスは、デフォルトでポート 9001 で実行されます。ただし、構成ユーティリティを使用してポートを再構成できます。このポートは、別のホスト マシンにホストされているアプリケーション コンテナで使用するために公開する必要があります。Transformation Server コンテナの実行中に、追加のスイッチ `-p TS Port :9001` を使用します。

TotalAgility へのアクセス

Docker コンテナに接続し、すべてのサービスが期待される状態になっていることを確認したら、次の URL を使用して、ポート転送が設定されたコンテナ ホストの外部の TotalAgility にアクセスします。

- `http://[コンテナ ホストの IP アドレス]:[コンテナ ホストの公開ポート]/TotalAgility/Designer`
- `http://[コンテナ ホストの IP アドレス]:[コンテナ ホストの公開ポート]/TotalAgility/Forms`

IIS をホストしているコンテナの場合 - TotalAgility Web サイト

Docker コンテナ内の大文字と小文字を区別しない URL 解決ではデフォルトの動作が異なるため、追加の構成を実行して、大文字と小文字を区別しない方法で TotalAgility Web サイトを解決できるようにする必要があります。

Designer/Workspace のコンテナを構成する場合は、URL にアクセスする前に、VirtualHost ファイルを使用して、ホスト OS を介したポートと URL の公開を構成することをお勧めします。また、書き換えルールを使用して、URL へのすべてのアクセスが小文字表現にリダイレクトすることも検討してください。

RFC 2616 に従い、「...クライアントは、大文字と小文字を区別して、URI 全体をオクテットごとに比較する必要があります...ホスト名を比較するときは、大文字と小文字を区別しないようにしてください。」

Docker デーモンおよびキャッシュで保持される URL の解決は、大文字と小文字が区別されます。このため、最初のアクセスの前に URL の大文字と小文字が変更された場合は、問題が生じる可能性があります。このキャッシュの問題は、Docker で WSL v1 が使用されている場合に発生します。この問題は WSL v2 で解決されます。Docker 内では、複数のプロトコルに同じコンテナ ポートを公開することはできません。また、大文字と小文字を区別する URL を以前にキャッシュした場合は、キャッシュをクリアして小文字の URL に置き換える必要があります。

Message Connector へのアクセス

コンテナ ホスト内またはコンテナ ホストの外部から Message Connector にアクセスするには、次の手順を実行します。

1. URL として `http:DockeServerIP:5003/en/file/index.html` を使用します。
ここで、DockeServerIP は Docker コンテナ ホストの IP アドレスです。5003 は Message Connector にアクセスするために構成された転送済みのポート番号です。Message Connector 用に構成された転送ポート番号を使用します。
Message Connector Monitor が表示されます。
2. Message Connector の構成にアクセスするには、構成ツール をクリックします。
Message Connector 構成ツールが表示されます。
3. 必要な構成変更を行って、保存します。
4. 必要に応じて Message Connector サービスを再起動するには、サービスの再起動 ボタンをクリックします。
Docker コンテナから Message Connector サービスを停止して再起動するには、次のコマンドを使用します。`Start-service KIC-ED-MCStop-service KIC-ED-MC`

その他の情報

このテーブルには、便利な Docker コマンドがいくつか含まれています。

Docker コマンド	用途
<code>docker images</code>	サーバーで現在使用可能なすべての Docker イメージのリストを取得します。
<code>docker ps -a</code>	サーバーで使用可能なすべてのコンテナのリストを取得します。
<code>docker start <containerID></code>	サーバーで、ID が <containerID> のコンテナを開始します。
<code>docker stop <containerID></code>	サーバーで、ID が <containerID> のコンテナを停止します。
<code>docker rm <containerID></code>	サーバーで、ID が <containerID> のコンテナを削除します。
<code>docker rmi <imagename></code>	サーバーで、ID が <imagename> のイメージを削除します。このイメージを使用する子コンテナがない場合のみ、削除は成功します。
<code>docker inspect -f "{{ .NetworkSettings.Networks.nat.IPAddress }}" <containerID></code>	ID が <containerID> のコンテナの IP アドレスを取得します。
<code>docker cp "<containerID>:/<fullfilepathoncontainer>" "<pathtofolderonserver>"</code>	コンテナからサーバーにファイルをコピーします。
<code>docker cp "<fullfilepathonserver>" "<containerID>:/<fullfilepathoncontainer>"</code>	サーバーからコンテナにファイルをコピーします。
<code>docker logs <containerID></code>	特定のコンテナのすべてのログを表示します。
<code>docker logs - tail n <containerID></code>	特定のコンテナの最後の「n」個のログを表示します。
<code>type <FQDN of text file></code>	PowerShell インスタンス内のテキスト ファイルの内容を表示します。
<code>Get-Process</code>	すべてのプロセスのリストを取得します。

Docker コマンド	用途
Get-Service	すべてのサービス (実行中および停止中) のリストを取得します。
start-service ServiceNameGoesHere	特定のサービスを開始します。
Stop-service ServiceNameGoesHere	特定のサービスを停止します。
Get-WMIObject Win32_Service select st arname, name, status	いくつかの追加の列を含む、すべてのサービスのリストを取得しま す。
Get-EventLog -LogName Application -new est 10 format-table -auto -wrap	イベント ビューアーから最新の 10 個のアプリケーション ログを取 得します。
import-module webadministration	次のコマンドの前に実行します。
get-iisapppool	アプリケーション プールの名前を取得します。
get-itemProperty -path IIS:\VAPPPOOLS\Tot alAgilityAppPool -names	アプリケーション プールの ID 情報を取得します。

Secrets の使用

Kubernetes Secrets を使用してデータベース接続文字列やパスワードなどの機密情報を保存している場合は、Docker イメージを構築して Kubernetes に展開する前に、次の変更を行う必要があります。たとえば、MainDBConnectionString のアプリケーション設定を Secret として使用する場合を考えてみます。

Kubernetes Secrets

Secrets をボリュームとして使用する場合

1. MainDBConnectionString の詳細を含む Secret <maindbsecret> を Kubernetes に作成します。Secret の作成については、Secrets に関する Kubernetes のドキュメントを参照してください。
2. Docker コンテナのインストール メディアで \\Utilities\Docker\ContainerFiles\PowershellScripts\ に移動します。"\$appSetting.value = \$_.Value;" の行を、'maindbconnectionstring' の設定を確認し、すべての Kofax TotalAgility 構成ファイルの値を、<target path> にマウントされた <maindbsecret> ファイルの内容で更新する次の行に置き換えます。

```
if($appSetting.key -eq "<MainDBConnectionString>")
{
    $dbconnstring = (Get-Content "<target path>\<maindbsecret>") -as [string];
    if($dbconnstring -ne $null)
    {
        $appSetting.value = $dbconnstring;
    }
    else
    {
        $appSetting.value = $_.Value;
    }
}
```

i DockerSettings.env 内の対応するすべての MaindbConnectionString の値は、Secrets からプルされるため、入力する必要がなくなりました。

3. 変更を保存します。
4. 同様に、必要に応じて他のアプリケーションの設定用の `UpdateConfigAppSettings.ps1` スクリプト ファイルを更新します。
5. Pod の定義を変更して、ボリューム `<maindbvol>` と `<maindbsecret>` を、コンテナ内の選択した `<target path>` に追加します (例: `</kta/maindb/>`)。ボリュームの追加については、Secrets に関する Kubernetes のドキュメントを参照してください。
6. Pod をデプロイすると、コンテナの `c:\kta\maindb\` の下に接続文字列値を含む Secret ファイル `<maindbsecret>` が作成され、対応する TotalAgility 構成ファイル設定がその Secret 値で更新されます。

Secrets を環境変数として使用する場合

1. `MainDBConnectionString` の詳細を含む Secret `<maindbsecret>` を Kubernetes に作成します。Secret の作成については、Secrets に関する Kubernetes のドキュメントを参照してください。
2. Pod の定義を変更して、Secret `<maindbsecret>` の環境変数 `<env variable name>` を追加します。`<env variable name>` は、「`KTA_Agility.Server.Web--web.config_MainDBConnectionString`」など、`dockerSettings.env` 内の名前と同じにする必要があります。これにより、Pod をデプロイすると環境変数「`KTA_Agility.Server.Web--web.config_MainDBConnectionString`」に、接続文字列値を含む Secret `<maindbsecret>` の値が設定されます。環境変数として追加する Secrets については、Kubernetes のドキュメントを参照してください。
3. 同様に、Secret から値を取得する必要がある Pod の定義に複数の環境変数を追加できます。スクリプト ファイルを変更する必要はありません。

Docker Secrets

Docker Secrets を使用して機密情報を保存している場合は、Swarm モードでのみ使用できます。そのため、スタンドアロン コンテナではこの機能を使用できません。

i Docker イメージを構築して Swarm に展開する前に、次の変更を行う必要があります。

1. `MainDBConnectionString` の詳細を含む Secret `<maindbsecret>` を Swarm に作成します。Docker Secret の作成については、Secrets に関する Docker のドキュメントを参照してください。
2. Docker コンテナのインストール メディアで、`\\Utilities\docker\ContainerFiles\PowershellScripts` に移動し、`UpdateConfigAppSettings.ps1` Powershell スクリプト ファイルを更新します。`" $appSetting.value = $_.Value; "` の行を、`'maindbconnectionstring'` の設定を確認し、すべての Kofax TotalAgility 構成ファイルの値を、デフォルトのターゲットの場所 (Windows コンテナの場合、デフォルトのターゲットは `'C:\ProgramData\docker\secrets'` の下) にある `<maindbsecret>` ファイルの内容で更新する次の行に置き換えます。

```
if($appSetting.key -eq "<MainDBConnectionString>")
{
    $dbconnstring = (Get-Content "<target location>\<maindbsecret>") -as [string];
    if($dbconnstring -ne $null)
    {
        $appSetting.value = $dbconnstring;
    }
    else
    {
        $appSetting.value = $_.Value;
    }
}
```


}

① DockerSettings.env 内の対応するすべての MaindbConnectionString の値は、Secrets からプルされるため、入力する必要がなくなりました。

3. 変更を保存します。同様に、必要に応じて他のアプリケーションの設定用の UpdateConfigAppSettings.ps1 スクリプト ファイルを更新できます。
4. Docker サービスを作成/更新し、Docker 環境ファイルとともに <maindbsecret> Secret へのアクセスを提供します。これにより、コンテナに Secret ファイル <maindbsecret> が作成され、Kofax TotalAgility 構成ファイルの対応する設定がその Secret 値で更新されます。サービスの作成については、Docker Secrets に関する Docker のドキュメントを参照してください。

AWS Secrets

AWS Secrets を使用してデータベース接続文字列やパスワードなどの機密情報を保存している場合は、次の変更を行って、コンテナから Secret を動的に取得します。これは、PowerShell 用の AWS ツールまたはカスタム .NET ライブラリを介して実行できます。(たとえば、MainDBConnectionString のアプリケーション設定を Secret として使用するとします)。

① Docker イメージを構築する前に、次の変更を行います

PowerShell 用の AWS ツールの使用

1. MainDBConnectionString の詳細を含む Secret <mainsecret> を AWS Secret Manager に作成します。
Secret の作成については、AWS のドキュメントを参照してください。
2. NuGet プロバイダと AWS.Tools.SecretsManager をコンテナにインストールして、AWS から Secret を取得します。
3. Docker のインストール メディアで、\\TotalAgility\Utilities\Docker\ContainerFiles\PowershellScripts\ に移動し、UpdateConfigAppSettings.ps1 Powershell スクリプト ファイルを更新します。「Update-ConfigFile」関数で、行「Get-ChildItem env:*|」の前に次のスクリプト行を追加します。これにより、PowerShell に必要な AWS ツールがインストールされ、AWS Secret から取得した <mainsecret> の内容が更新されます。

```
Set-PSRepository -Name 'PSGallery' -InstallationPolicy Trusted
Install-PackageProvider -Name NuGet -MinimumVersion 2.8.5.201 -Force
If(-not (Get-InstalledModule AWS.Tools.SecretsManager -ErrorAction
  silentlycontinue))
{
  Install-Module AWS.Tools.SecretsManager -RequiredVersion 4.1.4.0 -Confirm:
  $False -Force
}
$awsAccessKeyId = [Environment]::getEnvironmentVariable('KTA_AWS_ACCESSKEYID');
$awsSecretAccessKey =
  [Environment]::getEnvironmentVariable('KTA_AWS_SECRETACCESSKEY');
$awsRegion = [Environment]::getEnvironmentVariable('KTA_AWS_REGION');
Set-AWSCredential -AccessKey $awsAccessKeyId -SecretKey $awsSecretAccessKey
Initialize-AWSDefaultConfiguration -Region $awsRegion

$awsMainSecretName =
  [Environment]::getEnvironmentVariable('KTA_AWS_MAINSECRETNAME');
$awsMainSecret_response = Get-SECSecretValue -SecretId $awsMainSecretName
$mainSecretJsonobj = ConvertFrom-Json -inputObject
  $awsMainSecret_response.SecretString
```

- 「\$appSetting.value = \$_.Value;」の行を、'maindbconnectionstring' の設定を確認してすべての Kofax TotalAgility 構成ファイルの値を AWS Secret から取得した <mainsecret> の内容で更新する次の行に置き換えます。

```

        if ($appSetting.key -eq "<MainDBConnectionString>")
        {
            $dbconnstring = $mainSecretJsonobj.$awsMainSecretName;
            if ($dbconnstring -ne $null)
            {
                $appSetting.value = $dbconnstring;
            }
            else
            {
                $appSetting.value = $_.Value;
            }
        }
    }
}

```

- AWS 環境変数をクリーンアップする 「Update-License-Config」関数の前に、以下のスクリプト行を追加します。

```

$awsAccessKeyId = [Environment]::setEnvironmentVariable('KTA_AWS_ACCESSKEYID', $null);
$awsSecretAccessKey = [Environment]::setEnvironmentVariable('KTA_AWS_SECRETACCESSKEY', $null);
$awsRegion = [Environment]::setEnvironmentVariable('KTA_AWS_REGION', $null);
$awsMainSecretName = [Environment]::setEnvironmentVariable('KTA_AWS_MAINSECRETNAME', $null);

```

- 変更を保存します。
- Docker コンテナを実行すると、上記のスクリプトで記述した KTA_AWS 変数が環境変数として渡されます。「Docker コンテナの実行」セクションで説明した docker run コマンドも、これらの --env 変数で --env- ファイルとともに渡されます。

```

docker run -d --hostname "<host>" --name "<name>" --env KTA_AWS_ACCESSKEYID=<access id> --env KTA_AWS_SECRETACCESSKEY=<key> --env KTA_AWS_REGION=<region> --env KTA_AWS_MAINSECRETNAME=<mainsecret> -env-file "dockerSettings.env" -p <port> <image>

```

i DockerSettings.env 内の対応するすべての「MaindbConnectionString」の値は、Secrets から取得されるため、入力する必要はありません。

- コンテナの実行時に、Secret <mainsecret> を取得します。これには接続文字列値が含まれ、対応する Kofax TotalAgility 構成ファイル設定を Secret 値で更新します。
- 同様に、UpdateConfigAppSettings.ps1 スクリプト ファイル と docker run コマンドを更新して、それぞれに \$ awsMainSecretName と KTA_AWS_MAINSECRETNAME などの新しい変数を追加することで、AWSsecret から他のアプリケーション設定を取得できます。

カスタム ライブラリの使用

- MainDBConnectionString の詳細を含む Secret <mainsecret> を AWS Secret Manager に作成します。

Secret の作成については、AWS のドキュメントを参照してください。

- AWS Secret を取得する GetAWSecret() メソッドを使用して .NET カスタム ライブラリ「AWSsecretManager.dll」を作成します。そのためには、AWSSDK.Core & AWSSDK.SecretsManager SDK for .Net がインストールされている必要があります。メソッドコードは次のようになります。

```
class AWSsecretManager::
```

```
public static string GetAWSecret(string awsAccessKeyId, string awsSecretAccessKey,
    string region, string awsSecretName)
    {
        string secret = string.Empty;
        IAmazonSecretsManager client = new
        AmazonSecretsManagerClient(awsAccessKeyId, awsSecretAccessKey,
        RegionEndpoint.GetBySystemName(region));
        GetSecretValueRequest request = new GetSecretValueRequest();
        request.SecretId = awsSecretName;
        request.VersionStage = "AWSCURRENT"; // VersionStage defaults to
        AWSCURRENT if unspecified.
        GetSecretValueResponse response = null;
        // In this sample we only handle the specific exceptions for the
        'GetSecretValue' API.
        // See https://docs.aws.amazon.com/secretsmanager/latest/apireference/
        API_GetSecretValue.html
        // We rethrow the exception by default.
        try
        {
            response = client.GetSecretValueAsync(request).Result;
        }
        catch (DecryptionFailureException e)
        {
            // Secrets Manager can't decrypt the protected secret text using
            the provided KMS key.
            // Deal with the exception here, and/or rethrow at your
            discretion.
            throw;
        }
        catch (InternalServiceErrorException e)
        {
            // An error occurred on the server side.
            // Deal with the exception here, and/or rethrow at your
            discretion.
            throw;
        }
        catch (InvalidParameterException e)
        {
            // You provided an invalid value for a parameter.
            // Deal with the exception here, and/or rethrow at your discretion
            throw;
        }
        catch (InvalidRequestException e)
        {
            // You provided a parameter value that is not valid for the
            current state of the resource.
            // Deal with the exception here, and/or rethrow at your
            discretion.
            throw;
        }
        catch (ResourceNotFoundException e)
        {
            // We can't find the resource that you asked for.
            // Deal with the exception here, and/or rethrow at your
            discretion.
            throw;
        }
        catch (System.AggregateException ae)
        {
            // More than one of the above exceptions were triggered.
            // Deal with the exception here, and/or rethrow at your
            discretion.
            throw;
        }
    }
```

```

        // Decrypts secret using the associated KMS CMK.
        // Depending on whether the secret is a string or binary, one of these
        fields will be populated.
        if (response.SecretString != null)
        {
            secret = response.SecretString;
        }
        else
        {
            MemoryStream memoryStream = new MemoryStream();
            memoryStream = response.SecretBinary;
            StreamReader reader = new StreamReader(memoryStream);
            secret =
            System.Text.Encoding.UTF8.GetString(Convert.FromBase64String(reader.ReadToEnd()));
        }

        return secret;
    }

```

3. Docker のインストール メディアで、\\TotalAgility\Utilities\Docker \ContainerFiles\PowershellScripts\ に移動し、ユーティリティ DLL (AWSecretManager.dll、AWSSDK.Core.dll、AWSSDK.SecretsManager.dll) をコピーします。
4. UpdateConfigAppSettings.ps1 Powershell スクリプト ファイルを更新します。「Update-ConfigFile」関数で、行「Get-ChildItem env:*|」の前に次のスクリプト行を追加します。これにより、カスタム ライブラリが読み込まれ、AWS Secret から取得した <mainsecret> の内容が次のように更新されます。

```

$add = [Reflection.Assembly]::LoadFile("C:\KTA\PowershellScripts
\AWSecretManager.dll")
$add = [Reflection.Assembly]::LoadFile("C:\KTA\PowershellScripts
\AWSSDK.SecretsManager.dll")
$add = [Reflection.Assembly]::LoadFile("C:\KTA\PowershellScripts\AWSSDK.Core.dll")

$awsAccessKeyId = [Environment]::getEnvironmentVariable('KTA_AWS_ACCESSKEYID');
$awsSecretAccessKey =
    [Environment]::getEnvironmentVariable('KTA_AWS_SECRETACCESSKEY');
$awsRegion = [Environment]::getEnvironmentVariable('KTA_AWS_REGION');
Set-AWSCredential -AccessKey $awsAccessKeyId -SecretKey $awsSecretAccessKey
Initialize-AWSDefaultConfiguration -Region $awsRegion

$awsMainSecretName =
    [Environment]::getEnvironmentVariable('KTA_AWS_MAINSECRETNAME');
Try {
    $awsMainSecret_response =
        [AWSecretManager.AWSecretManager]::GetAWSecret($awsAccessKeyId,
        $awsSecretAccessKey, $awsMainSecretName)
}
Catch {
    Write-Host "Exception:."
    Write-Host $_.Exception
}
$mainSecretJsonobj = ConvertFrom-Json -inputObject
    $awsMainSecret_response.SecretString

```

5. 「\$appSetting.value = \$_.Value;」の行を、'maindbconnectionstring' の設定を確認してすべての TotalAgility 構成ファイルの値を AWS Secret から取得した <mainsecret> の内容で更新する次の行に置き換えます。

```

        if ($appSetting.key -eq "<MainDBConnectionString>")
        {
            $dbconnstring = $mainSecretJsonobj.$awsMainSecretName;

```

```

if($dbconnstring -ne $null)
{
    $appSetting.value = $dbconnstring;
}
else
{
    $appSetting.value = $_.Value;
}

```

6. AWS 環境変数をクリーンアップする 「Update-License-Config」 関数の前に、以下のスクリプト行を追加します。

```

$sawsAccessKeyId =
[Environment]::setEnvironmentVariable('KTA_AWS_ACCESSKEYID', $null);
$sawsSecretAccessKey =
[Environment]::setEnvironmentVariable('KTA_AWS_SECRETACCESSKEY', $null);
$sawsRegion = [Environment]::setEnvironmentVariable('KTA_AWS_REGION',
$null); $sawsMainSecretName =
[Environment]::setEnvironmentVariable('KTA_AWS_MAINSECRETNAME', $null);

```

7. 変更を保存します。
8. Docker コンテナを実行すると、上記のスクリプトで記述した KTA_AWS 変数が環境変数として渡されます。「Docker コンテナの実行」セクションで説明した docker run コマンドも、これらの --env 変数で --env- ファイルとともに渡されます。

```

docker run -d --hostname "<host>" --name "<name>" --env
KTA_AWS_ACCESSKEYID=<access id> --env KTA_AWS_SECRETACCESSKEY=<key> --env
KTA_AWS_REGION=<region>--env KTA_AWS_MAINSECRETNAME=<mainsecret> -env-file
"dockersettings.env" -p <port> <image>

```

❗ DockerSettings.env 内の対応するすべての「MaindbConnectionString」の値は、Secrets から取得されるため、入力する必要はありません。

9. コンテナの実行時に、Secret <mainsecret> を取得します。これには接続文字列値が含まれ、対応する Kofax TotalAgility 構成ファイル設定を Secret 値で更新します。
10. 同様に、UpdateConfigAppSettings.ps1 スクリプト ファイルと docker run コマンドを更新して、それぞれに \$ awsMainSecretName と KTA_AWS_MAINSECRETNAME などの新しい変数を追加することで、AWSsecret から他のアプリケーション設定を取得できます。

SSL 証明書をコンテナにインポートする

Docker コンテナでは、TotalAgility によって使用されるカスタム SSL 証明書をインポートできます。

パスワードで保護された証明書と秘密キーをインポートできます。証明書のエクスポートの詳細については、SSL Support Desk を参照してください。

1. ホスト マシンに「HostMachineFolder」などの新しいフォルダを作成します。
2. 新しく作成したフォルダ (HostMachineFolder) に、CertificateName.pfx などの証明書ファイルをコピーします。
3. 証明書のパスワードは、テキストまたはファイルでコンテナに渡すことができます。ファイルは、シークレットとして (Docker Compose を使用する場合は Kubernetes など)、またはマップされた

ボリュームとして、コンテナに渡すことができます。マップされたボリュームを使用してパスワード ファイルを渡すには、以下の手順を実行します。

- a. HostMachineFolder フォルダ内に、password.txt などの新しいテキスト ファイルを作成します。
 - b. 新しく作成したファイルを開き、ファイルの最初の行に証明書のパスワードを入力します。
 - c. ファイルを保存し、ファイル属性を非表示に変更します。
4. 以前のセクションで説明した「docker run」コマンドに 2 つの追加スイッチ「-v」および「-e」を付けて使用して、Docker コンテナを作成します。
- a. -v: コンテナは、マップされた ContainerFolder を介して HostMachineFolder の内容にアクセスできます。
 - b. -e: SSL 証明書のパス「KTA_SSL_CERT_PATH」およびパスワード (「KTA_SSL_CERT_PASSWORD」またはパスワードのパス「KTA_SSL_CERT_PASSWORD_PATH」) を格納するための追加の環境変数が作成されます。
 - c. 以下は、-v および -e を追加した「docker run」コマンドの例です。
オンプレミスの場合:
 - `docker run --env-file "C:\Docker\TotalAgility\dockersettings.env" -e SSL_CERT_PASSWORD="password" -e SSL_CERT_PATH="HostMachineFolder\CertificateName.pfx" -v "HostMachineFolder:ContainerFolder" -p 5000:443 -d kofax/kta_771`
 - `docker run --env-file "C:\Docker\TotalAgility\dockersettings.env" -e KTA_SSL_CERT_PASSWORD_PATH="C:\folder\password.txt" -e KTA_SSL_CERT_PATH="C:\folder\Cert.pfx" -v "C:\folder:C:\folder2" -p 5000:443 -d kofax/kta_771`
 - d. HostMachineFolder をホスト マシン上の実際の証明書パスに置き換えます。
 - e. CertificateName を実際の証明書名に置き換えます。
 - f. ContainerFolder をコンテナの実際のフォルダ パスと名前に置き換えます (フォルダが作成されます)。

i フォルダのパスまたは名前にスペースが含まれていないことを確認してください。

IIS および SQL Server で Windows 認証の使用

GSMA を使用して、Docker コンテナの Windows 認証を構成します。

IIS および SQL Server で Windows 認証の使用

Docker コンテナは、Active Directory ドメインに参加できません。ただし、LocalSystem または NetworkService アカウントとして実行するように構成された、コンテナ内のすべてのローカル Windows サービスおよび IIS アプリケーション プールについて、コンテナを実行するときに特定の AD Group Managed Service Account (gMSA) を使用するように指定できます。

コンテナでこれらのアカウントとして実行すると、サービスとアプリケーション プールは自動的に gMSA のアクセス権を取得し、Windows 認証を使用してコンテナ外の他の仮想マシンおよびマシンにアクセスできるようになります。

Windows 認証を使用するように TotalAgility Docker コンテナを設定する場合は、SilentInstallConfig.xml ファイルを変更して、すべての TotalAgility サービスおよび IIS アプリ プールに使用するアカウントとして LocalSystem を指定する必要があります。このアカウントは、コンテナの構築時に使用されます。

以下の前提条件が満たされていることを確認してください。

- Docker サーバー、SQL Server マシン、および必要なドメイン コントローラーの下で gMSA を使用するマシンを追加します。
- これらのマシンを Active Directory の「Computer」フォルダの下に追加します。
- Active Directory の「Builtin」フォルダの下に、「ContainerHostGroupName」などのグローバル セキュリティ グループを作成します。
- Docker サーバー、SQL Server マシン、または gMSA を使用するマシンを、メンバーとして新規グループに追加します。

IIS および SQL Server で Windows 認証を使用するには、以下の手順を実行します。

1. KDS ルート キーを作成します。

このキーは (他の情報と共に)、DC 上の KDS サービスによってパスワードを生成するために使用されます。このキーは、ドメインごとに 1 回のみ生成できます。

- a. ドメイン コントローラーにログインし、以下のコマンドを実行します。**

```
Import-module ActiveDirectory
Add-KdsRootKey -EffectiveImmediately
```

- b. 次のコマンドを使用してキーを確認します。**

```
Get-KdsRootKey
```

2. gMSA アカウントを作成します。

- a. ドメイン コントローラーにログインし、次のコマンドを実行します。**

```
GMSA account name : containerhost
Domain name: TotalAgility example.com

New-ADServiceAccount -Name containerhost -DNSHostName TotalAgility
example.com -PrincipalsAllowedToRetrieveManagedPassword "Domain Controllers",
"domain admins", "CN= ContainerHostGroupName,CN=Builtin, DC= TotalAgility
example, DC=COM" -KerberosEncryptionType RC4, AES128, AES256
```

- b. 次のコマンドを使用して新しい gMSA アカウントを確認します。 .**

```
Get - ADServiceAccount - Identity containerhost
```

- c. ドメインのマネージド サービス アカウントに新しい gMSA オブジェクトが表示されます。**

3. 使用するサーバーに gMSA アカウントを追加します。

- a. Active Directory 管理センターを開き、マネージド サービス アカウントに移動します。**
- b. gMSA アカウントを選択し、[プロパティ] をクリックします。**
- c. セキュリティを選択し、[追加] をクリックします。**
- d. Docker サーバーや SQL Server マシンなど、gMSA を使用するコンピュータを選択します。**
- e. 変更を有効にするために、ドメイン コントローラを再起動します。**
- f. gMSA を使用するコンピュータを再起動します。**

4. サーバーに gMSA アカウントをインストールします。

- a. Docker サーバーとして使用するマシンにログインします。
- b. Active Directory 機能が利用できない場合は、次のコマンドを実行します。

```
Enable-WindowsOptionalFeature -FeatureName ActiveDirectory-Powershell
-online -all
```

- c. gMSA をインストールしてテストするには、次のコマンドを実行します。

```
// check whether you are able to account
Get-ADServiceAccount -Identity containerhost //Name of GMSA

// install on machine
Install-ADServiceAccount -Identity containerhost

// test
Test-ADServiceAccount -Identity containerhost
```

出力にエラーが含まれていない場合は、次のようになります。

```
Path :
Online : True
RestartNeeded : False
DistinguishedName : CN=containerhost,CN=Managed Service Accounts, DC=local
Enabled : True
Name: containerhost
objectClass : msDs-GroupManagedServiceAccount
ObjectGUID : containerhost$
SamAccountName : containerhost$
SID : S-1-5-21-3914853822-719528391-929614657-1606
UserPrincipalName :

True
```

5. サービス プリンシパル名を gMSA に関連付けます。

- a. この手順は、Kerberos 認証を機能させるためにも、Chrome および Internet Explorer ブラウザでの自動ログインのためにも必要です。この手順をスキップしても認証は機能しますが、NTLM にフォールバックするため、常にユーザー名とパスワードの入力を求められます。

```
gMSA アカウント: containerhost
ドメイン名: TotalAgilityexample.com
コンテナ ホスト マシン: machine1
```

- b. ドメイン コントローラーにログインし、次のコマンドを実行します。

```
setspn -c -s HTTP/ machine1 TotalAgility example \ containerhost
setspn -c -s HTTP/ machine1. TotalAgility example.com TotalAgility example
\ containerhost
```

6. コンテナ ホストで Active Directory アクセスをテストするには、ホスト マシンで次のコマンドを実行します。 `nltest /parentdomain`

この時点でエラーが発生していなければ、コンテナの LocalSystem アカウントが、構成された gMSA アカウントのプロキシになります。コンテナで LocalSystem プリンシパルとして実行されるプロセスは、Active Directory ドメインのすべてのアセットで gMSA プリンシパルと表示されます。

7. このサービス アカウントを利用するには、コンテナの作成時に Docker に渡される認証情報指定ファイルを生成します。次のコマンドを実行してモジュールをダウンロードします。このモジュー

ルは、Microsoft github アカウントからこのファイルを作成し、必要なデータを含む JSON ファイルを作成します。

```
GMSA account : containerhost
Domain name: TotalAgility example.com

Invoke-WebRequest "https://raw.githubusercontent.com/Microsoft/Virtualization-Documentation/live/windows-server-container-tools/ServiceAccounts/CredentialSpec.psml" -UseBasicParsing -OutFile $env:TEMP\cred.psml

import-module $env:temp\cred.psml

New-CredentialSpec -Name win -AccountName containerhost
#This will return location and name of JSON file
Get-CredentialSpec

Name Path
---- ----
win C:\ProgramData\docker\CredentialSpecs\win.json
```

8. gMSA を許可する SQL Server 構成の場合は、gMSA アカウントとして「containerhost」、ドメイン名として「TotalAgilityexample.com」と入力し、SQL データベースに対して以下の SQL コマンドを実行します。

```
CREATE LOGIN " TotalAgility example \containerhost$"
FROM WINDOWS
GO
```

すべての TotalAgility データベースに対してユーザーを作成するには、次のようにします。

```
CREATE USER containerhost FOR LOGIN " TotalAgility example \ containerhost$"
GO

EXEC sp_addrolemember 'db_datareader', containerhost
EXEC sp_addrolemember 'db_datawriter', containerhost
```

9. エラーがなければ、コンテナの LocalSystem アカウントが、構成された gMSA アカウントのプロキシになります。コンテナで LocalSystem プリンシパルとして実行されるプロセスは、Active Directory ドメインのすべてのアセットで gMSA プリンシパルと表示されます。コンテナで Active Directory アクセスをテストするには、コンテナで次のコマンドを実行します。 nltest / parentdomain

非標準ポートへの TotalAgility のインストール

非標準ポートに TotalAgility をインストールするには、まずバインディングを編集してポート番号を指定し、ベースアドレスを更新して、Streaming サービスを再起動する必要があります。

バインドの編集

1. [スタート] > [実行] > InetMgr > [サイト] > [デフォルトの Web サイト] をクリックします。
デフォルトでは、デフォルトの **Web** サイト が選択されています。
2. デフォルトの Web サイト を右クリックして、[バインドの編集] をクリックします。
3. デフォルトのポート 80 を選択して、[編集] をクリックします。
4. サイトバインドの編集 ウィンドウでポート番号を 81 に変更し、[OK] をクリックします。

5. Kofax TotalAgility をインストールします。「TotalAgility のインストール」を参照してください。
6. ブラウザに次の URL を入力し、`http://ServerName:81/TotalAgility/forms/GeneralWorkQueue.form` ログオンするURLのポート番号を 81 に変更します。

ベースアドレスの更新

ベースアドレスの設定は、手動で編集するか、構成ユーティリティを使用して編集できます。

手動で行う

1. TotalAgility インストール メディアで、`\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\bin>`にある `Agility.Server.StreamingService.exe.config` ファイルを開き、ベースアドレス セクションを変更します。

```
< baseAddresses >
<add baseAddress="http://<ServerName>.<DomainName>:
<non default port>/ TotalAgility /Services/Sdk/StreamingService.svc" />
</ baseAddresses >
```

2. 同様に、`\\TotalAgilityInstall\CoreWorkerService>`にある `Agility.Server.StreamingService.exe.config` ファイルのベースアドレス セクションを変更します。

```
< baseAddresses >
<add baseAddress="http://<ServerName>.<DomainName>:
<non default port>/ TotalAgility /Services/Core/StreamingService.svc" />
</ baseAddresses >
```

3. Streaming サービスは http サーバーをホストします。Streaming サービス、Package Streaming サービス、および Capture Streaming サービスが非標準ポートの非管理者アカウントで実行されている場合は、それらの名前空間を予約する必要があります。そのためには、コマンドプロンプトで、ローカル マシンの管理者権限を持つアカウントを使用して次のコマンドを実行します。

- StreamingService.svc の場合:

- Web サーバーおよび Web/アプリ型サーバーのインストールの場合:

```
netsh http add urlacl url=http://+:<non default port>/TotalAgility/
Services/Sdk/StreamingService.svc user=%domainuser%
```

- アプリケーション サーバーのインストールの場合:

```
netsh http add urlacl url=http://+:/TotalAgility/Services/Core/
StreamingService.svc user=%domainuser%
```

- PackageStreamingService.svc の場合:

```
netsh http add urlacl url=http://+:<non default port>/TotalAgility/
Services/Sdk/PackageStreamingService.svc user=%domainuser%
```

- CaptureStreamingService.svc の場合:

```
netsh http add urlacl url=https://+:<non default port>/TotalAgility/
Services/Sdk/CaptureStreamingService.svc user=%domainuser%
```

上記の URL が予約されていない場合、管理者サービス以外のアカウントを使用している際には、Streaming サービスは開始されません。

構成ユーティリティを使用する

構成ユーティリティを実行し、Streaming サービスのベース アドレス プロパティを更新します。変更を有効にするには、Streaming サービスを再起動する必要があります。Streaming サービスの再起動

Streaming サービスの再起動

ベース アドレスが変更されるか、名前空間を予約するコマンドが完了したら、Streaming サービスを再起動します。

データベースの手動インストール

次の手順では、データベースの手動インストールについて説明します。

メイン、監査、終了済みのデータベース用に単一のデータベースを作成するか、メイン、監査、終了済みのデータベースを個別に作成することができます。

デフォルトでは、ドキュメント リポジトリは独自のデータベースにインストールされます。ただし、スクリプトを実行して、メインの TotalAgility データベース内にドキュメント リポジトリのテーブルを作成することもできます。「[データベースの手動インストール](#)」を参照してください。

MSDTC を構成する

❗ アプリケーション サーバーとデータベースが同じサーバーにインストールされている場合、MSDTC を起動する必要はありません。

メインやアーカイブなどの TotalAgility データベースを (個別に) スケールアウトした場合は、Microsoft 分散トランザクションコーディネータ (MSDTC) が必要です。

デフォルトでは、Microsoft 分散トランザクション コーディネータのセキュリティ構成は、ネットワークトランザクションを許可しないように設定されています。

MSDTC は、データベース、メッセージ キュー、ファイル システムなど、複数のリソース マネージャーにまたがるトランザクションの調整を行うため、データベースが分割されていて、TotalAgility アプリケーションが別のサーバーに配置されている場合は、MSDTC を構成する必要があります。この場合は、次の手順を実行して設定を選択します。

1. コントロール パネル > システムとセキュリティ > 管理ツール に移動します。
2. コンポーネント サービス をクリックします。
[コンポーネント サービス] ウィンドウが表示されます。
3. 左側のパネルの コンソールルート で [コンポーネントサービス] を展開し、コンピューター > マイ コンピューター > 分散トランザクション コーディネーター に移動して、ローカル DTC を選択します。
4. [ローカル DTC] コンテキスト メニューで プロパティ を選択します。
5. ローカル DTC のプロパティ ウィンドウで、セキュリティ タブをクリックします。

6. [セキュリティ設定] で、ネットワーク **DTC** アクセスおよび **SNA LU 6.2** トランザクションを有効にする (JDBC を使用している場合) のチェック ボックスをオンにします。
7. 必要に応じて、**SNA LU 6.2** トランザクションを有効にする をオンにします。Microsoft SNA サーバーがインストールされていて、SNA リソースが正しく構成されていることを確認してください。
8. [トランザクション マネージャー通信] で、受信の許可 および 送信の許可 チェック ボックスをオンにします (認証に必要なセキュリティレベルを構成します)。
9. 設定が完了したら、分散トランザクション コーディネーター サービスを開始します。

MSDTC を手動で起動する

MSDTC を手動で起動するには、コマンド プロンプト ウィンドウで次のコマンドを実行します。net start msdtc。または、[ファイル名を指定して実行] で Services.msc と入力して **Enter** キーを押します。分散トランザクション コーディネーター サービスを右クリックして、**開始** をクリックします。

i リモート SQL Server も MSDTC 構成が必要です。上記のセキュリティ設定に加えて、リモート クライアントの許可 を選択します。[リモート管理を許可する] 設定はオプションです。

TotalAgility が通信するために必要な追加のネットワーク ルールおよびセキュリティ ルールがある場合は、複数の Microsoft ツールを使用して、いくつかの一般的な問題のトラブルシューティングを行うことができます。これらのツールは Kofax 製品ではなく、保証または責任の対象ではありません。

- **DTCTester**: SQL Server が 1 台のコンピュータにインストールされている場合、このツールは 2 台のコンピュータ間のトランザクションを検証し、ODBC を使用して SQL Server データベースに対するトランザクションのサポートを検証します。
- **DTCPing**: このツールは、SQL Server がいずれのコンピュータにもインストールされていない場合、2 台のコンピュータ間のトランザクションのサポートを検証します。DTCping ツールは、クライアントコンピュータとサーバー コンピュータの両方で実行する必要があります。

TotalAgility ライセンス テーブルをインストールするには、[Create_KLS_OnPremise.sql](#) を実行します。

データベースを手動でインストールする

データベースを手動でインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次のデータベースを確実に作成してください。
 - TotalAgility
 - 終了済みジョブ
 - 監査
 - TotalAgility_Reporting
 - TotalAgility_Reporting_Staging
2. スクリプトのコメントを使用して、Initialise_Main.sql スクリプトを編集します。たとえば、次の項目を編集して、TotalAgility に最初にログオンするユーザーの詳細を更新します。
 - a. @NTNAME = 'INSTALL_NTUSERID'。INSTALL_NTUSERID をユーザー ドメインとユーザー ID で置き換えます。「DomainName\USERA」のようになります。
 - b. @FULLNAME = 'INSTALL_FULLNAME'。INSTALL_FULLNAME をユーザー名で置き換えます。「USERA」のようになります。

3. データベース間で次の順序でスクリプトを実行し、各スクリプト内の指示に従います。
 - a. Main(Create, Initialise)
メイン データベースで次のスクリプトを実行します。
 - Create_Main.sql
 - Initialise_Main.sql
 - Create_Forms.sql
 - Initialise_Forms.sql
 - Create_KFS.sql
 - Initialise_KFS.sql
 - LicenseScripts\Create_KLS_OnPremise.sql
 - b. Finished Jobs(Create)
終了済みジョブ データベースで次のスクリプトを実行します (メイン データベースに含まれる場合がある)。
 - Create_Archive.sql
 - c. Audit(Create, Intialise)
監査データベースで次のスクリプトを実行します (メイン データベースに含まれる場合がある)。
 - Create_Audit.sql
 - Initialise_Audit.sql
4. レポート データベースを手動でインストールするには、以下のスクリプトを使用します。
 - ステージング データベースを作成するためのスクリプト。
 - Kofax.Reporting.Analytics.Staging.SQL_TablesCreate.sql
 - Kofax.Reporting.Analytics.Staging.SQL_Initialize.sql
 - レポート データベースを作成するためのスクリプト。
 - Kofax.Reporting.Analytics.SQL_TablesCreate.sql
 - Kofax.Reporting.Analytics.SQL_Initialize.sql

i これらのスクリプトを実行する前に、互換性のあるデータベースサーバーが既にインストールされていることを確認してください。レポート テーブルはデフォルト スキーマに配置する必要があります。

5. インストール ウィザードの [データベース] ウィンドウで、次の手順を実行します。
 - a. [データベースのインストール] および [存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?] チェック ボックスをオフにします。
 - b. [データベース名] で、データベースを手動で作成するときに指定した名前と一致するようにデータベース名を変更します。
データ レイヤー データベースの名前を Repository2012 またはデータベースの作成中に指定した名前に変更します。
 - c. [次へ] をクリックします。構成ファイルを更新する前に、インストールが完了していることを確認してください。

6. Web.config でデータベース接続の値を手動で編集するか、インストール メディアに収録されている構成ユーティリティを実行することができます。

- \\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web にある **Web.config** を開きます。**appSettings** セクションで、次のデータベース接続の値を更新します。
 - MainDBConnectionString
 - ArchiveDBConnectionString
 - AuditDBConnectionString
 - ReportingMainDBConnectionString
 - ReportingStagingDBConnectionString

i データベースは、Kofax TotalAgility がインストールされているマシンを指すようにする必要があります。

- 構成ユーティリティを実行し、[共通設定] タブで使用可能な上記データベース接続の値を変更します。

7. Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config のデータベース接続の値を変更するには、次のいずれかを実行します。

- \\TotalAgilityInstall\CoreWorkerService にある **Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config** を開いて、次の接続文字列の値を変更します。
 - MainDBConnectionString
 - ArchiveDBConnectionString
 - AuditDBConnectionString
 - ReportingMainDBConnectionString
 - ReportingStagingDBConnectionString

i データベースは、Kofax TotalAgility がインストールされているマシンを指すようにする必要があります。

- 構成ユーティリティを実行し、[共通設定] タブで使用可能な上記接続文字列の値を変更します。

8. Agility.Server.StreamingService.exe.config でデータベース接続の値を変更するには、次のいずれかを実行します。

- \\TotalAgilityInstall\CoreWorkerService にある **Agility.Server.StreamingService.exe.config** を開いて、次の接続文字列を更新します。
 - MainDBConnectionString
 - ArchiveDBConnectionString
 - AuditDBConnectionString
 - ReportingMainDBConnectionString
 - ReportingStagingDBConnectionString

i データベースは、Kofax TotalAgility がインストールされているマシンを指すようにする必要があります。

- 構成ユーティリティを実行し、[共通設定] タブで使用可能な上記接続文字列の値を変更します。

9. TotalAgility を目的のドキュメント データベースに接続するには:

- a. TotalAgility メイン データベース > SERVER_DATA テーブル> CEBPM_SETTINGS 列に移動します。
- b. CEBPM_SETTINGS XML ファイルを開きます。
- c. <Common Settings> セクションで、[データ ソース] の値をコンピュータ名に、[統合セキュリティ] を True に、[初期カタログ] の値をデータ レイヤー データベース名に更新します。

```
<Common_Settings>
  <ReportingSettings />
  <DataLayerConfiguration RepositoryDBConnectionString=";
Data Source=<computer name> ; Initial Catalog = Data Layer
Database ;User ID=;Password=; Integrated Security=True ;Connect
Timeout=30;Encrypt=False;TrustServerCertificate=False"
RepositoryBlobStorageAccountConnectionString="{DATA_LAYER_BLOB_CONNSTRING}"
RepositoryBlobStorageContainerName="{DATA_LAYER_BLOB_CONTAINER}" />
</Common_Settings>
```

10. 変更を有効にするには、TotalAgility CoreWorker サービスを再起動します。

11. セキュリティ キーを生成します。キーを生成するには、TotalAgility Designer で [システム] > [設定] > [システム] > [全般] に移動します。

アーティファクトのインポート

TotalAgility データベースのインストール後に、標準フォーム、スタイル シート、カスタム アセットをインポートする必要があります。

① TotalAgility をアップグレードするときに、システム マップと標準フォームを手動でインポートする必要があります。

次の場所にある WorkspacePackage.zip からすべてのアーティファクトをインポートできます。

```
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Packages
```

高可用性のための TotalAgility の構成

別のコンピュータに 2 番目のライセンス サーバーをインストールし、それを Kofax TotalAgility のバックアップ サーバーとして使用することができます。

1. TotalAgility インストール メディアの \\TotalAgilityInstall > Licensing > Installs に移動します。
2. [KSALicServerSetup] をクリックします。
[ライセンス サーバーのセットアップ] ウィンドウが開きます。
3. [次へ] をクリックします。
4. [インストール先フォルダ] ウィンドウで、ライセンス サーバーのデフォルト フォルダ (c:\Program Files (x86)\Kofax\License Server\) を選択するか、[変更] をクリックして別のフォルダを選択します。
5. [次へ] をクリックし、指示に従ってインストールを完了します。

iPad または iPhone を経由した TotalAgility へのアクセス

iPad または iPhone を介して TotalAgility にアクセスするには、**Web.config** ファイルを更新します。Web サーバーとアプリケーション サーバーの間で Windows 認証を使用し、クライアント デバイスから Web サーバーへの TotalAgility 認証を引き続き使用することができます。

1. Web サーバー上の次のディレクトリにある TotalAgility **Web.config** ファイルにアクセスします。C:\Program Files\Kofax\TotalAgility\Agility.Server.Web\Web.config.
2. **.config** ファイルで以下を検索します。<binding name=「BasicHttpBinding_Service」。
3. <binding> から </binding> までのコード ブロック全体をコピーします。
4. コピーしたブロックの下にブロックを貼り付けて、次のように名前を変更します。<binding name=**BasicHttpBindingCore_Service**。
5. コピーしたバインディングで、Windows 認証を使用した HTTP が有効になっていることを確認します。これにより、Web サーバーからアプリケーション サーバーへの認証が有効になります。
6. コア エンド ポイントの開始点に移動して、次を検索します。<!--START CORE END POINTS -->。
7. 各コア エンド ポイントで、BasicHttpBinding_Service を BasicHttpBindingCore_Service に置き換えます。
8. クライアント デバイスから Web サーバーへの認証を使用するには、元の BasicHttpBinding_Service バインディングを更新して匿名認証と SSL を使用します (必要な場合)。
9. **Web.config** ファイルを保存します。
10. TotalAgility にログオンして、自分が TotalAgility ユーザーとして以前に追加されていることを確認します。

フェデレーション セキュリティ - 共通のマシン キーの生成

負荷分散環境で TotalAgility とフェデレーション セキュリティを併用している場合、TotalAgility は WsFed トークンを使用して、ID プロバイダから渡された暗号化トークンを一貫した方法で復号化することができません。これは、デフォルトでは、各負荷分散サーバーにトークンの暗号化/復号化に使用される一意のマシン キー識別子があるためです。

共通のマシン キーを生成し、それを負荷分散環境のすべてのサーバーに伝播させることをお勧めします。たとえば、TotalAgility アプリケーションのマシン キーを生成する場合、Web.config ファイルはマシン キーの要素を使用して自動的に更新されます。マシン キーの構成は、Web サーバー、サイト、またはアプリケーション レベルで実行できます。

マシン キーを生成するには、次の手順を実行します。

1. インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーを開きます。
2. 左側のパネルで TotalAgility アプリケーション、Web サイト、または Web サーバーを選択して、マシン キーを生成します。
3. [機能ビュー] で、[マシン キー] を右クリックし、[機能を開く] をクリックします。
4. [マシン キー] ページの [暗号化の方法] ドロップダウン リストで、暗号化の方法を選択します。
5. [復号化方法] ドロップダウン リストで復号化方法を選択します。

- 必要に応じて、[検証] キーと [復号化] キーの設定を構成します。
- [アクション] パネルで、[キーの生成] をクリックし、[適用] をクリックします。
[適用] をクリックすると、変更が Web.config ファイルに自動的に保存されます。
マシン キーを暗号化および復号化するには、「[TotalAgility 構成ファイルの暗号化および復号化](#)」を参照してください。

TotalAgility 構成ファイルの暗号化および復号化

TotalAgility 構成ファイルには、機密情報を含む DB 接続設定が含まれます。したがって、以下の TotalAgility ファイルを暗号化することをお勧めします。

- Web.config (Microsoft ASP.NET IIS 登録ツールを使用)
- 実行可能ファイルの構成ファイル (Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe ユーティリティを使用)

❗ Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe は Web.config では機能しません。実行可能ファイルの構成でのみ機能します。

Web.config の暗号化と復号化

Microsoft ASP.NET IIS 登録ツール (aspnet_regiis) を使用して、Web.config ファイルの任意のセクションを暗号化または復号化します。Microsoft Web サイトの構成の暗号化と復号化に関するセクションを参照してください。

- [Kofax のインストール場所]\TotalAgility\Agility.Server.Web にある TotalAgility Web.config に移動します。
- Microsoft ASP.NET IIS 登録ツール (aspnet_regiis) を実行します。
少なくとも、データベース接続情報を含む appSettings セクションを暗号化します。

実行可能ファイルの構成ファイルの暗号化および復号化

Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe ユーティリティ (TotalAgility のインストール ディレクトリにある) は、実行可能ファイルの構成ファイルを暗号化 (-enc) または復号化 (-dec) します。

実行可能ファイルの構成ファイルを暗号化する前に、セキュリティ プロバイダを追加する必要があります。

暗号化できる実行可能ファイルの構成ファイルのリスト

次のテーブルには、暗号化できる実行可能ファイルの構成ファイルのリストが含まれています。

構成ファイル名	場所
<ul style="list-style-type: none"> • Agility.Server.ExportConnector.exe.config • Agility.Server.StreamingService.exe.config 	Agility.Server.Web ファイル: [Kofax のインストール場所]\TotalAgility\ Agility.Server.Web
<ul style="list-style-type: none"> • Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config • Agility.Server.Core.Executor.exe.config • Agility.Server.Core.ExportService.exe.config • Agility.Server.Core.ExportWorker.Host.exe.config 	Core Worker サービス ファイル: [Kofax のインストール場所]\TotalAgility\ CoreWorkerService
<ul style="list-style-type: none"> • Kofax.CEBPM.Reporting.TAService.exe.config 	レポート サーバー サービス ファイル: [Kofax のインストール場所]\TotalAgility\Reporting
<ul style="list-style-type: none"> • Kofax.CEBPM.CPUServer.ServiceHost.exe.config 	Transformation Server サービス ファイル: [Kofax のインストール場所]\TotalAgility\ Transformation Server
<ul style="list-style-type: none"> • KSALicenseService.exe.config 	ライセンス サーバー サービス ファイル: [Kofax のインストール場所]\TotalAgility\LicenseServer
<ul style="list-style-type: none"> • ExtractionProcess.exe.config 	C:\ProgramFiles (x86)\Common Files\Kofax\ Server\
<ul style="list-style-type: none"> • RegAscSc.exe.config 	[Kofax のインストール場所]\TotalAgility\ ExportConnectors\bin\

セキュリティ プロバイダの追加

暗号化する前に、構成ファイルに次のセキュリティ プロバイダを追加します。

```
<configProtectedData>
  <providers>
    <add useMachineProtection="true"
      name="DPAPIProtection"
      type="System.Configuration.DpapiProtectedConfigurationProvider,
      System.Configuration, Version=2.0.0.0, Culture=neutral,
      PublicKeyToken=b03f5f7f11d50a3a" />
    <add name="RSAProvider"
      type="System.Configuration.RsaProtectedConfigurationProvider,
      System.Configuration,
      Version=2.0.0.0, Culture=neutral, PublicKeyToken=b03f5f7f11d50a3a,
      processorArchitecture=MSIL"
      keyContainerName="CPUServerKeys" useMachineContainer="true" />
  </providers>
</configProtectedData>
```

実行可能ファイルの構成ファイルの暗号化

Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe ユーティリティは、構成ファイルの任意のセクションを暗号化 (-enc) または復号化 (-dec) します。

appSettings セクションには、ユーザー ID、パスワード、その他の情報が含まれているため、少なくともこのセクションは暗号化します。オプションの -h フラグを使用すると、コマンドのヘルプが表示されます。

TotalAgility サーバーでは、Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe ユーティリティで使用するコマンドラインパラメータに応じて、次の 2 つの暗号化方法がサポートされます。

- DPAPI 暗号化
- RSA 暗号化

DPAPI 暗号化方法を使用する

ファイルを暗号化したときと同じマシンでファイルを復号化する必要があるため、このユーティリティは、一度に 1 つのサーバーを暗号化する場合に使用します。

各 TotalAgility サーバーで個別にユーティリティを実行します。

1. TotalAgility Core Worker サーバー サービスを停止します。
2. TotalAgility Core Worker のインストール ディレクトリに移動します。
3. **Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe** を **Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config** と同じフォルダにコピーします。
4. コマンド プロンプト ウィンドウを開き、次のコマンドを実行します。

```
Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe -f Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config -s "appSettings" -p DPAPIProtection -enc
```

RSA 暗号化方法を使用する

2 つの独立したキーを使用する、公開キー暗号化とデジタル署名のアルゴリズムです。1 つのサーバーでキーを作成して構成ファイルを暗号化し、そのキーを他のすべてのサーバーにエクスポートします。エクスポートしたキーがインストールされているすべての TotalAgility サーバーから、構成ファイルにアクセスできます。同じ構成のサーバーがいくつかある場合は、この方法を使用します。

以下の手順は、キーを作成するソース TotalAgility サーバーと、キーをインポートするターゲット TotalAgility サーバーとで異なります。

キーを準備する

1 つのソース TotalAgility サーバーで、以下の手順を実行します。

1. カスタム RSA キー コンテナを作成します。
 - a. 管理者権限で TotalAgility サーバーにログオンします。
 - b. コマンドライン ウィンドウを開きます。
 - c. .NET Framework バージョン 4.0 のディレクトリに移動します。たとえば、次のコマンドを入力します。

```
cd \WINDOWS\Microsoft.Net\Framework\v4.0.*
```

- d. 次のコマンドを実行します。

```
aspnet_regiis -pc 「<KeysFile>」 -exp
```

ここで、

- <キー ファイル> は、キー ファイルの名前です。
- -exp オプションは、キーをエクスポート可能にします。

2. 次のコマンドを実行して、<キー ファイル> RSA コンテナ ファイルを読み取る権限を TotalAgility Core Worker サーバー サービス ユーザーに付与します。

```
aspnet_regiis -pa <キー ファイル> <TotalAgility サービス ユーザー>
```

ここで、

- <キー ファイル> は、手順 1d で作成したキー ファイルの名前です。
- <TA サービス ユーザー> は、TotalAgility Core Worker サーバー サービス ユーザーです。

3. ファイルを暗号化する

- a. TotalAgility Core Worker サーバー サービス ユーザーとして TotalAgility サーバーにログオンします。
- b. TotalAgility サーバーのインストール ディレクトリに移動し、コマンドライン ウィンドウを開きます。
- c. 次のコマンドを実行します。

```
KofaxKofax.CEBPM.EncryptConfig.exe -f  
Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config -s "appSettings" -p  
RSAProvider -enc
```

このコマンドは、構成ファイルの appSettings セクションを暗号化します。appSettings セクションには、ユーザー ID、パスワード、その他の情報が含まれています。

4. 次のコマンドを実行してキーをエクスポートします。

```
aspnet_regiis -px "<キー ファイル>" "<c:\keys.xml>" -pri
```

ここで、

- <キー ファイル> は、デフォルトのキー ストア キー コンテナ名です。
- <c:\keys.xml> は、エクスポートされるキー ファイルのパスとファイル名です。

キーをインポートする

すべてのターゲット TotalAgility サーバーで、以下の手順を実行します。

1. キーをインポートします。

- a. 管理者権限で TotalAgility サーバーにログオンします。
- b. keys.xml ファイルをソース TotalAgility サーバーからターゲット TotalAgility サーバーのルート C:\ ディレクトリにコピーします。
- c. コマンドライン ウィンドウを開きます。
- d. 次のコマンドを実行します。

```
aspnet_regiis -pi "<キー ファイル>" "c:\keys.xml"
```

ここで、

- <キー ファイル> は、キー ファイルのデフォルト名です。
- <c:\keys.xml> は、インポートされるキー ファイルのパスとファイル名です。

- e. keys.xml は、保護されていない秘密キーが含まれているため、削除します。

2. 次のコマンドを実行して、<キー ファイル> RSA コンテナ ファイルを使用する権限を TotalAgility Core Worker サーバー サービスのユーザーに付与します。

```
aspnet_regiis -pa "<キー ファイル>" "<TotalAgility サービス ユーザー>"
```

ここで、

- <キー ファイル> は、手順 1 でインポートしたキー ファイルの名前です。
- <TotalAgility サービス ユーザー> は、TotalAgility Core Worker サーバー サービス ユーザーです。

3. 残りのすべての TotalAgility サーバーで、これらの手順を繰り返します。

構成ファイルの復号化

1. **TotalAgility Core Worker** サーバー サービスを停止します。
2. TotalAgility サーバーのインストール ディレクトリに移動し、コマンドライン ウィンドウを開きます。
3. 次のコマンドを実行します。

```
KofaxKofax.CEBPM.EncryptConfig.exe -f  
Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config -s "appSettings" -p  
DPAPIProtection -dec
```

❗ エクスポート構成ファイルについても、暗号化と復号化の手順を繰り返します。

Docker コンテナ内の構成ファイルの暗号化

「DPAPI」または「RSA」メソッドを使用して、Web.config ファイルとすべての実行可能構成ファイルを暗号化できます。

「DPAPI」を使用した構成ファイルの暗号化

docker run コマンドに以下を追加します。

```
-e KTA_CONFIG_ENCRYPTION_PROVIDER_TYPE="DPAPI"
```

たとえば、"docker run -d --hostname "opdemo2" --name "opdemo2" --env-file "C: \Docker\TotalAgility\dockersettings.env" -p 5000:80 -e KTA_CONFIG_ENCRYPTION_PROVIDER_TYPE="DPAPI" kofaxop"

「RSA」を使用した構成ファイルの暗号化

docker run コマンドに以下を追加します。

```
-e KTA_CONFIG_ENCRYPTION_PROVIDER_TYPE="RSA"
```

たとえば、"docker run -d --hostname "opdemo2" --name "opdemo2" --env-file "C: \Docker\TotalAgility\dockersettings.env" -p 5000:80 -e KTA_CONFIG_ENCRYPTION_PROVIDER_TYPE="RSA" kofaxop"

TotalAgility 構成設定の編集

TotalAgility のインストール後にパラメータを変更または更新するには、インストール ディレクトリにある次の構成ファイルを編集します。

- Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config
- Agility.Server.Core.ExportService.exe.config
- Web.config
- KSALicenseService.exe.config

これらの各ファイルを個別に編集するか、TotalAgility 構成ユーティリティを実行してすべての設定を一度に変更することができます。構成ユーティリティはインストール メディアに収録されていて、手作業で TotalAgility サーバーにコピーする必要があります。『TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド』を参照してください。

パラメータ値の更新

TotalAgility サーバーを最初にインストールするときに、構成設定は NET ファイル Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config に保存されます。パラメータの値を変更するには、次の手順を実行します。

1. TotalAgility サーバーのインストール後に構成ファイルを暗号化した場合は、ファイルを復号化します。「TotalAgility 構成ファイルの暗号化と復号化」を参照してください。

❗ RSA 暗号化を使用する場合は、最初にファイルを暗号化したソース TotalAgility サーバーの構成ファイルのみを復号化します。

2. TotalAgility サーバーのインストール ディレクトリに移動します。
3. テキスト エディタで Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config を開きます。
4. 次のセクションを見つけます。

```
<appSettings>  
  <add key="KeyNameString" value="which may contain passwords;" />  
</appSettings>
```

5. 必要に応じてパラメータ値を編集します。
6. 構成ファイルを保存して閉じます。
7. 構成ファイルを再暗号化するには、暗号化ユーティリティを実行します。

❗ RSA 暗号化を使用する場合は、キーをエクスポートし、暗号化キー ファイルを、元の暗号化された構成ファイルをインポートしたターゲット TotalAgility サーバーにインストールします。

8. Kofax TotalAgility Core Worker サーバー サービスを再起動します。

ライセンス サーバーの設定の更新

TotalAgility をインストールする場合、デフォルトでは、プライマリ ライセンス サーバーが使用されます。プライマリ ライセンス サーバーに障害が発生した場合は、インストール後にバックアップ サーバーに手動で接続するか、構成ユーティリティを実行できます。

手動で行う

TotalAgility をインストールした後に、インストール ディレクトリにある KSALicenseService.exe のライセンス サーバー パラメータを更新できます。

1. Kofax ライセンス サーバー サービスを停止します。
2. TotalAgility サーバーのインストール ディレクトリに移動します。
3. テキスト エディタで、次のディレクトリにある KSALicenseService.exe.config を開きます。 \
 \Kofax\TotalAgility\LicenseServer。
4. 次のセクションを見つけて、serverID パラメータと connectionStrings パラメータを更新します。デフォルトでは、serverId値は「1」です。これは、プライマリ ライセンス サーバーに接続されていることを意味します。

```
<appSettings>
  <!-- Specify "1" for a primary license server or "2" for a backup license
  server. -->
  <add key="serverId" value="1"/>
</appSettings>
<connectionStrings>
  <add name="LicensingDatabase"
  connectionString="Server=<machinename>;Trusted_Connection=Yes;Database='
  TotalAgility ';" />
</connectionStrings>
```

- a. バックアップ ライセンス サーバーに接続するには、serverId 値を「2」に変更します。
 - b. オンプレミス環境のメイン DB を指すように LicensingDatabase 接続文字列を更新します。
5. 構成ファイルを保存して閉じます。

構成ユーティリティを使用する

構成ユーティリティを実行し、[ライセンス] タブで [バックアップ] ライセンス サーバー設定を選択します。『Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド』を参照してください。

エクスポート 垂直スケーリングのサポート

デフォルトでは、エクスポート インスタンスはありません。エクスポート インスタンスは、エクスポートの準備ができていてエクスポート アクティビティがある場合にのみ生成されます。エクスポートの準備が整ったエクスポート アクティビティが他にもある場合は、追加のエクスポート インスタンスが生成されます。エクスポート サーバーの複数のエクスポート インスタンスをサポートするように TotalAgility を構成できます。

1. TotalAgility サーバーのインストール ディレクトリに移動します。
2. テキスト エディタで Agility.Server.Core.ExportService.exe.config を開きます。

3. <appSettings> セクションを見つけて、必要に応じて MaxExportProcessesNumber の値を変更します。(デフォルト: 0)

```
<appSettings>
  <add key="MaxExportProcessesNumber" value="0"/>
</appSettings>
```

i Maximum number = Round of ((The number of machine processor count) * 1.25)

```
Maximum number = Round of ((The number of machine processor count) * 1.25)
```

この式は、MaxExportProcessesNumber が 0 以下の場合にのみ使用します。この値が 1 以上の場合は、エクスポート プロセス数が定義された値 (MaxExportProcessesNumber) と等しくなります。

クロス サイト リクエスト フォージェリ (CSRF) 対策

次の CSRF 対策を使用して、クロス サイト リクエスト フォージェリ攻撃からサイトを保護します。

- [Anti-CSRF トークンの構成](#)
- CSRF 攻撃を防ぐため、web.config の <hostCookies> タグで値が Strict または Lax の Samesite 属性を指定します。詳細については、Microsoft の Web サイトを参照してください。
- [Cookie のホスト プレフィックスの有効化](#)

クロス サイト リクエスト フォージェリ (CSRF) 対策トークン

CSRF 攻撃は、Web サイトで認証されているユーザーを利用します。攻撃は通常、電子メールや Web サイト上のハイパーリンクの形を取り、認証されたままになっているユーザーがそれをクリックすると成立します。この URL はユーザーの Web サイトをポイントしており、ユーザーが知らない間に特権アクション (管理者アカウントの追加など) の実行を試みます。TotalAgility では、TargetHostName および TargetPortNo の設定が、Web.config ファイルに CSRF 対策トークンとして追加されます。TargetHostName は Web サーバーの完全修飾ドメイン名で、TargetPortNo は Web サイトのポート番号です。これらの設定を指定すると、要求 URL に対して CSRF 対策の要求元および参照元の検証が実行されます。検証が失敗した場合、要求は潜在的に危険な要求であると見なされて強制終了されます。

CSRF 対策トークンは、Web.config で手動で構成するか、構成ユーティリティを使用して構成できます。

手動で行う

1. TotalAgility サーバーのインストール ディレクトリに移動します。
2. テキスト エディタで、次のディレクトリにある Web.config を開きます。


```
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web
```
3. 次のセクションを見つけて、ターゲット ホスト名とターゲット ポート番号を指定します。

```
<appSettings>
  <add key= "TargetHostName" value="<hostnamegoeshere"/>
  <add key= "TargetPortNo" value="443"
  </appSettings>
```

4. 構成ファイルを保存して閉じます。

構成ユーティリティを使用する

構成ユーティリティを実行し、TargetHostName および TargetPortNo の設定を指定します。『Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド』を参照してください。

Cookie のホスト プレフィックスの有効化

「Cookie にホスト プレフィックス」を使用します。これは、TotalAgility Cookie 名の前に「_HOST-」を付けることで、Cookie をより安全にするブラウザ機能です。Cookie 名がこのフラグで始まる場合、サポート ブラウザの Cookie に対して追加のブラウザ ポリシーがトリガーされます。「_Host」というプレフィックスがついた Cookie は、これが設定されている同じドメインからのみアクセスできます。つまり、サブドメインでは Cookie 値を上書きできなくなります。また、HTTPS サイトからのみ Cookie にアクセスできるようになります。これにより、攻撃者が安全ではない偽装サイトを使用してセキュアな Cookie を上書きした場合でも、Cookie が保護されます。

設定を手動で編集するか、設定ユーティリティを使用して Cookie のセキュリティを有効化または無効化します。

Web サーバーまたは Web/アプリケーション サーバーの組み合わせで、次の手順を実行します。

1. Kofax TotalAgility インストール メディアで \\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web に移動します。
2. テキスト エディタで web.config を開きます。
3. **<appSettings>** セクションを見つけ、「UseHostPrefixForCookies" value="true」値を確認します。

```
<appSettings>
  <add key="UseHostPrefixForCookies" value="true"/>
</appSettings>
```

構成ユーティリティを使用する

構成ユーティリティを実行し、必要に応じて [Web 設定] タブで [Cookie の Host- プレフィックス] を変更します。

格納型クロスサイト スクリプティングの脆弱性を防ぐために設定を更新する

TotalAgility では、セキュリティを強化して、格納型クロスサイト スクリプティングの脆弱性を防ぐことができます。

TotalAgility で https プロトコルを利用して、格納型クロスサイト スクリプティングの脆弱性を防ぎ、追加のセキュリティ レイヤーを有効にして、データの安全性を確保する必要がある場合。

TotalAgility がインストールされているコンピュータに URL リダイレクト モジュールがインストールされていることを確認します。

1. TotalAgility サーバーのインストール ディレクトリに移動します。
2. テキスト エディタで、次のディレクトリにある Web.config を開きます。

```
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web
```

3. 次のいずれかを行います。

- KCM がインストールされていない場合は、"HTTP to HTTPS redirect" ルールを見つけ、このルールを利用できる `rewrite` セクションをコメント解除します。
- KCM がインストールされていて、セキュリティレイヤーを追加する必要がある場合は、次の操作を実行します。

a. "HTTP to HTTPS redirect" ルール (太字で示されている) を見つけてコピーします。

```
<rewrite>
  <rules>
    <rule name="HTTP to HTTPS redirect" stopProcessing="true">
      <match url="(.)" />
      <conditions>
        <add input="{HTTPS}" pattern="off" ignoreCase="true" />
      </conditions>
      <action type="Redirect" url="https://{HTTP_HOST}/{R:1}"
redirectType="Permanent" />
    </rule>
  </rules>
  <outboundRules>
    <rule name="Add Strict-Transport-Security when HTTPS"
enabled="true">
      <match serverVariable="RESPONSE_Strict_Transport_Security"
pattern=".*" />
      <conditions>
        <add input="{HTTPS}" pattern="on" ignoreCase="true" />
      </conditions>
      <action type="Rewrite" value="max-age=31536000;
includeSubDomains" />
    </rule>
  </outboundRules>
</rewrite>
```

b. 次のセクションを見つけ、コピーしたルールを (太字で示されているとおりに) 貼り付けます。

```
<rewrite>
  <rules>
    <rule name="CCMInteractiveProxy" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/Interactive/(.)" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/ccm/
Interactive/{R:1}" />
    </rule>
    <rule name="CCMDesignerProxy" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/Repository/(.)" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/ccm/
Repository/{R:1}" />
    </rule>
    <rule name="ComposerUIJavascriptProxyRule" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/ccmcomposerui.js" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/proxy/
ccmcomposerui.js" />
    </rule>
    <rule name="ComposerUICssProxyRule" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/ccmcomposerui.css" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/proxy/
ccmcomposerui.css" />
    </rule>
    <rule name="ComposerTinyMCEProxyRule" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/tinymce/(.)" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/proxy/tinymce/
{R:1}" />
    </rule>
```

```

    <rule name="ComposerUIImgProxyRule" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/img/(.*)" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/proxy/img/
{R:1}" />
    </rule>
    <rule name="CCMDesignerStaticProxyRule" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/static/(.*)" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/ccm/static/
{R:1}" />
    </rule>
    <rule name="ComposerUIFontProxyRule" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/fonts/(.*)" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/proxy/fonts/
{R:1}" />
    </rule>
    <rule name="HTTP to HTTPS redirect" stopProcessing="true">
      <match url="(.*)" />
      <conditions>
        <add input="{HTTPS}" pattern="off" ignoreCase="true" />
      </conditions>
      <action type="Redirect" url="https://{HTTP_HOST}/{R:1}"
redirectType="Permanent" />
    </rule>
  </rules>

```

- c. 次のアウトバウンド ルール **"Add Strict-Transport-Security when HTTPS"** (太字で示されている) を見つけてコピーします。

```

<rule name="Add Strict-Transport-Security when HTTPS" enabled="true">
  <match serverVariable="RESPONSE_Strict_Transport_Security"
pattern=".*" />
  <conditions>
    <add input="{HTTPS}" pattern="on" ignoreCase="true" />
  </conditions>
  <action type="Rewrite" value="max-age=31536000;
includeSubDomains" />
</rule>
<rewrite>
  <rules>
    <rule name="HTTP to HTTPS redirect" stopProcessing="true">
      <match url="(.*)" />
      <conditions>
        <add input="{HTTPS}" pattern="off" ignoreCase="true" />
      </conditions>
      <action type="Redirect" url="https://{HTTP_HOST}/{R:1}"
redirectType="Permanent" />
    </rule>
  </rules>
  <outboundRules>
    <rule name="Add Strict-Transport-Security when HTTPS"
enabled="true">
      <match serverVariable="RESPONSE_Strict_Transport_Security"
pattern=".*" />
      <conditions>
        <add input="{HTTPS}" pattern="on" ignoreCase="true" />
      </conditions>
      <action type="Rewrite" value="max-age=31536000;
includeSubDomains" />
    </rule>
  </outboundRules>
</rewrite>

```

- d. CCM のアウトバウンド ルールの閉じ括弧の前に (太字で示されているとおりに) 貼り付けます。

```
<outboundRules>
  <rule name="HTTPCookie" precondition="IncomingNoSSLSecureCookie">
    <match serverVariable="RESPONSE_Set_Cookie" pattern="(.*);
Secure(.*)" />
    <action type="Rewrite" value="{R:1}{R:2}" />
  </rule>
  <rule name="HTTPSCookie" precondition="IncomingSSLNoSecureCookie">
    <match serverVariable="RESPONSE_Set_Cookie" pattern="(.*);
HttpOnly" />
    <action type="Rewrite" value="{R:1}; Secure; HttpOnly" />
  </rule>
  <preConditions>
    <preCondition name="IncomingNoSSLSecureCookie">
      <add input="{CACHE_URL}" pattern="^http://" />
      <add input="{RESPONSE_Set_Cookie}" pattern=".*; Secure.*" />
    </preCondition>
    <preCondition name="IncomingSSLNoSecureCookie">
      <add input="{CACHE_URL}" pattern="^https://" /><add
input="{RESPONSE_Set_Cookie}" pattern=".*; Secure.*" negate="true"/>
    </preCondition>
  </preConditions>
  <rule name="Add Strict-Transport-Security when HTTPS" enabled="true">
    <match serverVariable="RESPONSE_Strict_Transport_Security"
pattern=".*" />
    <conditions>
      <add input="{HTTPS}" pattern="on" ignoreCase="true" />
    </conditions>
    <action type="Rewrite" value="max-age=31536000;
includeSubDomains" />
  </rule>
</outboundRules>
```

4. 構成ファイルを保存して閉じます。

エクスポート アクティビティの待機時間の構成

エクスポート アクティビティの待機時間を秒単位で構成することにより、エクスポート サービスがこの期間の間、子エクスポート プロセスの可用性に基づいて、新規エクスポート アクティビティが進行するまで待機するように設定できます。

すべての子エクスポート プロセスが非アクティブ モードの場合 (つまり、使用可能なエクスポート アクティビティがない場合)、TotalAgility エクスポート サービスは構成された秒数の間、新規エクスポート アクティビティが処理されるまで待機します。子エクスポート プロセスがアクティブ モードの場合 (つまり、子プロセスがエクスポート アクティビティを実行している場合)、TotalAgility エクスポート サービスは、構成された秒数を待たずに、新規エクスポート アクティビティを即座に行ってエクスポートします。

1. TotalAgility インストール メディアの \\TotalAgilityInstall\CoreWorkerService に移動します。
2. テキスト エディタで Agility.Server.Core.ExportService.exe.config を開きます。
3. <appSettings> セクションを特定し、必要に応じて「WaitForAvailableExportActivitiesTimeoutInSeconds」の値を変更します。(デフォルト: 30)

```
<appSettings>
  <add key="WaitForAvailableExportActivitiesTimeoutInSeconds" value="30"/>
```

```
</appSettings>
```

i WaitForAvailableExportActivitiesTimeoutInSeconds の最小値は 1 で、最大値は 600 です。

変更を有効にするには、TotalAgility エクスポート サービスを再起動する必要があります。

手動認証の設定の更新

Web サーバーまたは Web/アプリケーション サーバーの組み合わせ、およびアプリケーション サーバーで、次の手順を実行します。

設定を手動で編集するか、構成ユーティリティを使用して手動認証を行います。

Web サーバーまたは Web/アプリケーション サーバーの組み合わせ

Web サーバーまたは Web/アプリケーション サーバーの組み合わせ、およびアプリケーション サーバーで、次の手順を実行します。

手動で行う

1. 次のディレクトリから TotalAgility の **Web.config** ファイルを開きます。C:\Program Files \Kofax\TotalAgility\Agility.Server.Web。
2. バインディング(「CustomBinding_CoreService」、「BasicHttpBinding_Service」、および「WebHttpBinding_Service」)を見つけて、3 つのすべてのセキュリティ モード構成をコメントアウトし、http を介して手動でログオンできるようにします。

```
<!-- The following are the different options for securing the services -->
<!-- All commented out is application manual logon over HTTP -->
<!-- Only one option should be uncommented at a time -->
<!-- Azure should use HTTPS SSL with application logon-->
<!-- On premise default: HTTP with Windows authentication-->
<!-- HTTPS SSL with application logon-->
<!--<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="None"/>
</security>-->
<!-- HTTP with Windows authentication-->
<security mode="TransportCredentialOnly">
  <transport clientCredentialType="Windows" />
</security>
<!-- HTTPS SSL with Windows authentication-->
<!--<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="Windows" />
</security>-->
```

i TotalAgility Web.config ファイルのセクション

TransformationServerExternalService_Binding の **security mode** および **transport clientCredentialType** を、Transformation Server の Web.config ファイルで指定された内容と同じにする必要があります。

構成ユーティリティを使用する

構成ユーティリティを実行し、必要に応じて [Web 設定] タブで認証モードを変更します。

アプリケーション サーバー

手動で行う

1. 次のディレクトリから TotalAgility の **Web.config** ファイルを開きます。C:\Program Files\Kofax\TotalAgility\Agility.Server.Web。
2. バインディング (「CustomBinding_CoreService」、「BasicHttpBinding_Service」、および「WebHttpBinding_Service」) を見つけて、3 つのすべてのセキュリティ モード構成をコメントアウトし、http を介して手動でログオンできるようにします。

```
<!-- The following are the different options for securing the services -->
<!-- All commented out is application manual logon over HTTP -->
<!-- Only one option should be uncommented at a time -->
<!-- Azure should use HTTPS SSL with application logon-->
<!-- On premise default: HTTP with Windows authentication-->
<!-- HTTPS SSL with application logon-->
<!--<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="None"/>
</security>-->
<!-- HTTP with Windows authentication-->
<security mode="TransportCredentialOnly">
  <transport clientCredentialType="Windows" />
</security>
<!-- HTTPS SSL with Windows authentication-->
<!--<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="Windows" />
</security>-->
```

構成ユーティリティを使用する

構成ユーティリティを実行し、必要に応じて [Web 設定] タブで認証モードを変更します。

手動および Windows 認証の設定の更新

TotalAgility をインストールするときに、ログオン モードを手動または Windows 認証として選択できます。ただし、インストール後に構成ユーティリティを実行して、Windows 認証と手動 (混合) 認証の両方を使用するようにログオン モードを切り替えることができます。Windows 認証が失敗した場合は、手動ログオン ページにリダイレクトされます。

Web サーバーまたは Web/アプリケーション サーバーの組み合わせで混合認証を使用する

Web サーバーまたは Web/アプリケーション サーバーの組み合わせで次の手順を実行して、混合認証 (Windows および手動) を設定します。

1. 次のディレクトリから TotalAgility の **Web.config** ファイルを開きます。C:\Program Files\Kofax\TotalAgility\Agility.Server.Web。
2. バインディング (BasicHttpBinding_Service および WebHttpBinding_Service) を見つけて、セキュリティ モード構成をコメントアウトし、http を介して手動でログオンできるようにします。
3. ClientWindowsService バインディング (BasicHttpWindowsUserBinding_Service および WebHttpWindowsUserBinding_Service) を見つけて、セキュリティ モード構成をコメントアウトし、http を介して Windows 認証でログオンできるようにします。

```
<!-- The following are the different options for securing the services -->
```

```

<!-- All commented out is application manual logon over HTTP -->
<!-- Only one option should be uncommented at a time -->
<!-- Azure should use HTTPS SSL with application logon-->
<!-- On premise default: HTTP with Windows authentication-->
<!-- HTTPS SSL with application logon-->
<!--<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="None"/>
</security>-->
<!-- HTTP with Windows authentication-->
<security mode="TransportCredentialOnly">
  <transport clientCredentialType="Windows" />
</security>
<!-- HTTPS SSL with Windows authentication-->
<!--<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="Windows" />
</security>-->

```

構成ユーティリティを使用する

TotalAgility をインストールした後に混合認証を使用するには、構成ユーティリティを実行し、必要に応じて、Web 設定タブで認証モード (HTTP with manual and Windows authentication または HTTPS with manual and Windows authentication) を切り替えます。

i 混合認証を使用するには、IIS で [匿名] オプションと [Windows 認証] オプションを両方有効にする必要があります。

TotalAgility リンク済みサーバーの設定の更新

設定を手動で編集するか、構成ユーティリティを使用して手動認証を行います。

手動で行う

TotalAgility をインストールすると、Web.config はリンク済みサーバーのマシン名/TotalAgility を使用して自動的に更新されます。パブリック IP アドレスから接続する場合は、Web.config ファイルを更新する必要があります。

1. 次のディレクトリから TotalAgility の **Web.config** ファイルを開きます。 \
 \TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web
2. 次のセクションを見つけて、IP アドレスをマシン名に置き換えます。

```

<add key=" TotalAgility HostNameLive" value = "<ip_address>/ TotalAgility " />
<add key=" TotalAgility HostNameDev" value = "<ip_address>/ TotalAgility "/>

```

詳細については『Kofax TotalAgility のヘルプ』を参照してください。

構成ユーティリティを使用する

構成ユーティリティを実行して、TotalAgilityHostNameLive キーを更新します。

Kofax TotalAgility Web サイトの仮想ルートの変更

1. 次のディレクトリから TotalAgility の **Web.config** ファイルを開きます。 \
 \TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web
2. 次の構成キーを変更して、Kofax TotalAgility Web サイトの仮想ルートを変更します。

```

<add key="WebsiteBaseName" value=" TotalAgility "/>

```

```
<add key="ProcessDocumentsRootFolder" value="/ TotalAgility /documents/process"/
```

① 「WebsiteBaseName」の値には、IIS 内で使用される仮想ディレクトリの名前を指定する必要があります。

カスタム ジョブ スレッド プールを追加する

ジョブ スレッドでは、ジョブの評価、例外ジョブの生成、Kofax インポート コネクタによる取り込みなど、複数の操作が一度に実行されます。複数の操作は、運用システムにボトルネックを引き起こす可能性があります。たとえば、アーカイブするジョブが数千ある場合、ジョブ スレッドがジョブのアーカイブでビジーになるため、取り込みとジョブの評価に時間がかかります。カスタム ジョブ スレッド プールを追加すると、スループットの向上とバックグラウンド タスクの優先順位付けに役立ちます。

手動で、または構成ユーティリティを使用して、カスタム ジョブ スレッド プールを追加し、スレッド プール内のスレッドの数を指定して、ワーカー タスクをスレッド プールに割り当てます。

手動で行う

1. TotalAgility サーバーのインストール ディレクトリに移動します。
2. テキスト エディタで、次のディレクトリにある **Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config** を開きます。

```
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web
```

3. 次のセクションを見つけます。

```
<configSections>  
  <section name="CoreWorker" type="Agility.Server.Core.Worker.Configuration,  
    Agility.Server.Core.Worker"/>  
</configSections>
```

4. CoreWorker セクション内に 1 つ以上のジョブ スレッド プールを追加し、必要に応じてワーカー タスクを追加します。以下に構成ファイルのサンプルを示します。

例

```
<CoreWorker>  
  <JobThreadPools>  
    <add Id ="1" Size ="16" WorkerTasks ="ArchiveJobTask, DeleteItemTask,  
      CreateExceptionTask, CreateJobTask, EvaluateJobTask,  
        ProcessStateActionTask, IngestSystemTask, CaptureBatchTask "/>  
  </JobThreadPools>  
</CoreWorker>
```


❶ 以下のワーカー タスクをスレッド プールに割り当てる必要があります。割り当てない場合、エラー メッセージが表示され、Core Worker サービスが動作を停止します。同じワーカー タスクを複数のスレッド プールに割り当てることはできません。

- ArchiveJob タスク
- EvaluateJob タスク
- CreateException タスク
- CreateJob タスク
- IngestSystem タスク
- CaptureBatch タスク
- DeleteItem タスク
- ProcessStateAction タスク

5. 構成ファイルを保存して閉じます。
6. TotalAgility Core Worker サービスを再起動します。

構成ユーティリティを使用する

構成ユーティリティを実行し、カスタム ジョブ スレッド プールを追加または更新し、スレッド プール内のスレッド数を指定して、ワーカー タスクをスレッド プールに割り当てます。

スレッド プールの監視間隔を追加する

長時間実行される自動アクティビティが Core Worker によって処理される場合、自動アクティビティ スレッド プール内のスレッドは、取得済みアクティビティがタイムアウトによってリセットされても解放されません。スレッド プールの監視間隔を構成すると、このような長時間実行される取得済みアクティビティがタイムアウトした後、そのスレッドを解放して、他のアクティビティの処理を進めることができます。

スレッド プールの監視間隔の構成は、手動で行うか、構成ユーティリティを使用して行うことができます。

手動で行う

1. TotalAgility サーバーのインストール ディレクトリに移動します。
2. テキスト エディタで、次のディレクトリにある **Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config** を開きます。

```
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web
```

3. 次のセクションを見つけて、スレッド プールの監視間隔を追加します (デフォルト: 60)。

```
<appSettings>  
  <add key="CoreWorkerThreadPoolMonitoringIntervalInSeconds" value="60"/>  
</appSettings>
```

デフォルト値は 60 です。

4. 構成ファイルを保存して閉じます。

5. TotalAgility Core Worker サービスを再起動します。

構成ユーティリティを使用する

構成ユーティリティを実行し、スレッド プールの監視間隔を追加します。『TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド』を参照してください。

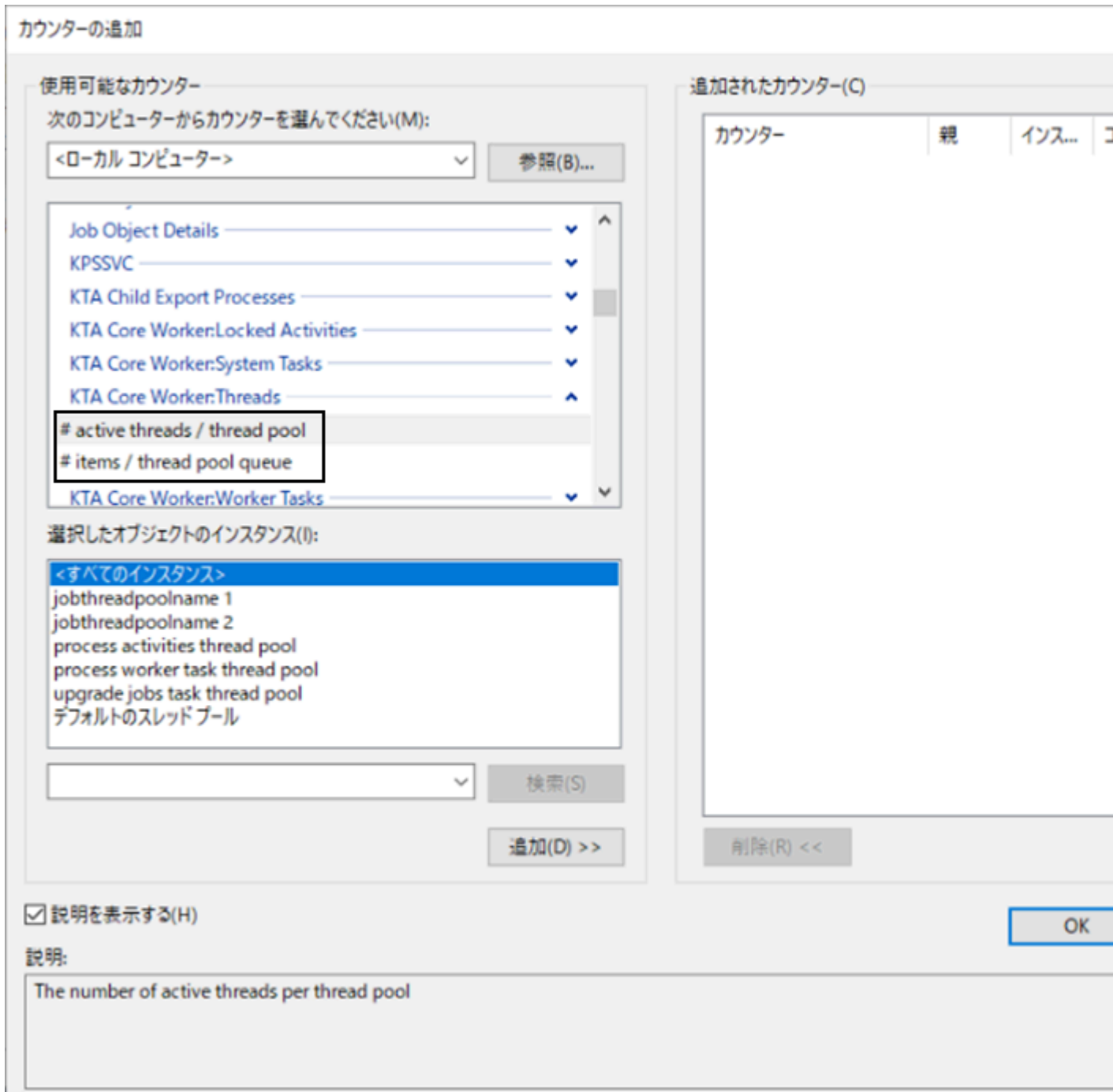
パフォーマンス監視カウンタを追加する

パフォーマンス カウンタを使用して、アプリケーションの状態とアクティビティを記録します。

Core Worker サービスとエクスポート サービスがインストールされると、TotalAgility パフォーマンス監視カウンタの以下のカテゴリが自動的にターゲット マシンにインストールされます。

- TotalAgility Core Worker: ロックされたアクティビティ
- TotalAgility Core Worker: システム タスク
- TotalAgility Core Worker: スレッド
- TotalAgility Core Worker: ワーカー タスク
- TotalAgility エクスポート サービス
- TotalAgility 子エクスポート プロセス

各カテゴリは、パフォーマンス カウンタに関連付けられています。パフォーマンス モニタが起動したら、インストールされたカウンタを選択し、現在の監視セッションに追加できます。各インスタンスは、パフォーマンス カウンタに記録されます。たとえば、「スレッド プールごとのアクティブ スレッド」パフォーマンス カウンタは、下の図に示すように、スレッド プールごとのインスタンスを記録します。



ログ機能を有効にして、各パフォーマンス カウンタを TotalAgility ログ ファイルに記録できます。パフォーマンス監視カウンタの詳細については、『Kofax TotalAgility 管理者ガイド』を参照してください。

言語パックをインストールする

言語ファイルは、インストール ディレクトリ内の次の場所にあります。

```
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web
```

TotalAgility のインストール後、TotalAgility メニューの「言語のインポート」機能を使用して、<言語>.zip をインポートします。

ブラウザの言語をサポートされている言語のいずれかに変更すると、対応する翻訳が表示されます。

i 言語パックのインストール後、ブラウザの表示言語に従って、Workspace のみがローカライズされます。

.NET Framework 言語パックをインストールする

.NET のシステム エラー メッセージをローカライズするには、Web サーバーとアプリケーション サーバーの両方に .NET Framework 言語パックをインストールする必要があります。

.NET Framework 言語パックは、Microsoft の Web サイトからダウンロードできます。

ウイルス対策スキャンからのフォルダの除外

ウイルス対策アプリケーションで、スキャンから除外する項目のリストに次の TotalAgility フォルダを追加します。

- \\ProgramData\Kofax
- \\Program Files (x86)\Common Files\Kofax
- \\Program Files\Kofax\TotalAgility\

TotalAgility ドキュメントにアクセスする

オンラインおよびオフライン モードでヘルプにアクセスできます。

オンライン ドキュメント

Kofax TotalAgility 7.10.0 の製品ドキュメントは、現在、次の場所から入手できます。

<https://docshield.kofax.com/Portal/Products/KTA/7.10.0-vmhad0mru4/KTA.htm>

製品のインストール済みバージョンのオンライン ヘルプを起動するには、アプリケーションの [ヘルプ] アイコンをクリックします。



- TotalAgility 7.10.0 を以前のバージョンからアップグレードすることについて TotalAgility Workspace のヘルプを表示するには、TotalAgility Workspace パッケージから WorkspaceHeader フォームをインポートする必要があります。
- TotalAgility 7.10.0 を以前のバージョンからアップグレードするときに、Workspace ヘルプをオンラインで表示するには、[システム Workspace パッケージのインポート] チェック ボックスが選択されていることを確認してください。選択されていない場合は、TotalAgility Workspace パッケージから WorkspaceHeader フォームをインポートする必要があります。

オフライン ドキュメント

ドキュメントにオフラインでアクセスするには、[Kofax フルフィルメント サイト](#)からドキュメントをダウンロードできます。言語ごとに、個別のドキュメント パッケージを圧縮ファイルとしてダウンロードできます (英語は Kofax TotalAgility Documentation7.10.0_EN.zip、フランス語は Kofax TotalAgility Documentation7.10.0_FR.zip など)。

英語の .zip ファイルには、help と print の両方のフォルダが含まれています。print フォルダには、インストール ガイドや管理者ガイドなど、すべてのガイドが含まれています。他の言語の .zip ファイルには、ローカライズされたヘルプ ファイルのみが含まれています。

次の手順は、英語の TotalAgility ドキュメントにオフラインでアクセスする方法を示しています。

1. Kofax フルフィルメント サイトから、該当する言語の documentation.zip ファイルをダウンロードします。
2. 圧縮されたドキュメント ファイルの内容をローカル マシンに抽出します。

3. TotalAgility インストール メディアの `Agility.Server.Web\Help` フォルダ内に、目的の言語のフォルダを作成します。たとえば、英語版の TotalAgility ドキュメントにオフラインでアクセスするには、次のように EN フォルダを作成します。

i 分散環境では、Web サーバーでファイルのコピーを実行し、アプリケーション サーバーおよび Web サーバーで `Web.config` を変更します。

- Designer フォルダの内容を次の場所にコピーします。

```
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Help\TotalAgility_designer\EN
```

i TotalAgility インストーラによって、Help フォルダ内に Kofax TotalAgility Designer フォルダと API フォルダが作成されます。Workspace や TotalAgilityApps など、その他のフォルダを手動で作成してから、それぞれのフォルダに内容をコピーする必要があります。

- Workspace フォルダの内容を次の場所にコピーします。

```
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Help\Workspace\EN
```

- WebCaptureControl フォルダの内容を次の場所にコピーします。

```
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Help\WebCaptureControl\EN
```

- TransformationDesigner フォルダの内容を次の場所にコピーします。

```
<%ProgramData%>\Kofax\Transformation\help\en_US\help  
\TransformationDesigner
```

- TenantManagementSystem フォルダの内容を次の場所にコピーします。

```
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web.TenantManagement  
\TenantManagement\Help\TenantManagementSystem\EN
```

- TotalAgilityApps フォルダの内容を次の場所にコピーします。

```
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Help\TotalAgilityApps\EN
```

- ExportConnector フォルダの内容を次の場所にコピーします。

```
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Help\ExportConnector_help\EN
```

- CaptureClient フォルダ内のアクティビティ フォルダ (DocumentReviewActivity フォルダなど)の内容を次の場所にコピーします。

```
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Forms\Controls\Capture\Help  
\DocumentReviewActivity\EN
```

- Devices フォルダの内容を次の場所にコピーします。

```
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\bin\Administrative\Help\Devices  
\EN
```

- RepositoryBrowser フォルダの内容を次の場所にコピーします。

```
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Help\RepositoryBrowser\EN
```

- SDK_Documentation フォルダの内容を次の場所にコピーします。

```
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Help\API\EN
```

- DocumentConverter フォルダの内容を次の場所にコピーします。

```
\\Kofax\Document Converter\web\en\WebHelp
```

- MessageConnector フォルダの内容を次の場所にコピーします。

```
\\Kofax\KIC-ED\MC\web\en\WebHelp
```


4. インストール フォルダに移動し、次の操作を行います。
 - TotalAgility のヘルプとデバイス ヘルプの場合:
 - a. テキスト エディタで、次の場所にある TotalAgility Web.config を開きます。
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web
 - b. <appSettings> セクションを見つけ、キー値から http://docshield.kofax.com/KTA を削除します。<add key="OnlineHelpURL" value="http://docshield.kofax.com/KTA"/>。
または、構成ユーティリティ (インストール メディアの \\TotalAgilityInstall\Utilities\ConfigurationUtility から入手可能) を実行し、OnlinehelpURL 設定からオンライン ヘルプの URL を削除します。
 - Kofax エクスポート コネクタ ヘルプの場合:
 - a. テキスト エディタで、次の場所にある Agility.Server.ExportConnector.exe.config を開きます。
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\bin
 - b. <appSettings> セクションを見つけ、キー値から http://docshield.Kofax.com/KTA を削除します。<add key="OnlineHelpURL" value="http://docshield.kofax.com/KTA"/>。
 - Message Connector ヘルプの場合:
 - a. テキスト エディタで、次の場所にある configuration.xml を開きます。
\\Kofax\KIC-ED\MC\web
 - b. <OnlineHelp>1</OnlineHelp> セクションを見つけ、1 を 0 に置き換えます。
 - ドキュメント コンバータのヘルプの場合:
 - a. テキスト エディタで、次の場所にある configuration.xml を開きます。
\\Kofax\Document Converter\web
 - b. <OnlineHelp>1</OnlineHelp> セクションを見つけ、1 を 0 に置き換えます。
5. 構成ファイルを保存して閉じます。
[ヘルプ] アイコンをクリックすると、インストールされている製品のヘルプが起動されます。

EVRSCheck ユーティリティの実行

EvrCheck ユーティリティは、eVRS 設定が適用された後のイメージの外観をテストするのに役立ちます。設定を適用すると、アプリケーション ウィンドウの左半分には元のイメージが表示され、右半分には処理後のイメージが表示されます。

1. TotalAgility のインストール フォルダの次の場所にある **EvrCheck.exe** を実行します。
\\TotalAgilityInstall\Utilities\EvrCheck
[前後] ウィンドウが開きます。
2. 選択 をクリックしてイメージを選択します。
選択したイメージとそのメタデータがウィンドウの左半分に表示されます。選択したイメージが複数ページのイメージの場合、「<」および「>」ボタンを使用してページ間を移動できます。

3. 目的の eVRS 設定をコピーして、**EVRS** 設定 ボックスに貼り付けます。イメージは、eVRS 設定に基づいて処理されます。出力がメタデータとともにウィンドウの右半分に表示されます。

 eVRS 設定を編集できます。入力すると、イメージの再処理が開始されます。

第3章

Transformation Server バンドルのインストール

Transformation Server Bundle には、以下が含まれています。

- Transformation Server
- 変換コア モジュール

いずれかのコンポーネントをインストールするには、Transformation Server Bundle 全体をインストールする必要があります。

Transformation Server Bundle は、TotalAgility をインストールするときにインストールできます。また、Transformation Server Bundle を別途インストールすることもできます。



- Transformation Server Bundle をインストールする前に、ご使用の環境に USERTrust 証明書と DigiCert Assured ID Root CA 証明書をインストールしなければならない場合があります。これらの証明書がないと、インストールが失敗することがあります。
- 開発環境では、TotalAgility をインストールした場所に Transformation Server Bundle をインストールしてください。本番環境では、別のコンピュータに Transformation Server Bundle をインストールしてください。
- TotalAgility とは別に Transformation Server または Transformation Designer をインストールする場合、サポートされているバージョンの .NET Framework がそのマシンにインストール済みであることを確認してください。
- Transformation Server を実行するユーザーには、「サービスとしてログオンする」権限が必要です。また、Transformation Server を実行しているユーザーが、Windows 認証が使用されるすべての通信チャンネルに使用されます。たとえば、Windows 認証が SQL Server に使用されている場合、このユーザーにはこのサーバーに対する権限が必要です。権限がないと、Transformation Server は動作しません。
- Transformation Server のインストール後は、Transformation Server の構成ファイルを編集するか、構成ユーティリティを実行して、構成設定を変更できます。『Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド』を参照してください。

サイレント インストールの実行

このセクションでは、TotalAgility に関係なく、Transformation Server Bundle のサイレント インストールを行う方法について説明します。

1. TotalAgility インストール メディアの \\Transformation Server に移動します。

2. コマンドプロンプト ウィンドウで、次のコマンドを実行します。

```
TransformationServerSetup.exe /quiet /log %LogFile% TS_INSTALLLOCATION=
%InstallLocation% TS_SERVICE_ACCOUNT=%WindowsServiceAccount%
TS_SERVICE_PASSWORD=%WindowsServicePassword% TS_USE_SPECIFIC_POOL=
%UseSpecificPool% TS_POOL_NAME=%PoolName% TS_OL_ENABLED=%OLEnabled
% TS_WCF_PORT=%WcfPort% TS_RESERVED_SLOTS=%ReservedSlots%
TS_OVERRIDE_DEF_SLOTS=%OverrideDefSlots% TS_MAX_SLOTS=%MaxSlots%
TS_ENABLE_SYNC_CALLS=%EnableSyncCalls% TS_SYNCHRONOUS_ONLY=FALSE
TS_STARTSERVICE=TRUE TS_MAIN_DB_CONNECTION_STRING=
%MainDBConnectionString% TS_AUDIT_DB_CONNECTION_STRING=
%AuditDBConnectionString% TS_REPORTING_STAGING_DB_CONNECTION_STRING=
%ReportingStagingDBConnectionString% TS_ARCHIVE_DB_CONNECTION_STRING=
%ArchiveDBConnectionString% %TS_INSTALL_OCR_ADDONS=%
```

! 必要に応じて、インストール コマンドで `TS_SETUP_CONFIG_FILE` を呼び出します。このプロパティには、インストーラの構成ファイルに対する絶対パスが必要です。構成ファイルには、1 行に 1 つのパラメータのみを含めることができます。このような構成ファイルを使用すると、`setup.exe` が機密データを記録できなくなります。

TS_SETUP_CONFIG_FILE の例:

```
TS_INSTALLLOCATION= "<Installation path>\ Kofax \ TotalAgility \ Transformation
Server\"
TS_SERVICE_ACCOUNT=**account name**
TS_SERVICE_PASSWORD=**Password**
TS_SERVER_SERVICE_URL= https://**Name/IP**/ TotalAgility /Services/Core/
ServerService.svc
TS_USE_SPECIFIC_POOL=FALSE
TS_POOL_NAME=
TS_OL_ENABLED=TRUE
TS_WCF_PORT=9001
TS_RESERVED_SLOTS=0
TS_OVERRIDE_DEF_SLOTS=
TS_MAX_SLOTS=0
TS_ENABLE_SYNC_CALLS=TRUE
TS_MAIN_DB_CONNECTION_STRING=Server=**Name/
IP**;Trusted_Connection=Yes;Database=**DB Name**;
TS_AUDIT_DB_CONNECTION_STRING=Server=localhost;Trusted_Connection=Yes;
Database=TotalAgility;
TS_ARCHIVE_DB_CONNECTION_STRING=Server=localhost;Trusted_Connection=Yes;
Database=TotalAgility;
TS_REPORTING_STAGING_DB_CONNECTION_STRING=Server=localhost;
Trusted_Connection=Yes;Database=TotalAgility_Reporting_Staging;
TS_STARTSERVICE=TRUE
TS_SYNCHRONOUS_ONLY=false
TS_INSTALL_OCR_ADDONS=1
```

Transformation Server パラメータの詳細については、「[同じサーバーへの Web およびアプリケーションのサイレント インストール](#)」の「Transformation Server の情報」セクションを参照してください。

パラメータ名では大文字と小文字が区別されます。パラメータの値にスペースが含まれている場合は、値を引用符で囲みます。

3. インストールが予測どおりに機能することを確実にするには、次の手順を実行します。

- a. [プログラム ファイル]/Kofax/TotalAgility/Agility.Server.Web に移動して、テキスト エディタで `Web.config` を開きます。

- b. TransformationServerExternalService_Binding バインディング パラメータを見つけ、<transport ClientCredentialType> 値が Windows に設定されていることを確認します。
- c. Web 構成ファイルを保存して、閉じます。

標準インストールの実行

1. Transformation Server を実行するユーザーに[サービスとしてログオン]権限があることを確認してください。
2. 次のいずれかの方法で Transformation Server Bundle インストーラにアクセスします。
 - 本番システム: Transformation Server Bundle とは別に TotalAgility をインストールします。インストール メディアの \\Transformation Server\Transformation Server に移動し、次のいずれかのコマンドを実行します。
 - ログ ファイルを作成しないでインストールするには、**Transformation ServerSetup.exe** を実行します。
 - **[Kofax Transformation Server 7.10]** ウィンドウが開きます。
 - インストールして、ログ ファイルを作成するには、**setup.exe/log <path\install_log.txt>** を実行します。ここで、<path\install_log.txt> はログのパスおよび名前です。
 - 開発システム: Transformation Server Bundle を TotalAgility インストールの一環としてインストールする場合、Transformation Server Bundle インストーラは自動的に開きます。
3. **[Kofax Transformation Server 7.10]** ウィンドウで、**[オプション]** をクリックし、次の手順を実行します。

セットアップ オプション	
マルチテナント インストール	選択した場合、オンプレミスのマルチテナンシー環境に Transformation Server をインストールします。(デフォルト: クリア)
追加の A2iA エンジン [サポートされていません]	選択した場合、追加の OCR エンジン (A2iA CheckReader および A2iA FieldReader) をインストールします。(デフォルト: 選択済み)
自然言語処理言語バンドル	
西洋語 (en, es, pt, fr, de) (デフォルト: 選択済み)	選択した場合、自然処理言語バンドルをインストールします。
西洋語拡張 (it, ro, nl)	
拡張 (ja, zh, ko)	

4. **[インストール]** をクリックします。
必要なすべての前提条件がインストールされます。
5. **[次へ]** をクリックします。
[Kofax Transformation Server のセットアップ ウィザード] ウィンドウが開きます。
6. **[次へ]** をクリックします。
7. ライセンス契約ウィンドウで、ライセンス契約書の条項に同意します。
Transformation Server が TotalAgility インストールの一環として自動的にインストールされている場合は、このウィンドウは表示されません。

8. [次へ] をクリックします。
Transformation Server のインストール先フォルダを指定するよう求められます。
9. インストール先を入力して、[次へ] をクリックします。
10. [サービス アカウントのセットアップ] ウィンドウで、Transformation Server を実行するユーザーの資格情報を入力します。これらの資格情報は、機密データの暗号化にも使用されます。
 - a. [ユーザー名] フィールドにユーザー名を入力します。ドメイン ユーザーを指定するには、<ドメイン>\<ユーザー> の形式でユーザー名を入力します。
 - b. [パスワード]を入力し、確認します。
 - c. [次へ] をクリックします。

[接続データの設定] ウィンドウが開きます。
11. メイン、監査、アーカイブ、および Reporting_Staging データベースの接続文字列を入力し、データベースに接続して、データベースを認証します。
次の構文を使用します。


```
Server=<server address>;Database= TotalAgility ;User ID=<user_name>;
Password=<password>;
```

分割された Web/アプリケーションにインストールする場合は、次の構文を使用します。

```
Server=<server name>; Trusted_Connection=yes; Database=<database name>;
```

データベース サーバーのアドレスと、データベースで認証するためのユーザー名とパスワード (指定されている場合) を指定します。例:

```
Server=dbserver\dbinstance;Database= TotalAgility ;User
ID=dbo_id;Password=dbopassword;
```
12. [次へ] をクリックします。
13. TotalAgility サーバーとの接続オプションを指定します。
 - a. Transformation Server でオンライン ラーニング タスクを処理できるようにするには、[Transformation Server インスタンスによるオンライン ラーニング処理の有効化] を選択します。
 - b. オプションで、[特定の Transformation Server プールからのアクティビティの処理] を選択して、[プール名] を入力します。

① デフォルト プールを選択するには、[デフォルトの Transformation Server スレッド プール] を選択します。
14. [次へ] をクリックします。
[詳細な実行オプション] ウィンドウが開きます。これらのオプションは、受信した高優先順位のアクティビティ用に用意されているスロットを制御します。
15. 詳細な実行オプションを選択します。
 - [Quick Capture のサポートの有効化]: Quick Capture ソリューション サービスをサポートするために必要なバックエンド サービスを提供するには、このオプションを選択します。

- [同期コール処理の有効化]: TCP/IP ポートと予約済み処理スロットの数を構成するには、このオプションを選択します。デフォルトの TCP/IP ポートは 9001 です。予約されている処理スロットの数は 0 です。

i バージョン 7.0.0 からアップグレードするときに、予約済み処理スロットの数がゼロの場合は「同期コール処理の有効化」が無効になり、予約済み処理スロットが 1 つ以上ある場合は有効になります。

- [デフォルトの処理スロット数の上書き]: デフォルト以外のスロット数を指定するには、このオプションを選択します。
16. [次へ] をクリックします。
Kofax Transformation Server のインストール準備ができました。
 17. [インストール] をクリックして Transformation Server をインストールします。
Transformation Server のセットアップが完了すると、インストールのステータスとメッセージが表示されます。
 18. [終了] をクリックして続行します。
Transformation Server Bundle のセットアップが成功すると、Transformation Server Bundle セットアップのステータスおよびメッセージが表示されます。
 19. [閉じる] をクリックして、成功メッセージ ウィンドウを閉じます。
 20. インストールが予測どおりに機能することを確実にするには、次の手順を実行します。
 - a. [プログラム ファイル] / Kofax / TotalAgility / Agility.Server.Web に移動して、テキスト エディタで Web.config を開きます。
 - b. TransformationServerExternalService_Binding バインディング パラメータを見つけ、<transport ClientCredentialType> 値が Windows に設定されていることを確認します。
 - c. Web 構成ファイルを保存して、閉じます。
 21. サービス コンソールから、Kofax Transformation Server サービスを開始します。
 22. 必要に応じて、ウイルス対策またはファイアウォールアプリケーションを再起動します。

構成ファイルの暗号化および復号化

構成ファイルには、機密情報などの Transformation Server 設定が含まれています。そのため、このファイルを暗号化することをお勧めします。Transformation Server では、コマンドラインパラメータに応じて次の 2 つの暗号化方法を使用できます。

- **DPAPI 暗号化:** ファイルを暗号化したときと同じマシンでファイルを復号化する必要があるため、このユーティリティは、一度に 1 つのサーバーを暗号化する場合に使用します。「[Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe の使用](#)」を参照してください。
- **RSA 暗号化:** 2 つの独立したキーを使用する、公開キー暗号化とデジタル署名のアルゴリズムです。1 つの Transformation Server でキーを作成し、構成ファイルを暗号化して、他のすべての Transformation Server にキーをエクスポートします。エクスポートしたキーがインストールされているすべての Transformation Server から、構成ファイルにアクセスできます。同じ構成 (TAService ID、プール名など) の Transformation Server がいくつかある場合は、この方法を使用します。「[RSA 暗号化の使用](#)」を参照してください。

構成ファイルの復号化するには、「[構成ファイルの復号化](#)」を参照してください。

Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe の使用

Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe ユーティリティは、構成ファイルの CPU Server および appSettings セクションを暗号化 (-enc) または復号化 (-dec) します。CPU Server セクションには、TotalAgility セッション ID が含まれています。AppSettings セクションには、ユーザー ID、パスワード、その他の情報が含まれています。オプションの -h フラグを使用すると、コマンドのヘルプが表示されます。

Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe を使用したファイルの暗号化

各 Transformation Server で個別にユーティリティを実行します。

1. Transformation Server サービスを停止します。
2. Transformation Server インストール ディレクトリに移動し、コマンド プロンプト ウィンドウを開きます。
3. 次のコマンドを実行します。

```
Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe -f Kofax.CEBPM.CPU Server.ServiceHost.exe.config -s "appSettings" -p DPAPIProtection -enc
```

RSA 暗号化の使用

RSA 暗号化を使用して構成ファイルを暗号化し、暗号化キーをエクスポートして、暗号化キー ファイルを複数の Transformation Server にインストールします。同じ構成 (TASession ID、プール名など) の Transformation Server がいくつかある場合は、この方法を使用します。

以下の手順は、キーを作成するソース Transformation Server と、キーをインポートするターゲット Transformation Server とで異なります。

キーを準備する

1 つのソース Transformation Server で、これらの手順を実行します。

1. カスタム RSA キー コンテナを作成します。
 - a. 管理者権限で Transformation Server にログオンします。
 - b. コマンド プロンプト ウィンドウを開きます。
 - c. .NET Framework バージョン 4.5 のディレクトリに移動します。たとえば、次のコマンドを入力します。

```
cd \WINDOWS\Microsoft.Net\Framework\v4.5.*
```
 - d. 次のコマンドを実行します。

```
aspnet_regiis -pc "<キー ファイル>" -exp
```

ここで、
 - <キー ファイル> は、キー ファイルの名前です。
 - -exp オプションは、キーをエクスポート可能にします。

2. 次のコマンドを実行して、Transformation Server サービスユーザーに <キー ファイル> RSA コンテナファイルを読み取る権限を付与します。

```
aspnet_regiis -pa "<キー ファイル>" "<TS サービスユーザー>"
```

ここで、

- <キー ファイル> は、手順 1d で作成したキー ファイルの名前です。
- <TS サービスユーザー> は、Transformation Server サービスユーザーです。

3. ファイルを暗号化する

- a. Transformation Server サービスユーザーとして Transformation Server にログオンします。
- b. Transformation Server のインストール ディレクトリに移動し、コマンドプロンプト ウィンドウを開きます。
- c. 次のコマンドを実行します。

```
Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe -f  
Kofax.CEBPM.CPUServer.ServiceHost.exe.config -s "appSettings" -p  
RSAProvider -enc
```

このコマンドは、構成ファイルの CPU Server セクションと AppSettings セクションを暗号化します。CPU Server セクションには、TotalAgility セッション ID が含まれています。AppSettings セクションには、ユーザー ID、パスワード、その他の情報が含まれています。

4. 次のコマンドを実行してキーをエクスポートします。

```
aspnet_regiis -px "<キー ファイル>" "<c:\keys.xml>" -pri
```

ここで、

- <キー ファイル> は、デフォルトのキー ストア キー コンテナ名です。
- <c:\keys.xml> は、エクスポートされるキー ファイルのパスとファイル名です。

キーをインポートする

すべてのターゲット Transformation Server で以下の手順を実行します。

1. キーをインポートします。

- a. 管理者権限で Transformation Server にログオンします。
- b. keys.xml ファイルをソース Transformation Server からターゲット Transformation Server のルート ディレクトリにコピーします。
- c. コマンドプロンプト ウィンドウを開きます。
- d. 次のコマンドを実行します。

```
aspnet_regiis -pi "<キー ファイル>" "c:\keys.xml"
```

ここで、

- <キー ファイル> は、キー ファイルのデフォルト名です。
 - <c:\keys.xml> は、インポートされるキー ファイルのパスとファイル名です。
- e. keys.xml は、保護されていない秘密キーが含まれているため、削除します。

2. 次のコマンドを実行して、Transformation Server サービス ユーザーに <キー ファイル> RSA コンテナ ファイルを使用する権限を付与します。

```
aspnet_regiis -pa "<キー ファイル>" "TS サービス ユーザー"
```

ここで、

- <キー ファイル> は、手順 1 でインポートしたキー ファイルの名前です。
- <TS サービス ユーザー> は、Transformation Server サービス ユーザーです。

3. 残りのすべての Transformation Server で、この手順を繰り返します。

構成ファイルの復号化

1. Transformation Server サービスを停止します。
2. Transformation Server インストール ディレクトリに移動し、コマンドライン ウィンドウを開きます。
3. 次のコマンドを実行します。

```
Kofax.CEBPM.EncryptConfig.exe -f
Kofax.CEBPM.CPUServer.ServiceHost.exe.config -s "appSettings" -p
DPAPIProtection -dec
```

構成ファイルを編集する

システム構成が変更されたときや、技術的問題またはパフォーマンスの問題を解決する必要があるときは、Transformation Server 構成ファイル **Kofax.CEBPM.CPUServer.ServiceHost.exe.config** を変更します。

1. Transformation Server のインストール後に構成ファイルを暗号化したときは、ファイルを復号化します。「[構成ファイルの復号化](#)」を参照してください。

i RSA 暗号化が使用されている場合は、最初にファイルを暗号化したソース Transformation Server のみについて構成ファイルを復号化します。

2. Transformation Server のインストール ディレクトリに移動し、**Kofax.CEBPM.CPUServer.ServiceHost.exe.config** を見つけます。
3. ファイルをバックアップし、セキュアな場所に保存します。
4. テキスト エディタで構成ファイルを開きます。
5. システム構成オプションを変更するには、<appSettings> セクションのキーを変更します。このセクションには、構成オプションを設定するためのキーのリストが含まれています。次の例に示すように、変更できるものには、設定とサポートされている値を説明するコメントが付いています。

```
<!-- Maximum number of instances allowed for Executor Process -->
  <add key="MaxNumberOfTenantProcesses" value="1"/>
```

6. コメントに示されているように、引用符の内側の値をサポートされている値に変更します。

7. イベント ビューアによって表示できるアプリケーション イベント ログにエラーをレポートする方法を変更するには、**<system.diagnostics>** セクションを次のように変更します。

- a. **<switches>** の下で、次の要素を見つけます。

```
<add name="TraceLevelSwitch" value="Warning"/>
```

デフォルトでは、値は Warning に設定されており、エラー メッセージと警告メッセージがレポートされます。コメントにリストされているオプションのいずれかに値を変更して、レポートされるメッセージのタイプを変更します。

- b. **<sharedListeners>** の下で、次の行を見つけます。

```
<add name="CPUserverLogTxt" type="
Kofax .CEBPM.CPUserver.Common.Diagnostics.DateTimeTaggedTraceListener,
Kofax .CEBPM.CPUserver.Common" initializeData=" Kofax CPUserverLog.log" >
```

別のログ ファイルを指定するか、**timestamps** の形式を変更するには、ファイル内のコメントに示されているように、**initializeData** の値を変更します。

8. 構成ファイルを保存して閉じます。
9. 構成ファイルを再暗号化するには、暗号化ユーティリティを実行します。「[構成ファイルの暗号化および復号化](#)」を参照してください。

i RSA 暗号化を使用した場合は、キーをエクスポートし、暗号化した元の構成ファイルをインポート済みのすべてのターゲット Transformation Server に、その暗号化キー ファイルをインストールします。

10. Kofax Transformation Server サービスを再起動します。

NLP 言語パックを手動でインストールする

Transformation Designer がソリューションの Transformation Server バンドルと異なるサーバーにインストールされている場合は、Transformation Designer がインストールされているマシンに Kofax NLP エンジンの言語パックをインストールする必要があります。これは、Kofax NLP エンジンの言語パックは Transformation Server バンドルによってのみインストールされ、これらの言語は Transformation Designer および本番環境で Kofax NLP 機能を使用するために必要であるためです。

Kofax NLP エンジン言語パックをインストールするには、元の Kofax TotalAgility インストール zip ファイルにアクセスする必要があります。

Kofax NLP エンジン言語パックは、次の手順に従ってインストールできます。

1. 抽出した Kofax TotalAgility インストール zip ファイル内の TotalAgility \TransformationServer\KofaxTransformation_Salience6.4 パスに移動します。

2. サポートする言語に応じて、次のいずれかの .MSP ファイルをダブルクリックします。
 - **KofaxTransformation_SalienceV6.4.0_LanguageBundle_western-default。**
英語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語、およびドイツ語のサポートをインストールする場合に実行します。
 - **KofaxTransformation_SalienceV6.4.0_LanguageBundle_western-extended。**
イタリア語、ルーマニア語、およびオランダ語のサポートをインストールする場合に実行します。
 - **KofaxTransformation_SalienceV6.4.0_LanguageBundle_extended。**
日本語、中国語、および韓国語のサポートをインストールする場合に実行します。

Windows インストーラのウィンドウが表示され、選択した Kofax NLP 言語が自動的にインストールされます。

インストールが完了すると、インストーラ ウィンドウが閉じます。
3. オプションで追加の言語をサポートする場合は、別の言語インストーラをダブルクリックします。

サイレント インストールを使用した Transformation Server のアップグレード

サイレント モードで Transformation Server をアップグレードするには、次のコマンドを使用して、サンプル コンテンツを独自の環境に置き換えます。

```
setup.exe /quiet /Upgrade /log installation.log TS_SERVER_SERVICE_URL=http://
<Server> / TotalAgility /Services/Core/ServerService.svc TS_INSTALLLOCATION="
<Program Files> \ Kofax \ TotalAgility \Transformation Server"
TS_MAIN_DB_CONNECTION_STRING="Server=servername;Database=databasename;User
Id=sa;Password=password" TS_SERVICE_ACCOUNT=serviceName
TS_SERVICE_PASSWORD=password TS_STARTSERVICE=TRUE
```

Transformation Server をアンインストールする

Transformation Server のアンインストールは、インストールした方法に応じて行います。

- Kofax TotalAgility 標準インストールの一部として Transformation Server をインストールした場合、TotalAgility をアンインストールすると、Transformation Server も自動的にアンインストールされます。
- Transformation Server を別のシステムにインストールした場合、Transformation Server Bundle はコントロール パネルからアンインストールします。
- サイレント モードでアンインストールするには、次の手順を実行します。
 - TransformationServerSetup.exe のルート ディレクトリに移動します。
 - TransformationServerSetup.exe / uninstall / quiet を実行します。

システムによって Transformation Server がアンインストールされ、一時ファイル フォルダにログ ファイルが自動的に作成されます。このログ ファイルには、エラーに関する情報が含まれています (存在する場合)。

第 4 章

レポート サーバーのインストール

この章では、Kofax Reporting サーバーをインストールする次の 2 つの方法について説明します。

- TotalAgility から独立して行われる、レポート サーバーのサイレント インストール
- インストール ウィザードを使用した標準インストール。

開発環境では、TotalAgility をインストールした場所にレポート サーバーをインストールします。そうでない場合は、TotalAgility のインストール先と同じドメイン内の別のシステムにレポート サーバーをインストールします。

i TotalAgility のインストール先と同じドメイン内の別のシステムにレポート サーバーをインストールする場合は、サービス アカウントに以下のロールを割り当てる必要があります。

- ステージング データベースの場合: kfx_staging
- データ ウェアハウスの場合: kfx_etl、kfx_reader、kfx_advanced_reader

サイレント インストールの実行

このセクションでは、TotalAgility から独立して行われる、レポート サーバーのサイレント インストールについて説明します。

レポート サーバーのインストールに必要なサイレント インストール パラメータについては、次のテーブルを参照してください。

i パラメータ名は大文字と小文字が区別されます。

パラメータ	デフォルト値	説明
INSTALLLOCATION	C:\Program Files\Kofax \TotalAgility\ Reporting Server\	レポート サーバーのインストール先ディレクトリを指定します。

パラメータ	デフォルト値	説明
WINSERV_ACCOUNT	デフォルトなし	レポート サーバーを実行するユーザーの名前を入力します。ドメイン ユーザーを指定するには、<ドメイン>\<ユーザー> の形式でユーザー名を入力します。 レポート サーバーは Windows 認証が使用されるすべての場所でこのアカウントを使用して認証するため、アカウントの詳細が正しいことを確認してください。たとえば、TotalAgility データベースなどです。 すべての通信とリソース アクセスは、このアカウントで実行されます。したがって、レポート サーバーが実行されているアカウントを、ダミー アカウントにすることはできません。
WINSERV_PASSWORD	デフォルトなし	ユーザーのパスワードを入力します。
MAIN_DB_CONNECTION_STRING	デフォルトなし	メイン データベースの接続文字列を入力します。 例: 「Server=<hostname>;Trusted_Connection=Yes;」 「Database=TotalAgility;」
AUDIT_DB_CONNECTION_STRING	デフォルトなし	監査データベースの接続文字列を入力します。
REPORTING_STAGING_DB_CONNECTION_STRING	デフォルトなし	レポート ステージング データベースの接続文字列を入力します。
REPORTING_WORKHOUSE_DB_CONNECTION_STRING	デフォルトなし	レポート ワークハウス データベースの接続文字列を入力します。

1. TotalAgility インストール メディアの \\TotalAgilityInstall\Reporting\ TAReportingService に移動します。
2. 次のコマンドを実行します。

```
msiexec.exe /iKofaxKofax.Reporting.TAService.msi /q WINSERV_ACCOUNT=
%WindowsServiceAccount% WINSERV_PASSWORD=%WindowsServicePassword
% MAIN_DB_CONNECTION_STRING="%MainDBConnectionString%"
INSTALLLOCATION="%InstallLocation%"
AUDIT_DB_CONNECTION_STRING="%AuditDBConnectionString
%" REPORTING_STAGING_DB_CONNECTION_STRING=
"%ReportingStagingDBConnectionString%"
REPORTING_WAREHOUSE_DB_CONNECTION_STRING="%ReportingConnection%"
```

標準インストールの実行

1. TotalAgility インストール メディアで、TotalAgility > Reporting > TAReportingService > Kofax.Reporting.TAService.msi に移動します。
[TotalAgility レポート サーバーのセットアップ] ウィンドウが開きます。
2. [次へ] をクリックします。

3. [エンドユーザー ライセンス契約書] ウィンドウでライセンス契約書の条項に同意し、[次へ] をクリックします。
4. [インストール先フォルダ] ウィンドウで、レポート サーバーのデフォルト フォルダ (C:\Program Files (x86)\Kofax\TotalAgility\Reporting Server\) を選択するか、[変更] をクリックして他のフォルダを選択します。
5. [次へ] をクリックします。
6. [サービス アカウントのセットアップ] ウィンドウで、Kofax TotalAgility レポート サーバー サービスを実行するユーザーの資格情報を入力します。
 - a. [ユーザー名] フィールドに、ユーザー名を入力します。

❗ ドメイン ユーザーを指定するには、<ドメイン>\<ユーザー> の形式でユーザー名を入力します。
 - b. [パスワード]を入力し、確認します。
 - c. [次へ] をクリックします。
7. [TotalAgility 構成の取得] ウィンドウで、以下の操作を行います。
 - a. TotalAgility Server サービス URL を `http://[サーバー名]/TotalAgility/Services/Core/ServerService.svc` の形式で指定します
ここで、[サーバー名] は TotalAgility サーバーの名前です。

❗ SSL 経由で Web サービスをインストールするには、URL で「http://」の代わりに「https://」を使用します。
 - b. [メイン DB 接続文字列] ボックスに、TotalAgility データベースの接続文字列を入力します。
 - c. [次へ] をクリックします。
システムによって構成設定がダウンロードされます。
8. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。
9. [終了] をクリックします。

レポート サーバーをアンインストールする

レポート サーバーのアンインストールは、インストールした方法に応じて行います。

- Kofax TotalAgility 標準インストールの一部としてレポート サーバーをインストールした場合は、TotalAgility をアンインストールするとレポート サーバーも自動的にアンインストールされます。
- ウィザードを使用して別のシステムにレポート サーバーをインストールした場合、レポート サーバーはコントロール パネルからアンインストールします。
- レポート サーバーをサイレント モードでインストールした場合、レポート サーバーをサイレント モードでアンインストールするために、以下の手順を実行する必要があります。
 1. コマンド プロンプトで、コマンドラインを `Kofax.Reporting.TAService.msi` ファイルのルート ディレクトリに変更します。

2. `msiexec.exe/quiet/x Kofax.Reporting.TAService.msi/L*V"%LogFileName%"` を実行します。

システムによってレポート サーバーがアンインストールされ、一時ファイル フォルダにログ ファイルが自動的に作成されます。このログ ファイルには、エラーに関する情報が含まれています (存在する場合)。インストールとログのオプションを確認するには、"`msiexec/help`" (Windows インストーラ ヘルプ) を使用できます。

第 5 章

Microsoft Dynamics CRM と TotalAgility との統合

Microsoft Dynamics CRM および Microsoft Dynamics 365 CRM を、TotalAgility と統合できます。両方をインストールするには、ユーザーに管理者権限が必要です。

こちらも参照してください。

- [Dynamics CRM のインストール](#)
- [Dynamics CRM の Web 構成ファイルの更新](#)

Dynamics CRM をインストールする

Dynamics CRM および Dynamic 365 CRM をインストールするには、同じ手順に従って操作します。

1. インストール メディアで \\DynamicsCRMInstall に移動し、**Setup.exe** をダブルクリックします。
Dynamics 365 CRM の場合は、インストール メディアで \\Dynamics365CRMInstallation に移動し、Dynamics365CRM_Setup.exe をダブルクリックします。
インストール ウィザードが表示されます。
2. 次へ をクリックします。
3. **CRM** サーバー フィールドに、CRM サーバーの IP アドレスまたはマシン名を入力します。
4. **CRM** ポート フィールドに、CRM が実行されているポートを入力します。
5. SSL (Secure Sockets Layer) を有効にするには、**SSL の使用** を選択します (デフォルト: クリア)。
6. ドメイン フィールドに、ドメイン名を入力します。
7. ユーザー名とパスワードを入力します。
8. 終了 をクリックします。
インストールが開始され、イベント ハンドラが CRM に登録され、必要なファイルがグローバル アセンブリ キャッシュ (GAC) に配置されます。

Dynamics CRM の Web.config を更新する

Dynamics CRM および Dynamics 365 CRM でイベント ハンドラをサポートするには、TotalAgility コンポーネント用の次のスクリプトを追加します。

❶ このガイドからコードをコピーして貼り付ける場合、改行に問題があれば修正してください。

```
<configSections>
```

```
<section name="exceptionHandling"
type="Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.
ExceptionHandling.Configuration.ExceptionHandlingSettings,
Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.ExceptionHandling,
Version=5.0.505.0,
Culture=neutral,
PublicKeyToken=31bf3856ad364e35" requirePermission="true" />
<section name="loggingConfiguration"
type="Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.Logging.Configuration.LoggingSettings,
Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.Logging,
Version=5.0.505.0, Culture=neutral,
PublicKeyToken=31bf3856ad364e35" requirePermission="true" />
</configSections>

<loggingConfiguration
name=""
tracingEnabled="true"
defaultCategory="General">
<listeners>
<add name="Event Log Listener"
type="Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.Logging.TraceListeners.
FormattedEventLogTraceListener,
Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.Logging,
Version=5.0.505.0,
Culture=neutral,
PublicKeyToken=31bf3856ad364e35"
listenerDataType="Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.Logging.
Configuration.FormattedEventLogTraceListenerData,
Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.Logging,
Version=5.0.505.0,
Culture=neutral,
PublicKeyToken=31bf3856ad364e35"
source="Total Agility" formatter="Text Formatter"
log="" machineName="." traceOutputOptions="None" />
</listeners>
<formatters>
<add type="Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.Logging.Formatters.TextFormatter,
Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.Logging,
Version=5.0.505.0,
Culture=neutral,
PublicKeyToken=31bf3856ad364e35"
template="Timestamp: {timestamp}{newline}&#xA;Message: {message}
{newline}&#xA;Category: {category}{newline}&#xA;Priority:
{priority}{newline}&#xA;EventId: {eventid}
{newline}&#xA;Severity: {severity}{newline}&#xA;Title:
{title}{newline}&#xA;Machine: {localMachine}
{newline}&#xA;App Domain: {localAppDomain}
{newline}&#xA;ProcessId: {localProcessId}
{newline}&#xA;Process Name: {localProcessName}
{newline}&#xA;Thread Name: {threadName}
{newline}&#xA;Win32 ThreadId:{win32ThreadId}
{newline}&#xA;Extended Properties:
{dictionary({key} - {value}{newline})}"
name="Text Formatter" />
</formatters>
<categorySources>
<add switchValue="All" name="General">
<listeners> <add name="Event Log Listener" />
</listeners>
</add>
</categorySources>
<specialSources>
<allEvents switchValue="All" name="All Events" />
<notProcessed switchValue="All" name="Unprocessed Category" />
```



```
<errors switchValue="All" name="Logging Errors & Warnings">
<listeners> <add name="Event Log Listener" />
</listeners>
</errors>
</specialSources>
</loggingConfiguration>

<exceptionHandling>
<exceptionPolicies>
<add name="Agility Exception Policy">
<exceptionTypes>
<add name="All Exceptions" type="System.Exception, mscorlib,
Version=4.0.0.0,
Culture=neutral,
PublicKeyToken=b77a5c561934e089"
postHandlingAction="NotifyRethrow">
<exceptionHandlers>
<add name="Logging Exception Handler"
type="Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.ExceptionHandling.
Logging.LoggingExceptionHandler,
Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.ExceptionHandling.Logging,
Version=5.0.505.0,
Culture=neutral,
PublicKeyToken=31bf3856ad364e35"
logCategory="General" eventId="100" severity="Error"
title="Total Agility"
formatterType="Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.
ExceptionHandling.TextExceptionFormatter,
Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.ExceptionHandling,
Version=5.0.505.0,
Culture=neutral,
PublicKeyToken=31bf3856ad364e35"
priority="0" />
</exceptionHandlers>
</add>
</exceptionTypes>
</add>
</exceptionPolicies>
</exceptionHandling>
```

CRM 仮想ディレクトリの Web.config を更新する

```
<system.serviceModel>
<bindings>
<basicHttpBinding>
<binding name="BasicHttpBinding_Service" openTimeout="00:10:00"
closeTimeout="00:10:00"
sendTimeout="00:10:00" receiveTimeout="00:10:00" allowCookies="true"
maxBufferSize="2147483647"
maxReceivedMessageSize="2147483647" maxBufferPoolSize="524288">
<readerQuotas maxDepth="2147483647" maxStringContentLength="2147483647"
maxArrayLength="2147483647" maxBytesPerRead="2147483647"
maxNameTableCharCount="2147483647" />
<security mode="TransportCredentialOnly">
<transport clientCredentialType="None" />
</security>
</binding>
</basicHttpBinding>
</bindings>
<client>
<endpoint name="CoreIntegrationEventServiceEndpoint"
```

```
binding="basicHttpBinding" bindingConfiguration="BasicHttpBinding_Service"
  contract="Agility.Server.Core.Model.Interfaces.Services.IIntegrationEventService"
  address="http://<TotalAgility server name or IP Address>/TotalAgility/Services/Core/
  IntegrationEventService.svc"/>
  </client>
</system.serviceModel>
```

i [TotalAgility サーバーの名前または IP アドレス] を TotalAgility の IP アドレスに置き換えます。

第 6 章

Microsoft Dynamics AX と TotalAgility を統合する

Dynamics AX をインストールするには、

- TotalAgility で作成されたユーザーの場合、展開管理者権限が必要です。
- ユーザーが「デフォルトの展開管理者」を使用せずに TotalAgility Dynamics AX 統合をインストールする場合、そのユーザーは以下の条件を満たす必要があります。
 - AX のシステム管理者である。
 - CAL のフル アクセス権を持っている。

上記の条件を満たさない場合は、インストール時に次のエラー メッセージが生成されます。「システムが要求を処理できません。」

1. インストール メディアで \\DynamicsAXInstall に移動し、**Setup.exe** をダブルクリックします。

[Dynamics AX 用 TotalAgility のセットアップ] ウィザードが表示されます。

2. 次へ をクリックします。

このウィンドウには、Dynamics AX の前提条件ソフトウェアのリストが表示されます。

i 必要なソフトウェアがインストールされていない場合は、ソフトウェアをインストールしてから Dynamics AX をインストールします。Dynamics AX 2009 を使用している場合は、.NET Framework 3.5 をインストールします。Dynamics AX 2012 を使用している場合は、.NET Framework 4.0 をインストールします。

3. 次へ をクリックします。

[インストール先] ウィンドウが表示されます。

4. 次の表の情報を使用して、インストール先フォルダのファイル パスを指定します。

インストール先フォルダ	Dynamics AX 2009 のサンプル パス	Dynamics AX 2012 のサンプル パス
DAX Web サイトの物理的な場所	C:\inetpub\wwwroot \MicrosoftDynamicsAXAif50\	C:\Program Files\Microsoft Dynamics AX\60\AifWebServices
DAX Web サイトの URL	デフォルト Web サイト/ MicrosoftDynamicsAXAif50/	デフォルト Web サイト/ MicrosoftDynamicsAXAif60/
DAX クライアントの物理的な場所	C:\Program Files\Microsoft Dynamics AX\50\Client\Bin\	C:\Program Files (x86)\Microsoft Dynamics AX \60\Client\Bin
DAX サーバーの物理的な場所	C:\Program Files\Microsoft Dynamics AX\50\Server \DynamicsAx1\Bin	該当なし

5. 次へ をクリックします。
[資格情報] ウィンドウが表示されます。
6. DAX アプリケーション プールに関連付けるユーザー名とパスワードを入力します。
7. 次へ をクリックします。
インストールが完了すると、インストールのステータスとインストール レポートのサマリーが表示されます。
8. 終了 をクリックします。

❗ 64 ビットのオペレーティング システムと Dynamics AX 2009 32 ビット アプリケーションを使用している場合は、DAX Communicator サイトに関連付けられているアプリケーション プール アカウントを有効にします。IIS マネージャで、[アプリケーション プール] > [DAXAppPool] > [詳細設定] をクリックし、[32 ビット アプリケーションの有効化] を True に設定します。

TotalAgility Web サービスへの Dynamics AX サービス参照を作成する

AOT (アプリケーション オブジェクト ツリー) は Development Workspace にあるため、参照を追加するには Development Workspace を展開する必要があります。展開しない場合、TotalAgility を Dynamics AX と統合できません。手順については、次の URL を参照してください。<http://msdn.microsoft.com/en-us/library/gg846350.aspx>。

TotalAgility Web サービスへの Dynamics AX 09 サービス参照を作成する

1. Dynamics AX 09 を起動します。
2. AOT (アプリケーション オブジェクト ツリー) をクリックし、**Ctrl+D** を押します。
3. アプリケーション オブジェクト ツリーで、参照 を右クリックし、サービスの参照の追加 を選択します。
4. 以下の情報を使用して、サービスの参照の追加 ウィンドウを完了します。
 - a. WSDL URL: Agility IIS Web アプリケーション内の DynamicsAxIntegrationService の Web URL (たとえば <http://Server/Agility.Server.Web/Services/SDK/DynamicsAxIntegrationService.svc>) を入力します。
 - b. .NET コード名前空間: **KtaEventsService**。
 - c. 参照名: **KtaEventsService**。
 - d. サービスの説明: サービス参照の説明。
5. **OK** をクリックします。

TotalAgility Web サービスへの Dynamics AX 12 サービス参照を作成する

1. Dynamics AX 12 を起動します。
2. AOT (アプリケーション オブジェクト ツリー) をクリックし、**Ctrl+Shift+W** を押します。
3. アプリケーション オブジェクト ツリーで、参照 を右クリックし、参照の追加 を選択します。

4. 既にインストールしてある TotalAgility アセンブリである KtaEvents.Services.dll に移動します。たとえば、次の場所です。

C:\Program Files (x86)\Microsoft Dynamics AX\60\Client\Bin

5. **OK** をクリックします。

Dynamics AX で参照を追加する

Dynamics AX で Agility.Server.Integration.Common.dll アセンブリへの参照を追加します。

Dynamics AX 09 の場合

1. 参照 を右クリックし、参照の追加 を選択します。
アセンブリ参照フォームが開きます。
2. Dynamics AX 09 インストールの ...\client\bin ディレクトリに移動します。たとえば、次の場所です。
C:\Program Files (x86)\Microsoft Dynamics AX\50\Client\Bin
3. **Agility.Server.Integration.Common.dll** アセンブリを選択し、**[OK]** をクリックします。
新たに追加されたアセンブリが参照の下に表示されます。

Dynamics AX 12 の場合

1. 参照 を右クリックし、参照の追加 を選択します。
2. 既にインストールしてある TotalAgility アセンブリである Agility.Server.Integration.Common.dll の場所に移動します。たとえば、C:\Program Files (x86)\Microsoft Dynamics AX\60\Client\Bin です。
新たに追加されたアセンブリが参照の下に表示されます。
3. **OK** をクリックします。

Dynamics AX 12 のサービス構成ファイルを編集する

1. インストーラによって WCF サービス構成ファイル KtaEvents.Services.dll.config がコピーされた、Dynamics AX の **client\bin** ディレクトリに移動します。
2. エンドポイントを編集して、Dynamics AX 通知のための有効な TotalAgility サービス (... Services/SDK/DynamicsAxIntegrationService.svc) を指すようにします。

ファイルを手動でコピーする

TotalAgility に Dynamics AX 2012 R2 サイトを正常に追加するには、以下の手順を手動で実行する必要があります。

1. Microsoft Dynamics AX 2012 を開き、Dynamics AX サーバー フォルダに移動します。
2. Microsoft.Dynamics.BusinessConnectorNet.dll のバージョン 6.2.0 を、Dynamics AX サーバーにインストールする DAXCommunicatorService の bin ディレクトリにコピーします。
3. TotalAgility のインストール メディアで、\\TotalAgilityInstall\DAXInstallation\Agility.Server.Integration.DynamicsAx.Web\Dax2012R2 に移動します。

4. Web.config を、DAX サーバーの次の場所にコピーします。

<\\Microsoft Dynamics AX\60\AifWebServices\DAXCommunicatorService>
サービスは、Web.config の 6.2.0 バージョンの dll を使用します。

i DAX 2012 R3 の場合は、Microsoft.Dynamics.BusinessConnectorNet.dll のバージョン 6.3.0 を使用するように Web.config ファイルを更新する必要があります。

TotalAgility コネクタ クラスを Dynamics AX にインポートする

1. AOT で、[インポート] をクリックするか、Ctrl+Shift+I を押します。
2. 参照 をクリックして、Dynamics AX Setup のインストール フォルダ (Program Files(x86) または Program Files ディレクトリ内) に移動します。たとえば、次の場所です。

C:\Program Files\Dynamics AX Setup

3. Class_KtaController.xpo などの XPO クラスを選択します。
4. **OK** をクリックしてインポートまたはコンパイルのプロセスを開始します。

i クラスがインポートされると、コンパイラの出カページの [ステータス] タブにエラーが表示されます。

データベース X++ イベント メソッドの編集

DAX Development Workspace の [クラス] および [アプリケーション] フォルダにあるデータベース X++ イベント メソッドを編集できます。

1. Application CUD (作成、更新、削除) クラスのイベント メソッドを変更するには、Dynamics AX 内で CUD イベントが実行されたときにカスタム クラス メソッド EventChangeNotifyKtaWebService を呼び出します。
2. Application クラス メソッド (**InsertLog**、**DeleteLog**、および **UpdateLog**) を編集して、各メソッド内の適切な場所に次の 1 行を追加します。

- Insertlog メソッド: new

```
ktaController().EventChangeNotifyKtaWebService("Create", recordInserted, null, conNull(), recordInserted.RecId);
```

- Deletelog メソッド: new

```
ktaController().EventChangeNotifyKtaWebService("Delete", recordDeleted, null, conNull(), recordDeleted.RecId);
```

- Updatelog メソッド: new

```
ktaController().EventChangeNotifyKtaWebService("Update", recordOrig, recordUpdated, changedFields, recordUpdated.RecId);
```

i オンサイト AX 管理者は、さまざまな AX ドキュメントに Databaselog イベントを登録します。たとえば、Customer、SalesOrder、および Purchase Requisition ドキュメントに Insert、Update、および Delete イベントが登録されている場合、これらのドキュメントのいずれかに対してこれらのイベントのいずれかが実行されると、WCF 呼び出しを通じて TotalAgility に通知されます。

データベース ログ イベントを登録する

1. Microsoft Dynamics AX 2012 を開きます。
2. 左側のパネルで **▼** を展開し、[システム管理] を選択します。
3. [システム管理] ページの [セットアップ] で、[データベース ログ設定] をクリックします。[データベース ログ] ウィンドウが表示されます。
4. ファイル > 新規作成 の順にクリックします。[データベースの変更の記録] ウィザードが表示され、データベース ログのテーブルとフィールドを追加および削除できます。
5. [次へ] をクリックします。[テーブルおよびフィールド] ウィンドウが表示されます。
6. [すべてのテーブルを表示] ラジオ ボタンを選択します。
7. [テーブルおよびフィールド] ウィンドウの [総勘定元帳] で、必要に応じて顧客/仕入先テーブルを選択し、[次へ] をクリックします。
8. テーブルの適切なチェック ボックスをオンにして、データベース ログに登録する変更のタイプ (挿入、更新、削除、または名前変更) を選択します。
9. [次へ] をクリックします。選択したテーブルとフィールドの詳細を示す [データベースの変更の記録] ウィンドウが表示されます。
10. 終了 をクリックします。

アプリケーション プール アカウムの確認

アプリケーション プール アカウムの正しい Business Connector.NET (BC.NET) Windows 資格情報を使用していることを確認します。

1. [スタート] メニューで、すべてのプログラム > アクセサリの順に選択し、実行 をクリックします。
2. **inetmgr** と入力し、**OK** をクリックします。
IIS マネージャーが表示されます。
3. アプリケーション プール アカウムの移動します。
4. **DAXKTA** アカウムの選択し、ID が BC.NET Windows 資格情報と同じであることを確認します。
5. 資格情報が異なる場合は、以下の手順を実行します。
 - a. [アクション] パネルで、詳細設定 をクリックします。
 - b. ID を選択し、編集 をクリックします。
6. **OK** をクリックします。
[アプリケーション プール ID] ウィンドウが表示されます。
7. 設定 をクリックします。
[資格情報の設定] ウィンドウが表示されます。
8. Dynamics AX 内で BC.NET アカウムの関連付けられているユーザー資格情報を入力します。(Kofax WCF サービスは BC.NET アカウムの使用して Dynamics AX に接続します)。
9. **OK** をクリックします。

第 7 章

Micro Focus Content Manager と TotalAgility との統合

この章では、Micro Focus Content Manager と TotalAgility 統合サーバーを統合する手順を説明します。

Content Manager サーバーをインストールする前に、以下のソフトウェアをインストールします。

- IIS
- .NET Framework 4.6.1
- TotalAgility (オプション)

Content Manager SDK のバージョンを特定する

以下の手順は、バージョン 8 より前の Content Manager にのみ適用されます。

1. **C:\Program Files\Kofax\TotalAgility** ディレクトリに移動します。
2. **TrimSDKPIA20.dll** を右クリックし、プロパティ を選択します。
TrimSDKPIA20.dll のプロパティ ウィンドウが表示されます。
3. プロパティ ウィンドウで、バージョン タブを選択します。
[ファイルのバージョン] に、現在の Content Manager のバージョンが表示されます。たとえば、7.3.0 などです。

❗ TRIM SDK 7.3.0 以降の場合、この番号を Web.config の <assemblyBinding> セクションに入力する必要があります (「[Micro Focus Content Manager サーバーのセットアップ](#)」を参照してください)。

Micro Focus Content Manager サーバーのセットアップ

Content Manager サーバーをセットアップするには、TotalAgilityTrimCommunicatorService をインストールし、構成してから、Content Manager システムでイベント ハンドラを構成します。

TotalAgilityTrimCommunicatorService をインストールして構成する

Micro Focus Content Manager のバージョン 9.4 以降をインストールして操作するには、次の手順を実行します。

1. ローカル管理者特権を持つアカウントで Content Manager サーバーにログオンします。

2. Content Manager のインストール メディアで \\ContentManagerInstallation に移動し、実行可能な **Setup.exe** を右クリックして、管理者として実行 を選択します。
[ユーザー アカウント制御] ウィンドウが表示されます。
3. はい をクリックします。
インストール ウィザードが表示されます。
4. 次へ をクリックします。
セットアップで TotalAgility 統合コンポーネントをインストールする準備が整いました。



- システムに Trim SDK が既に存在する場合、**Trim SDK** が検出されました チェック ボックスがデフォルトで選択されています。終了 をクリックします。
- システムに Trim SDK が存在しない場合は、デフォルトで **Trim SDK** が検出されました チェック ボックスが選択解除になり、エラー メッセージが表示されます。また、終了 ボタンは有効になっていません。このエラーを解決するには、キャンセル をクリックし、Content Manager のインストール メディアから Install CM_COMComponents_x64.msi を実行して Trim SDK を取得します。[Micro Focus Content Manager サーバーのセットアップ](#)を再実行します。

5. Web 構成ファイルを次のように構成します。
 - a. C:\Program Files\Kofax\TotalAgility
\TotalAgilityTrimCommunicatorService の **Web.config** ファイルをテキスト エディタで開きます。
 - b. [構成] > [ランタイム] タグを見つけ、<assemblyBinding> セクションを次のように編集します。

```
<assemblyBinding>
<assemblyBinding xmlns="urn:schemas-microsoft-com:asm.v1">
<dependentAssembly>
<assemblyIdentity name="TrimSdkPIA20"
publicKeyToken="533fc65e30e543fa" />
<bindingRedirect oldVersion="6.2.2.8614"
newVersion=" <latest version> " />
</dependentAssembly>
</assemblyBinding>
```

<latest version> を **TRIM SDK** のバージョンに置き換えます。「[Content Manager と TotalAgility の統合](#)」を参照してください。

- c. <appSettings> を次のように編集します。

```
<appSettings>
<add key="TrimDocumentRecordType"
value="DocumentRecordType" />
<add key="TrimFolderRecordType"
value="FolderRecordType" />
<add key="WorkGroupServerName" value="ServerName" />
</appSettings>
```

- ドキュメントのレコード タイプを確認して Content Manager サーバーから取得した値で、DocumentRecordType を置き換えます。
- フォルダのレコード タイプを確認して Content Manager サーバーから取得した値で、FolderRecordType を置き換えます。

- サーバーのコンピュータ名で、ServerName を置き換えます。
サーバーのコンピュータ名を特定するには、**Windows** エクスプローラーを開き、**コンピューター** を右クリックして、**プロパティ** をクリックします。[コンピューター名、ドメインおよびワークグループの設定] グループで、**設定の変更** をクリックします。コンピュータ名をコピーします。

❗ TotalAgility Micro Focus Content Manager を初めてインストールすると、ローカルシステム ID を持つ TrimIntegrationAppPool が作成されます。Content Manager サーバーがリモートの場合は、これによってエラーが発生します。
このエラーを解決するには、TrimIntegrationAppPool ID を更新して、管理者権限を持つアカウントにする必要があります。

Content Manager でイベント ハンドラを構成する

Content Manager System のアクションに対応するように TotalAgility イベントを 構成します。

1. 以下の DLL をコピーします。
 - バージョン 8 よりも前の Content Manager を使用している場合は、以下の DLL を TRIM バイナリ ディレクトリ (通常は C:\Program Files\Hewlett-Packard\HP Records Manager) にコピーします。
 - **Agility.Server.Integration.Trim.dll**
 - **Agility.Server.Integration.Model.dll**
 - **Agility.Server.Integration.Common**
 - バージョン 8 以降の Content Manager を使用している場合は、**Agility.Server.Integration.Trim.dll** を TRIM ディレクトリにコピーします。
2. Content Manager が TotalAgility でイベントを発生させることができるようにするには、RegAsm (regasm /codebase Agility.Server.Integration.Trim.dll) を使用して **Agility.Server.Integration.Trim.dll** ファイルを登録します。
3. dll を登録するには、以下の操作を行います。
 - a. **Content Manager** を開きます。
 - b. ツール > コンテキスト管理 > 外部リンク の順に選択します。
[Content Manager コンテキスト外部リンク] ウィンドウが表示されます。
 - c. 新しいレコード アドイン をクリックします。
[レコード アドインのプロパティ] ウィンドウが表示されます。
 - d. リンク名を入力します。
 - e. **COM** アドイン **PROGID** フィールドに、ProgId として **Agility.Server.Integration.Trim.TrimIntegrationEventHandler** を入力します。
 - f. アドインでマルチスレッド環境をサポートする を選択します。
 - g. **OK** をクリックします。
[Content Manager コンテキスト外部リンク] ウィンドウに、新しいリンクが表示されます。
 - h. リンクを選択し、**プロパティ** をクリックします。
[レコード アドインのプロパティ] ウィンドウが表示されます。

- i. 利用者 タブをクリックします。
 - j. [レコード] リストの下の [ドキュメントとファイル フォルダ] を確認し、**OK** をクリックします。
これにより、Content Manager のイベント ハンドラが構成されます。
4. エクスプローラーで **trim.exe.config** ファイルを見つけ、テキスト エディタで開き、以下のタグを追加するか、このタグに置き換えます。

i このガイドからコードを切り取って貼り付ける場合、改行に問題があれば修正してください。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<configuration>
<configSections>
<section name="loggingConfiguration"
type="Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.Logging.Configuration.LoggingSettings,
Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.Logging, Version=5.0.505.0,
Culture=neutral, PublicKeyToken=31bf3856ad364e35" requirePermission="true" />
<section name="exceptionHandling"
type="Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.ExceptionHandling.Configuration.
ExceptionHandlingSettings,
Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.ExceptionHandling,
Version=5.0.505.0, Culture=neutral, PublicKeyToken=31bf3856ad364e35"
requirePermission="true" />
</configSections>
<exceptionHandling>
<exceptionPolicies>
<add name="Agility Exception Policy">
<exceptionTypes>
<add name="All Exceptions" type="System.Exception, mscorlib, Version=4.0.0.0,
Culture=neutral, PublicKeyToken=b77a5c561934e089"
postHandlingAction="NotifyRethrow">
<exceptionHandlers>
<add name="Logging Exception Handler" type=
"Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.ExceptionHandling.Logging.
LoggingExceptionHandler,
Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.ExceptionHandling.Logging,
Version=5.0.505.0,
Culture=neutral, PublicKeyToken=31bf3856ad364e35" logCategory="General"
eventId="100" severity="Error" title="Total Agility"
formatterType=
"Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.ExceptionHandling.TextExceptionFormatter,
Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.ExceptionHandling, Version=5.0.505.0,
Culture=neutral, PublicKeyToken=31bf3856ad364e35" priority="0" />
</exceptionHandlers>
</add>
</exceptionTypes>
</add>
</exceptionPolicies>
</exceptionHandling>
<system.serviceModel>
<bindings>
<basicHttpBinding>
<binding name="BasicHttpBinding_Service" openTimeout="00:10:00"
closeTimeout="00:10:00"
sendTimeout="00:10:00" receiveTimeout="00:10:00" allowCookies="true"
maxBufferSize="2147483647"
maxReceivedMessageSize="2147483647" maxBufferPoolSize="524288"> <readerQuotas
maxDepth="2147483647"
maxStringContentLength="2147483647" maxArrayLength="2147483647"
maxBytesPerRead="2147483647"
```

```
maxNameTableCharCount="2147483647" />
<security mode="TransportCredentialOnly">
<transport clientCredentialType="Windows" />
</security>
</binding>
</basicHttpBinding>
</bindings>
<client>
<endpoint name="CoreIntegrationEventServiceEndpoint"
binding="basicHttpBinding" bindingConfiguration="BasicHttpBinding_Service"
contract="Agility.Server.Core.Model.Interfaces.Services.IIntegrationEventService"
address="http://<TotalAgility server name or IP Address>/TotalAgility/Services/
Core/IntegrationEventService.svc"/>
</client>
</system.serviceModel>
</configuration>
```

i [TotalAgility サーバーの名前または IP アドレス] を TotalAgility サーバーの IP アドレスに置き換えます。

第 8 章

Kofax SignDoc と TotalAgility の統合

この章では、Kofax SignDoc と TotalAgility を統合する手順を説明します。

Kofax SignDoc サーバーをセットアップする

署名の完了時にコールバックを発生させることができるように、適切な TotalAgility サーバーを指すように Kofax SignDoc サーバーを構成します。SignDoc アカウントごとに SignDoc サーバーを構成して、1 台の SignDoc サーバーが複数の TotalAgility サーバーにコールバックできるようにすることができます。

TotalAgility サーバーを指定するように SignDoc サーバーをセットアップする方法については、SignDoc のドキュメントの TotalAgility との統合に関するセクションを参照してください。

第9章

Web サーバーでの KCM プロキシのインストール

この章では、KCM プロキシ Web サーバーをインストールする次の3つの方法について説明します。

- サイレント インストール
- 標準インストール
- **Docker** インストール

KCM プロキシ Web サーバーをインストールする前に、Microsoft プラグインの Web Platform Installer がインストールされていることを確認してください。Microsoft Web Platform は、Microsoft Web サイトからインストールできます。

サイレント インストール

1. インストール メディアで、`\\KCMProxyInstallation` に移動します。
2. コマンドプロンプト ウィンドウを起動して **Setup.exe** を実行し、次の形式で KCM サーバー URL を入力します。`http(s)://<CCMServer>:<Portnumber>`。
KCM サーバーの IP アドレスとポート番号を指定します。インストーラにより、`Web.config` が KCM サーバーの詳細で更新され、Web サーバー (IIS) でのプロキシ書き換えルールが有効にされます。
3. **Enter** を押します。
KCM プロキシがサイレント モードでインストールされます。
Setup.exe と同じ場所にログ ファイルが生成されます。

標準インストール

1. インストール メディアで `\\KCMProxyInstallation` に移動し、**Setup.exe** をダブルクリックします。
KCM プロキシ構成 ウィンドウが表示されます。
2. **KCM サーバー URL** を次の形式で入力します。`http(s)://<CCMServer>:<Portnumber>`。
KCM サーバーの IP アドレスとポート番号を使用して、`Web.config` ファイルが自動的に更新されます。
3. **構成** をクリックします。
4. **OK** をクリックします。

Docker インストール

「dockersetting.env」ファイルを生成する際、構成ユーティリティ ツールの「KCM サーバー URL」設定に URL が指定されている場合は、同じ URL を使用して KCM プロキシがインストールされ、コンテナでの展開が構成されます。

TotalAgility Web.config に含まれる KCM サーバー URL の更新

KCM との統合をセットアップする前に、TotalAgility Web.config に含まれる KCM サーバー URL を手動で更新するか、構成ツールを実行して設定を更新することができます。

TotalAgility Web.config に含まれる KCM サーバー URL の手動で更新

1. TotalAgility サーバーのインストール ディレクトリに移動します。
2. テキスト エディタで、次のディレクトリにある **TotalAgility Web.config** を開きます。

```
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web
```

3. 次のセクションを見つけます。

```
<rewrite>
  <rules>
    <rule name="CCMInteractiveProxy" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/Interactive/(.*)" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/ccm/Interactive/
{R:1}" />
    </rule>
    <rule name="CCMDesignerProxy" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/Repository/(.*)" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/ccm/Repository/
{R:1}" />
    </rule>
    <rule name="ComposerUIJavascriptProxyRule" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/ccmcomposerui.js" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/proxy/
ccmcomposerui.js" />
    </rule>
    <rule name="ComposerUICssProxyRule" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/ccmcomposerui.css" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/proxy/
ccmcomposerui.css" />
    </rule>
    <rule name="ComposerUIImgProxyRule" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/img/(.*)" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/proxy/img/{R:1}" />
    </rule>
    <rule name="CCMDesignerStaticProxyRule" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/static/(.*)" />
      <action type="Rewrite" url="{http://ccmserver:port}/ccm/static/
{R:1}" />
    </rule>
    <rule name="ComposerUIFontProxyRule" stopProcessing="true">
      <match url="CCM/Proxy/fonts/(.*)" />
      <action type="Rewrite" url="http://{ccmserver:port}/proxy/fonts/
{R:1}" />
    </rule>
  </rules>
</rewrite>
```

```
</rules>
```

4. `http://<kcmserver>:<port>` を KCM サーバー URL に置き換えます。
5. 構成ファイルを保存して閉じます。

構成ユーティリティを使用する

構成ユーティリティを実行し、構成設定を更新します。『Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド』を参照してください。(「構成設定」>「オンプレミス」>「アプリ」セクションに移動します)。

KCM プロキシを手動でインストールする

Web プラットフォーム インストーラおよび KCM プロキシ インストーラを使用することなく KCM プロキシをインストールできます。

1. IIS URL Rewrite 2.0 をインストールします。
2. IIS 用の Microsoft Application Request Routing 2.5 以降をインストールします。
3. IIS マネージャーで、以下の操作を行います。
 - a. サーバー レベルで、アプリケーション 要求ルーティング キャッシュをダブルクリックします。
 - b. サーバー プロキシ設定 をクリックします。
 - c. プロキシの有効化 を選択します。
 - d. 適用 をクリックします。
4. TotalAgility Web.config で `{http://ccmserver:port}` を見つけ、`http://servername:port` に置き換えます。ここで、servername は KCM マシンのホスト名、port はリストされている KCM ポート (デフォルトでは 8081) です。TotalAgility Web.config で KCM サーバー URL を手動で更新する方法については、前のセクションを参照してください。
5. `<rewrite>` セクションをコメント解除します。
6. 構成ファイルを保存して閉じます。

第 10 章

HTTPS 通信の構成

HTTP 通信用に TotalAgility および Transformation Designer を構成します。

- [HTTPS 通信用の TotalAgility の構成](#)
- [HTTPS 通信用の Transformation Designer の構成](#)

HTTPS 通信用の TotalAgility の構成

TotalAgility Web レイヤーと Kofax TotalAgility Core Worker に対して SSL (Secure Sockets Layer) 通信を有効にし、コア サービスおよび Transformation Server との通信を可能にします。

インストール時に TotalAgility に対して SSL を有効化できます。ただし、インストール時に SSL を有効にしていない場合は、インストール メディアに収録されている構成ユーティリティを実行することにより、インストール後に有効にすることができます。Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイドを参照してください。

i TotalAgility 構成ファイルでバインディングを変更する前に、IIS で TotalAgility に対して SSL が有効になっていることを確認します。

IIS の TotalAgility アプリケーションに対する SSL の有効化

1. インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーを開きます。
2. [デフォルトの **Web** サイト] を右クリックして、[バインドの編集] をクリックします。
3. [追加] をクリックします。
 - a. [タイプ] リストで、[HTTPS] を選択します。
 - b. SSL 証明書 リストで、証明書を選択します。
 - c. 別の Web サーバーをインストールする場合は、Web サーバーの IP アドレスとポート番号を追加で指定します。
 - d. [OK] をクリックします。
4. TotalAgility をクリックして、機能 タブの [SSL 設定] をクリックします。
 - a. SSL の要求 チェック ボックスをオンにします。
 - b. クライアント証明書を承認します。
 - c. 適用 をクリックします。

TotalAgility 構成ファイルの更新

次の構成ファイルを更新します。

- Web.config
- Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config
- Agility.Server.StreamingService.exe.config

Web.config を更新する

1. インストールした場所にある **Web.config** を開きます。デフォルトの場所は次のとおりです。

C:\Program Files\Kofax\TotalAgility\Agility.Server.Web

2. <servicebehaviors> で、次のように httpsGetEnabled の設定を更新します。

```
<serviceBehaviors>
<behavior name="Agility.Server.Web.Services.Behavior">
  <serviceMetadata httpGetEnabled="false" httpsGetEnabled="true" />
</serviceBehaviors>
```

3. デフォルトでは、<security mode="TransportCredentialOnly"> になります。HTTPS モードを使用している場合は、次のように <security> の設定を更新します。

- Windows 認証を使用している場合は、デフォルトの Windows 認証セクションをコメントアウトします。

```
<!-- HTTPS SSL with Windows logon-->
<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="Windows"/>
</security>
```

- 手動でログオンする場合は、HTTPS セクションをコメント解除します。

```
<!-- HTTPS SSL with application authentication-->
<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="None" />
</security>
```

4. すべてのバインディングに対して上記の HTTPS トランスポート認証を実行します。

- BasicHttpBinding_TrimCommunicatorService
- BasicHttpBinding_ExchangeNotificationService
- BasicHttpBinding_DynamicsAxCommunicatorService
- BasicHttpBinding_DynamicsAxIntegrationService
- BasicHttpBinding_Service
- CustomBinding_CoreService
- BasicHttpBinding_RemoteLinkedService
- BasicHttpBinding_LicenseServerService
- BasicHttpStreamingBinding_Service
- BasicHttpBinding_DeviceManagerService
- BasicHttpBinding_InsightDataService
- BasicHttpBinding_SigningIntegrationService
- WebHttpBinding_Service
- WebHttpBinding_DeviceManagerService
- WebHttpBinding_SigningIntegrationService

- BasicHttpBinding_SharepointReceiverService
 - HTTPS 認証を使用する場合は、以下の HTTP セクションをコメントアウトします。

```
<!-- HTTPS SSL with application authentication-->
<security mode="TransportCredentialOnly">
<transport clientCredentialType="None"/>
</security>
```

- HTTP 認証を使用する場合は、上記の HTTPS セクションをコメントアウトします。

```
<!-- HTTP with application authentication-->
<security mode="TransportCredentialOnly">
<transport clientCredentialType="None" />
</security>
```

i Windows 認証または手動認証の場合、SharePoint Receiver Service は、HTTP 認証と HTTPS 認証の両方に匿名バインドを使用する必要があります。

5. HTTPS セッション Cookie の機密を保持するための Secure 属性は、デフォルトでは設定されていません。このため、ブラウザはこれらの Cookie を HTTP セッションを介してプレーン テキストで送信できます。Cookie を保護するには、httpCookies タグをコメント解除します。

```
<httpCookies requireSSL="true"/>
```

6. TotalAgility を特定の SQL Server に接続するには、TotalAgility データベース接続文字列に "encrypt=true" が設定されていることを確認します。

i 強制暗号化を使用して SQL Server レベルで SSL 暗号化がグローバルに有効になっている場合は、TotalAgility 接続文字列を更新する必要はありません。
強制暗号化を使用して SQL Server レベルで SSL 暗号化がグローバルに有効になっている場合は、TotalAgility 接続文字列を更新する必要はありません。

7. ファイルを保存します。

Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config の更新

1. インストールした場所にある **Core Worker Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config** を開きます。デフォルトの場所は次のとおりです。

```
C:\Program Files\Kofax\TotalAgility\CoreWorkerService
```

2. すべてのバインディングに対して HTTPS トランスポート認証を実行します。

- BasicHttpBinding_Service
- CustomBinding_CoreService
- BasicHttpBinding_TrimCommunicatorService

3. ファイルを保存します。
4. TotalAgility Core Worker サービスを再起動します。

Agility.Server.StreamingService.exe.config の更新

1. インストールした場所にある **Agility.Server.StreamingService.exe.config** を開きます。デフォルトの場所は次のとおりです。

- **Web** サーバー:

```
C:\ProgramFiles\Kofax\TotalAgility\Agility.Server.Web\bin
\Agility.Server.StreamingService.exe.config
```

- アプリケーション サーバーおよび **Web/アプリケーション** 体型サーバー:

```
C:\ProgramFiles\Kofax\TotalAgility\CoreWorkerService
\Agility.Server.StreamingService.exe.config
```

i アプリケーション サービスと Web サービスの両方の **Agility.Server.StreamingService.exe.config** を編集します。

2. <servicebehaviors> で、次のように httpsGetEnabled の設定を更新します。

```
<serviceBehaviors>
  <behavior name="Agility.Server.Web.Services.Behavior">
    <serviceMetadata httpGetEnabled="false" httpsGetEnabled="true" />
  </serviceBehaviors>
```

3. デフォルトでは、<security mode="TransportCredentialOnly"> になります。HTTPS モードを使用している場合は、次のように <security> 設定を更新します (Windows 認証または手動ログオンの場合)。

```
<!-- HTTPS SSL with Windows logon-->
<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="None"/>
</security>
```

4. 次のように、すべてのバインディングに対して HTTPS トランスポート認証を実行します。

- **WebHttpExportBinding_Service**

```
<binding name="WebHttpExportBinding_Service" transferMode="StreamedResponse">
  <security mode="Transport">
    <transport clientCredentialType="None">
  </transport>
  </security>
</binding>
```

- **WebHttpImportBinding_Service**

```
<binding name="WebHttpImportBinding_Service" transferMode="StreamedRequest">
  <security mode="Transport">
    <transport clientCredentialType="None">
  </transport>
  </security>
</binding>
```

- **BasicHttpStreamingBinding_Service**

```
<binding name="BasicHttpStreamingBinding_Service" transferMode="Streamed">
  <security mode="Transport">
    <transport clientCredentialType="None">
  </transport>
  </security>
</binding>
```

- **BasicHttpBinding_Service**

```
<binding name="BasicHttpBinding_Service">
```

```
<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="Windows" />
</security>
</binding>
```

- **BasicHttpStreamingBinding_CoreService**

```
<binding name="BasicHttpStreamingBinding_CoreService" transferMode="Streamed"
<binding name="BasicHttpStreamingBinding_CoreService" transferMode="Streamed"
<security mode="Transport">
  <transport clientCredentialType="Windows" />
</security>
</binding>
```

i ストリーム転送モードでは、Microsoft WCF ランタイムによって、セキュリティにいくつかの制限が適用されます。Windows 認証は、ストリーミング転送モードでは使用できません。したがって、匿名認証を使用することをお勧めします。ただし、TotalAgility はリクエストを処理する前に、必ずセッション ID を検証します。

- **CustomBinding_CoreService**

```
<binding name="CustomBinding_CoreService">
<!--
  <httpTransport authenticationScheme="Negotiate" for http with windows
authentication
  <httpsTransport authenticationScheme="Anonymous" for https with None
authentication
-->
  <httpsTransport authenticationScheme="Anonymous" allowCookies="true"
maxBufferSize="2147483647" maxReceivedMessageSize="2147483647"
maxBufferPoolSize="524288" />
</binding>
```

5. <baseAddresses> を http から https に変更します。
6. ファイルを保存します。
7. TotalAgility Streaming Service を再起動して、新しい設定を適用します。

HTTPS 通信用の Transformation Designer の構成

Kofax Transformation Designer オプション内の接続を更新することにより、SSL 経由でアクセスされる SDK SVC を使用するように Kofax Transformation Designer を更新します。Kofax Transformation Designer で HTTPS 通信を行うには、次の操作を行う必要があります。

- サーバー上のクライアントで信頼されている証明書がインストールされていることを確認してください。
- Transformation Designer サーバーがオンプレミスでインストールされているにもかかわらず、ドメインに含まれていない場合は、BasicHttpBinding_Service および WebHttpBinding_Service に対する Windows 認証を無効にします。
- 次のように、HTTPS に対する Transformation Designer の URL を指定します
 - Azure の場合: https://[Azure ホスト名]/Services/SDK
 - その他の構成の場合: https://[ホスト名]/TotalAgility/Services/SDK

第 11 章

TotalAgility ライセンス プロキシをインストールする

TotalAgility ライセンス プロキシを使用すると、接続されていないスキャンワークステーションやその他の TotalAgility コンポーネントが TotalAgility ライセンス サーバーからライセンスを取得することができません。

VRS Elite サーバーがインストールされているマシンに TotalAgility ライセンス プロキシをインストールすることをお勧めします。インストールしない場合は、各ワークステーションでライセンスユーティリティを実行し、プロキシマシンを指すようにサーバーを構成する必要があります。

ライセンスサーバー（「Kofax ライセンスサーバー」サービスを実行しているコンピュータ）と同じコンピュータには、ライセンスプロキシをインストールしないでください。ライセンスプロキシは、トラフィックをライセンスサーバーにルーティングする必要があるため、別のコンピュータで実行する必要があります。ライセンスプロキシのセットアップの間に、インストーラはローカルコンピュータで TotalAgility ライセンスサーバーが実行されているかどうかを確認し、サービスを停止して、起動タイプを「無効」に設定します。

ライセンスプロキシは、手動で、または TotalAgility のインストール時にインストールできます。

1. 手動でインストールするには、インストールメディアで \
\`\TotalAgilityInstall\Licensing\Installs` に移動し、`KofaxKofax.Licensing.TotalAgility.Proxy.Installer.msi` を実行します。
[Kofax TotalAgility ライセンスプロキシのセットアップ] ウィザードが開きます。
2. [次へ] をクリックします。
3. [エンドユーザー ライセンス契約書] ウィンドウでライセンス契約書の条項に同意し、[次へ] をクリックします。
4. [インストール先フォルダ] ウィンドウで、Kofax TotalAgility ライセンスプロキシがインストールされるデフォルトのパス (`C:\Program Files (x86)\Kofax\TotalAgility License Proxy\`) を選択するか、[変更] をクリックして別のフォルダを選択します。
5. [次へ] をクリックします。

6. [サービス アカウントのセットアップ] ウィンドウで、TotalAgility ライセンス サーバー サービスを実行するユーザーの資格情報を入力します。
 - a. [ユーザー名] フィールドにユーザー名を入力します。
ドメイン ユーザーを指定するには、<ドメイン>\<ユーザー> の形式でユーザー名を入力します。
 - b. パスワードを入力し、確認します。

i このアカウントは、指定された TotalAgility URL にアクセスできる必要があります。これらの資格情報は、Kofax ライセンス プロキシ サービスに使用されます。

- c. [次へ] をクリックします。
7. [TotalAgility の接続のセットアップ] ウィンドウで、以下の操作を行います。

- a. 構成設定が存在するライセンス サーバーの URL を入力します。

`http://[サーバー名]/TotalAgility/Services/Core/LicenseServerService.svc`
という形式を使用します。ここで、[サーバー名] は TotalAgility サーバーの名前です。

i SSL を使用する場合は、信頼済みの有効な証明書が必要です。

- b. システム セッション ID を入力します。
TotalAgility Designer ([システム設定] > [設定] ページ) からセッション ID の値を取得します。
 - c. [次へ] をクリックします。
システムによって設定がダウンロードされます。
8. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。
9. [終了] をクリックします。

VRS サーバーの Kofax TotalAgility ライセンス プロキシがインストールされたら、`C:\Program Files\Kofax\Imgctls\bin\Application` に移動して `KSALicenseUtility` を実行することにより、プロキシが適切に動作しているかどうかを確認できます。プロキシが適切に構成されている場合は、Kofax ライセンス ユーティリティのユーザー インターフェイスにライセンス情報が表示されます。そうでない場合は、エラーが表示されます。場合によっては、TotalAgility サーバーと一致するようにシステム セッション ID を再構成する必要があります。

TotalAgility ライセンス プロキシ情報を変更する

インストール後、以下のいずれかの方法で TotalAgility ライセンス プロキシ情報を変更できます。

- `Kofax.Licensing.TotalAgility.ProxyConfig.exe` を実行します。これは通常、`C:\Program Files (x86)\Kofax\TotalAgility License Proxy\` にあります。たとえば、TotalAgility のシステム セッション ID を再生成する場合、同じセッション ID をライセンス プロキシ構成に反映する必要があります。
- コマンドライン パラメータを使用します。必要に応じて、パラメータを次の値に置き換えます。

パラメータ	値
/URL	TotalAgility URL
/sessionID	指定されたユーザーのシステム セッション ID。

パラメータ	値
/retrySpan	Kofax TotalAgility への接続を再試行する間隔の長さ。形式は、TimeSpan.Parse で受け入れられる形式です。たとえば、「00:00:30」は、デフォルトの 30 秒を表します。
/silent	構成ユーティリティのサイレント モードを有効にします。ユーザー インターフェイスは表示されません。

たとえば、`Kofax.Licensing.TotalAgility.TenantProxyConfig /url https://tenantSpecific /sessionId {66FFD7D5-F618-4BEE-903A-54C151671BC8} /retrySpan:00:05:00` のようにします。

i 無効なパラメータを指定してコマンドを実行すると、エラー メッセージが標準エラー ファイルに送信されます。

TotalAgility ライセンス プロキシ情報を変更する

インストール後、以下のいずれかの方法で TotalAgility ライセンス プロキシ情報を変更できます。

- 通常は `C:\Program Files (x86)\Kofax\TotalAgility License Proxy\` にある `Kofax.Licensing.TotalAgility.ProxyConfig.exe` を実行します。例: TotalAgility Designer でシステム セッション ID を再生成する場合は、ライセンス プロキシ構成に同じセッション ID を反映させる必要があります。
- コマンドライン パラメータを使用します。必要に応じて、パラメータを次の値に置き換えます。

パラメータ	値
/URL	TotalAgility URL
/sessionId	指定されたユーザーのシステム セッション ID。
/retrySpan	TotalAgility との接続を再試行する期間。形式は、TimeSpan.Parse で受け入れられる形式です。たとえば、「00:00:30」は、デフォルトの 30 秒を表します。
/silent	構成ユーティリティのサイレント モードを有効にします。ユーザー インターフェイスは表示されません。

たとえば、`Kofax.Licensing.TotalAgility.TenantProxyConfig /url https://tenantSpecific /sessionId {66FFD7D5-F618-4BEE-903A-54C151671BC8} /retrySpan:00:05:00` のようにします。

i 無効なパラメータを指定してコマンドを実行すると、エラー メッセージが標準エラー ファイルに送信されます。

第 12 章

TotalAgility 用に VRS Elite を構成する

Kofax VRS をインストールし、VRS ライセンス サーバーを構成します。詳細については、『Kofax VRS Elite Installation Guide』(Kofax VRS Elite インストール ガイド) を参照してください。

Kofax VRS Basic OEM または Professional OEM のインストール

スキャナに含まれている VRS Basic または Professional が OEM バージョンである場合は、スキャンステーションで **setup.exe** を実行して VRS をインストールします。VRS ソフトウェアは、関連付けられているスキャナ モデルに基づいて自動的にアクティブ化されます。

スタンドアロン インストール

スタンドアロン VRS ライセンスを購入した場合は、**setup.exe** を実行し、セットアップタイプとしてスタンドアロンを選択して VRS をインストールします。メッセージが表示されたら、パーツ番号 (VP-P005-0001 など)、製品コード、およびシリアル番号を指定して、ソフトウェアをアクティブ化します。

i VRS は、手動で無効化しない限り、ワークステーションでアクティブなままになります。

TotalAgility ライセンス サーバーによって管理される Kofax VRS Elite ライセンス

TotalAgility ライセンス サーバーを通じて VRS ライセンスを管理し、VRS Elite 共有プロファイルと自動プロファイルトレーニング データも有効にするには、この構成を使用します。

この構成には、VRS Elite 5.1.2 以降のインストールが必要です。

i この構成は、スキャナの数が多い場合に便利です。

VRS サーバーをインストールする

1. VRS Elite インストール メディアで **setup.exe** を実行します。
2. メッセージが表示されたら、セットアップタイプとしてサーバーを選択します。

3. TotalAgility ライセンス サーバーの情報を確認します。

i VRS サーバーに TotalAgility ライセンス サーバーへの直接接続がない場合は、ライセンス プロキシをインストールする必要があります。

4. インストール ウィザードの手順を完了します。

5. 生成された展開 Kofax VRS.msi を使用して、スキャン ステーションに VRS をインストールします。詳細については、『Kofax VRS Elite Installation Guide』(Kofax VRS Elite インストール ガイド) を参照してください。

Kofax VRS Elite を TotalAgility Scan Client と共に使用する



VRS Elite をインストールした後、TotalAgility でドキュメントをスキャンすると、スキャナのリストに Kofax Software VRS - TWAIN が表示されます。詳細については、『TotalAgility Scan Client help』(TotalAgility Scan Client のヘルプ) を参照してください。

第 13 章

Kofax Web Capture Service のインストール

Kofax Web Capture Service は、デフォルトの場所またはカスタムの場所にインストールします。

デフォルトの場所にインストールする

1. 初めてスキャン対応フォームを開くと、新しい Web Capture サービスをインストールするかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。『TotalAgility のヘルプ』で、「スキャン新規ジョブ作成フォームの構築」を参照してください。
2. 実行 をクリックします。
3. msi インストーラのコピーを保持する場合は、名前を付けて保存 を選択します。msi インストーラは、エンタープライズでの一元的な展開のシナリオに使用できます。
4. インストールが完了したら、ページを更新します。
5. ページの更新後、スキャン新規ジョブ作成フォームの [設定の表示と変更] アイコン  が利用可能になります。
6. システムトレイ アイコンの [Kofax Web Capture Service] アイコン  は、サービスが実行されているかどうかを示します。

カスタムの場所にインストールする

カスタムの Web Capture サービスのインストール場所が必要なエンタープライズ展開のシナリオでは、次のように Web Capture サービスをインストールします。

コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
msiexec /i Kofax.WebCapture.Installer.msi INSTALLFOLDER=<Installation Folder>
```

マルチユーザー環境で Web Capture サービスを使用する

MS ターミナル サーバー、Citrix などのマルチユーザー環境で、Web Capture サービスを使用できません。複数のユーザーが、異なる Windows ログオン セッションから、Web Capture サービスを同時に操作できません。

MS ターミナル サーバーでの Web Capture サービスの使用

ターミナル サーバーを使用すると、複数のユーザーがスキャン サーバーに同時に接続して、スキャン タスクやファイルのインポートを並列して実行できます。Web Capture サービス ホストは、要求を実際に

行ったユーザーを特定し、適切な Web Capture サービス ワーカーに要求を転送します。Web Capture サービス ワーカーは、この特定のユーザーが利用できるデバイスとファイル进行操作します。

❗ Web Capture サービスが操作できるスキャナは、リモート ターミナル サーバーに接続されているものだけです。ローカルに接続されているスキャナは操作できません。

同様に、ファイルのインポートの場合に Web Capture サービスによって提供されるのは、ターミナルサーバー上のファイルへのアクセスです。

Citrix で Web Capture サービスを使用する

ブラウザ アプリと Web Capture サービスの両方が Citrix サーバーにインストールされている場合、スキャナがクライアント ユーザーのコンピュータに接続されていても、Web Capture サービスが物理的に実行されるのはリモートの Citrix サーバーです。これは、Citrix TWAIN リダイレクトが有効な場合、Web Capture サービスからは透過的に機能します。

❗ 1 つの Citrix サーバーで同時にアクティブにできるユーザー セッションの数は、50 セッションまでに制限されています。

Web Capture サービスを Windows サービスとしてインストールする

Windows サービスとしてインストールされた Web Capture サービスを展開およびアップグレードするには、管理者権限が必要です。

Web Capture サービスを Windows サービスとしてインストールするには、次のように INSTALLSERVICE コマンドライン オプションを使用して、マルチユーザー サポート機能を有効にします。

```
msiexec /I Kofax.WebCapture.Installer.msi INSTALLSERVICE=1
```

MSI インストール パッケージは、TotalAgility インストール フォルダの次の場所にあります。

```
\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Forms\Controls\Capture\external  
\webcapture
```

Web Capture サービスをアップグレードする

Windows サービスとしてインストールされた Web Capture サービスをアップグレードするには、Web Capture サービスのインストールに使用したものと同一コマンドライン パラメータを使用します。

❗ Windows サービスとしてインストールされた Web Capture サービスを、スタンドアロンバージョンにアップグレードすることはできません。これを試みると、次のメッセージが表示されます。既に Web Capture サービスが Windows サービスとしてインストールされているため、このアプリケーションをインストールできません。

ただし、スタンドアロン インストールから Windows にアップグレードできます。

第 14 章

Scan Agent Service のインストール

Scan Agent Service は、TotalAgility インストール メディアに含まれている msi ファイルによって展開できる軽量のローカル エージェントを通じて提供されます。

システム サービスをインストールできる特権が必要です。ない場合は、Scan Agent Service (ScanAgentService) をインストールできません。

Scan Agent Service に使用するサービス アカウント:

TotalAgility が Windows 認証を使用するように構成されている場合は、TotalAgility 内で認証される Active Directory アカウントを指定する必要があります。そのようにしない場合は、LocalSystem アカウントを使用します。

Scan Agent Service は、スキャンされたイメージにアクセスするためにユーザー プロファイル固有のフォルダへのアクセス権が必要であるため、Scan Agent Service に使用されるサービス アカウントは、さまざまなユーザー プロファイルへのアクセス権が必要です。したがって、このアカウントには管理者権限が必要です。たとえば、Scan Agent Service がターミナル サーバーにインストールされている場合や、複数のユーザー (スキャン オペレータ) が同じコンピュータを使用している場合などです。

Scan Agent Service をエンド ユーザーのコンピュータに展開する場合は、管理者特権が不要ことがあります。たとえば、Scan Agent Service が特定のユーザーのみのためにイメージをアップロードする場合は、このユーザー アカウントで Scan Agent Service をインストールできます。

標準インストール

1. インストール メディアで、`\\ScanAgentService` に移動します。
2. **Kofax.TotalAgility.ScanAgentService.Installer.msi** をダブルクリックします。
Kofax TotalAgility Scan Agent Service のセットアップ ウィザードが起動します。
3. 次へ をクリックします。
4. エンドユーザー ライセンス契約書 ウィンドウで、ライセンス契約書の条項に同意します を選択します。
5. 次へ をクリックします。
6. インストール先フォルダ ウィンドウで、Scan Agent Service のインストール先としてデフォルトの場所を受け入れるか、[変更] をクリックして別のフォルダを選択します。
7. 次へ をクリックします。
8. サービス アカウントのセットアップ ウィンドウで、Kofax TotalAgility Scan Agent Service のログオン アカウント (Windows アカウント) を指定します。
9. 次へ をクリックします。

10. インストール をクリックしてインストールを開始します。
インストールされると、ローカル サービスの「Kofax TotalAgility Scan Agent Service」がワークステーションに作成されます。付属の「Scan Agent Monitor」を使用して、ジョブのアップロードステータスを監視することができます。

Scan Agent Service を使用したスキャン

スキャン新規ジョブ作成フォームのステータス バーは、セッションが Scan Agent Service に接続されているかどうかを示します。

スキャン新規ジョブ作成フォームは、イメージの実際のアップロードを Scan Agent Service にオフロードします。ただし、イメージ補正が有効になっている場合、スキャン新規ジョブ作成フォームは通常の方法でイメージ処理を行います。

イメージ処理操作 (実行される場合) が完了すると、まだサーバーにアップロードされていないイメージがある場合でも、[ジョブの作成] ボタンが使用可能になります。[ジョブの作成] をクリックすると、Scan Agent Monitor にジョブが表示されます。

Scan Agent Monitor を使用して、ジョブのアップロードステータスを監視できます。ジョブのアップロードステータスは、次のとおりです。

- 保留中: ジョブはアップロードの準備中です。
- 進行中: 現在、ジョブをアップロードしています。
- 終了済み: ジョブが正常にアップロードされました。
- エラー: ジョブでエラーが発生し、ジョブが停止しました。
- 一時停止中: ジョブが一時的に停止されました。

ジョブのステータスに応じて、以下のアクションを使用できます。

- 中止: 該当するジョブを中止してキャンセルし、ジョブをキャンセルする TotalAgility ユーザー アカウントを指定するように求めるメッセージを表示します。

i このアクションには、個別の TotalAgility ユーザー セッションが使用されます。[複数のログオンを許可する] が有効になっていない場合、「中止」アクションにより、同じユーザー アカウントを使用している他のすべてのセッションが終了します。

- 一時停止: ジョブのアップロード セッションを一時停止します。一時停止したジョブは、明示的に再開する必要があります。
- 再試行: ジョブでエラーが発生した場合、アップロードジョブを再度キューに入れます。このアクションは、アップロード エラーからの回復に役立ちます。
- 再開: 一時停止したジョブを再開します。
- 完了済みをクリア: アップロードを完了したすべてのジョブをリストから削除します。

第 15 章

TotalAgility の起動

1. ブラウザに次の URL を入力します。
`http://[TotalAgility サーバーのホスト名または IP アドレス]/TotalAgility/Designer`
2. インストール時に入力したログイン資格情報を入力します。
TotalAgility Designer がブラウザ内で起動されます。
3. または、[スタート]>[すべてのプログラム]>[Kofax TotalAgility]>[Designer] をクリックします。

TotalAgility Workspace の起動

1. ブラウザに次の URL を入力します。
`http://[TotalAgility サーバーのホスト名または IP アドレス]/TotalAgility/Forms`
2. インストール時に入力したログイン資格情報を入力します。
TotalAgility Workspace がブラウザ内で起動されます。
3. または、[スタート]>[すべてのプログラム]>[Kofax TotalAgility]>[Workspace] をクリックします。

TotalAgility Apps の起動

Kofax TotalAgility をインストールまたはアップグレードすると、TotalAgility Apps が自動的にインストールされ、[スタート]メニューで使用できるようになります。

1. [スタート]>[すべてのプログラム]>[Kofax TotalAgility]>[TotalAgility Apps] をクリックします。
または、ブラウザに次の URL を入力します。
`http://[TotalAgility サーバーのホスト名または IP アドレス]/TotalAgility/Designer/#/apps`
2. インストール時に入力したログイン資格情報を入力します。
Kofax TotalAgility Apps のランディング ページが表示されます。

ログオンに関するガイダンス メモ

Kofax TotalAgility Web インストールの構成は相互に排他的であるため、次のいずれかを使用してこの単一のインストールを構成できます。

- Windows 認証
- 手動ログオン

たとえば、組織が外部ユーザーに対しては「手動ログオン」、内部ユーザーに対しては「Windows 認証」を必要としている場合、単一の Web インストールでこれを実現することはできません。2つの Web サイトを配置して、1つは Windows 認証に、もう1つは手動ログオンに使用する必要があります。この構成を実現するには、次のオプションを使用します。

- 2つの独立した Web サーバーを配置し、1つの Web サーバーは Windows 認証を使用した Kofax TotalAgility Web インストール環境に、もう1つの Web サーバーは手動ログオンを使用した Kofax TotalAgility Web インストール環境にします (推奨)。Kofax TotalAgility インストール プログラム (Kofax TotalAgility インストール/アップグレード プログラムによる) を使用してサーバーをインストールするときに、サーバーをアップグレードできます。
- 2つの TotalAgility Web サイトを含む単一の Web サーバーを配置します。1つの Web サイトは手動ログオンを使用するように構成されていて、別の Web サイトは Windows 認証を使用するように構成されています。このサーバーをセットアップする管理者は、Kofax TotalAgility Web インストールをインストールし、その後に仮想ディレクトリを複製します。

i 元の Kofax TotalAgility Web インストールをアップグレードすることはできませんが、複製された仮想ディレクトリをアップグレードすることはできません。

第 16 章

TotalAgility インストールの修復

TotalAgility の修復によって修復されるのはアプリケーションのみです。データベースは修復されません。

正しくインストールされていないすべての TotalAgility 製品コンポーネントを修理するには:

1. [スタート]>[すべてのプログラム]>[Kofax TotalAgility] をクリックして、[アンインストールまたは修復] を選択します。
[修復/アンインストール] ウィンドウが開きます。
2. [修復] をクリックし、[次へ] をクリックします。
[修復するコンポーネント] ウィンドウが開き、修復可能なすべてのコンポーネントが一覧表示されます。
3. 修復するコンポーネントを選択します。
4. [参照] をクリックして、インストール ファイルを選択します。
5. [次へ] をクリックします。
[資格情報] ウィンドウが開きます。
6. [パスワード] を入力するか、[システム アカウントとして実行] チェック ボックスをオンにして、システム資格情報を選択します。
7. [次へ] をクリックします。
[修復の進行状況] ウィンドウが開きます。修復が完了すると、[修復完了] ウィンドウが開きます。サマリーレポートには、修復されたコンポーネント、サーバー、アプリケーション、およびサービスが一覧表示されます。
8. [終了] をクリックします。

第 17 章

TotalAgility をアンインストールする

TotalAgility をアンインストールすると、アプリケーションのみが削除され、データベースは削除されません。

インストール ウィザードを使用する場合

1. [スタート]>[すべてのプログラム]>[TotalAgility] をクリックして、TotalAgility の [アンインストールまたは修復] を選択します。
修復/アンインストール ウィンドウが開きます。
2. アンインストール を選択し、[次へ] をクリックします。
3. 製品のアンインストールが通知されるまでメッセージに従って操作し、終了 をクリックします。
サマリー レポートに、アンインストールされたコンポーネント、サーバー、アプリケーション、およびサービスのリストが示されます。
エラー ログが作成されていないことを確認します。システム診断にパスが定義されていない場合、デフォルトでは、エラーが発生すると setup.exe と同じ場所にログ ファイル **KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.log** が作成されます。ただし、<add name="KTALog" type="System.Diagnostics.TextWriterTraceListener" initializeData="[ログ ファイル パス] [ログ ファイル名]" でパスを指定することにより、ログ ファイルのパスを定義できます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。

サイレント モードを使用する場合

1. コマンド プロンプトで、コマンド ラインを Setup.exe ファイルのルート ディレクトリに変更します。
2. Setup.exe /Silent /U を実行します。
TotalAgility がアンインストールされ、setup.exe と同じ場所にログ ファイルが自動的に作成されます。このログ ファイルには、エラーに関する情報が含まれています (存在する場合)。製品の削除は、イベント ログに記録されます。

❗ TotalAgility をサイレント モードでアンインストールすると、適用された修正パッチまたはサービス パッチが削除されるだけでなく、TotalAgility アプリケーションが完全に削除されます。TotalAgility を再インストールするには、基本バージョンをインストールしてから、すべてのパッチを適用する必要があります。

第 18 章

TotalAgility のアップグレード

TotalAgility は、7.4.0 (または任意の暫定パッチ)、7.5.0 (または任意の暫定パッチ)、7.6.0 (または任意の暫定パッチ)、7.7.0 (または任意の暫定パッチ)、7.8.0 (または任意の暫定パッチ)、7.9.0 (または任意の暫定パッチ) から 7.10.0 にアップグレードできます。

① TotalAgility をアップグレードする前に、TotalAgility アプリケーション プールとすべての TotalAgility サービスが停止しており、データベースがバックアップされていることを確認します。

TotalAgility コンポーネント (ライセンス プロキシ、Transformation Designer、および Transformation Server など) と TotalAgility データベースのみを互いに独立してアップグレードするか、TotalAgility データベースを含むコンポーネントをアップグレードするかを選択できます。「アップグレード プロセス」を参照してください。

アップグレードすると、TotalAgility インストーラによって次の構成設定が復元されます。

- すべての既存のアプリケーション設定
- すべての既存のセキュリティ バインディング
- TotalAgility 7.10.0 に対して実行されるすべての HTTP URL 書き換え

① TotalAgility を 7.7.0 より前のバージョンからアップグレードした後は、新しいライセンス動作を使用するように設定を更新して、ライセンス サーバーを再構成する必要があります。「ライセンス サーバーの設定の更新」を参照してください。

キャプチャ データの移行

TotalAgility をアップグレードするときに、キャプチャ データの移行プロセスを実行できます。移行中に、キャプチャ データ (フォルダ、ドキュメント、フィールドなど) は古いデータ レイヤー テーブルから新しい形式に変換され、新しいデータ レイヤー テーブルに格納されます。移行プロセスは、既存の古い DL テーブルを読み取るだけです。このテーブルに書き込むことはありません。移行のスループットを上げるために、バイナリ データ (通常はデータの最大部分) は移行されません。

① TotalAgility をアップグレードするとき、システムには多くのライブ ジョブがあります。これらのジョブは、アップグレードおよびキャプチャ データの移行後も実行を継続します。何らかの理由で移行プロセスが失敗した場合は TotalAgility のアップグレード全体が失敗したと見なされるため、データベースを以前の状態に戻す必要があります。

SQL Server で移行ユーティリティを使用してデータベースのアップグレードを直接実行する場合は、移行パフォーマンスを向上させるために、SQL サーバーに十分な空きメモリを確保しておくことをお勧めします。

キャプチャ データの移行時間を短縮するには、次の推奨事項を参照してください。

- 移行を実行する前に、少なくとも 4 ～ 6 GB の空きメモリを確保しておくことを強くお勧めします。
- 移行が実行されているマシンで、CPU を消費するプロセスが実行されていないことを確認してください。
- 可能であれば、SQL Server が実行されているマシンで移行を実行します。
- SQL Server のマシンで移行を実行する場合は、「最大サーバー メモリ」オプションの値を小さくして、マシンの空きメモリを 50% 以上にします (メモリを解放するには、データベース サーバーの再起動が必要になる場合があります)。これにより、移行時間を大幅に短縮できます。
- SSD (ソリッドステート ドライブ) ディスクに SQL Server データ ファイルを保存することを強くお勧めします。

キャプチャ データを移行するには、次の手順を実行します。

1. TotalAgility インストール メディアに移動して、**Setup.exe** をダブルクリックします。ユーザー アカウント制御ウィンドウが開きます。
2. **次へ** をクリックします。
3. [Kofax TotalAgility のアップグレード] ウィンドウで、**[TotalAgility データベース]** または **[データベースを含む TotalAgility コンポーネント]** を選択します。
4. デフォルトでは、サービスは自動的に開始します。インストールの完了後にサービスを手動で開始するには、サービスの自動開始 チェック ボックスをオフにします。
5. Workspace パッケージをインポートするには、**[システム Workspace パッケージのインポート]** チェック ボックスをオンにします。(デフォルト: クリア)
6. **次へ** をクリックします。
[更新プログラムのチェック] ウィンドウに、最新の更新を確認するよう推奨するメッセージが表示されます。次のいずれかをクリックします。
 - **[いいえ]**: 通常のインストール フローを実行します。
 - **[はい]**: 更新のダウンロード ページにリダイレクトされ、インストーラが終了します (インストーラから、更新をダウンロードして適用する手順が記載されたテキスト ファイルを開くことができます)。
7. 更新のダウンロード ページから、事前チェック SQL スクリプトと Kofax TotalAgility.CaptureDataMigration.dll の最新バージョンを含む ZIP ファイルをダウンロードします。次に、新しいユーティリティを実行して、ダウンロードした更新を適用します。更新が正常に適用されたら、**[次へ]** をクリックします。
8. **[資格情報]** ウィンドウに資格情報 (パスワードと確認用パスワード) を入力し、**[次へ]** をクリックします。
[インストール レビュー] ウィンドウが開き、設定が表示されます。

9. 設定を確認し、次へ をクリックしてインストールを開始します。
[インストールの進行状況] ウィンドウに、次の情報が表示されます。
 - 読み取られたデータ 進行状況バーには、これまでに読み取られたデータ量が表示されます。
 - 移行されたデータ 進行状況バーには、読み取られたデータの書き込み量が表示されます。
 - 終了時間 ETA 進行状況バーには、予測される移行終了時間が表示されます (読み取り/書き込みスループットは時間とともに変化する可能性があるため、移行中に ETA が変化する場合があります)。

データの移行をキャンセルするには、[移行のキャンセル] をクリックします。



- 実際の移行を実行する前に、TotalAgility インストーラにより、ドキュメント データベースの事前チェックが実行されます。データベースの事前チェックによって破損しているルート フォルダが見つかり、データを移行できない場合は、[キャプチャ データの移行] 概要パネルにエラーとエラーの説明のリストが表示されます。破損したフォルダを無視するには、破損したフォルダを無視する チェック ボックスをオンにして、次へ をクリックします。[Kofax TotalAgility のインストールがエラーで完了] ウィンドウにサマリーが表示されます。
 - 移行中に回復不能な例外が発生した場合、アップグレードは失敗です。
10. 移行が成功したら、[Kofax TotalAgility インストール完了] ウィンドウで [終了] をクリックして、インストールを完了します。
アップグレード中にエラーが発生した場合、TotalAgility によって、デスクトップ上に **Kofax TotalAgilityInstallErrorLog.txt** というログ ファイルが作成されます。エラーを修正します。
データベース スクリプト エラーが発生した場合、TotalAgility によって、**CEBPMDatabaseErrorLog.txt** というログ ファイルが作成されます。エラーを修正し、**Agility.server.upgrade.exe** を実行します。

キャプチャ バイナリ データ ストレージ

デフォルトでは、キャプチャ データは SQL Server に保存されます。Amazon S3、Windows Azure BLOB ストレージ、SQL Server とファイル システムなどの事前構成済みの外部データ ストレージ サービスを使用して、キャプチャ データを保存および処理できます。以前のバージョンの TotalAgility の TotalAgility オンプレミス マルチテナンシーを 7.10.0 以降にアップグレードする場合、既存の SQL Server バイナリ データは新しいストレージに移動されません。アップグレード後、構成ユーティリティを実行して、[キャプチャ ストレージ] タブからストレージ タイプを Amazon S3、Windows Azure BLOB ストレージ、または SQL Server とファイル システムに変更できます。『Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド』を参照してください。

サイレント モードでの TotalAgility のアップグレード

「サイレント モードでの TotalAgility のアップグレード」を参照してください。

アップグレードプロセス

TotalAgility コンポーネントとデータベースを互いに独立してアップグレードするか、データベースを含む TotalAgility コンポーネントをアップグレードするかを選択できます。

1. TotalAgility インストール メディアに移動し、TotalAgility のベース バージョンをインストールします。
2. TotalAgility インストール メディアに移動して、**Setup.exe** をダブルクリックします。
3. **[Kofax TotalAgility のアップグレード]** ウィンドウでは、以下をアップグレードできます。
 - TotalAgility コンポーネント
 - TotalAgility データベース
 - データベースを含む TotalAgility コンポーネント

システム診断のパスが定義されていない場合、アップグレード中にエラーが発生すると、デフォルトでは、TotalAgility によって setup.exe と同じ場所にログ ファイルが作成されます。ただし、`<add name="KTALog" type="System.Diagnostics.TextWriterTraceListener" initializeData="[ログ ファイル パス] [ログ ファイル名]"` でパスを指定することにより、ログ ファイルのパスを定義できます。また、ログ ファイルがデスクトップに作成されます。これらのエラーを修正します。

TotalAgility コンポーネントをアップグレードする

ライセンス プロキシ、TotalAgility Designer、Transformation Server などの TotalAgility コンポーネントをアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. **[Kofax TotalAgility のアップグレード]** ウィンドウで、**[TotalAgility コンポーネント]** を選択します。
2. デフォルトでは、サービスは自動的に開始されます。サービスを手動で開始するには、**[サービスの自動開始]** チェック ボックスをオフにして、**[次へ]** をクリックします。
[資格情報] ウィンドウが開きます。
3. 資格情報 (パスワードと確認用パスワード) を入力し、**次へ** をクリックします。
[インストール レビュー] ウィンドウが開きます。設定を確認し、**[次へ]** をクリックしてインストールを開始します。
4. **[終了]** をクリックしてインストールを完了します。

システム診断のパスが定義されていない場合、アップグレード中にエラーが発生すると、デフォルトでは、TotalAgility によって setup.exe と同じ場所にログ ファイルが作成されます。ただし、`<add name="KTALog" type="System.Diagnostics.TextWriterTraceListener"`

initializeData="[ログ ファイル パス][ログ ファイル名]" でパスを指定することにより、ログ ファイルのパスを定義できます。これらのエラーを修正します。

TotalAgility コンポーネントをアップグレードした後に Kofax TotalAgility データベースもアップグレードする場合は、次の手順を実行します。

- a. TotalAgility インストール メディアに移動して、**Setup.exe** をダブルクリックします。
[データベースの修復/アンインストール/アップグレード] ウィンドウが開きます。

① または、[スタート]>[すべてのプログラム]>[Kofax TotalAgility] をクリックして [データベースの修復/アンインストール/アップグレード] ウィンドウで [データベースのアップグレード] オプションを選択し、Kofax TotalAgility の [アンインストール] または [修復] を選択します。

- b. データベースのアップグレード を選択します。
- c. 次へ をクリックして、指示に従います。

TotalAgility データベースのアップグレード

手順に従って、TotalAgility データベースのみをアップグレードします。

1. **[Kofax TotalAgility のアップグレード]** ウィンドウで、**[TotalAgility データベース]** を選択します。
2. デフォルトでは、サービスは自動的に開始されます。サービスを手動で開始するには、[サービスの自動開始] チェック ボックスをオフにします。
3. Workspace パッケージをインポートするには、[システム Workspace パッケージのインポート] のチェック ボックスをオンにして、[次へ] をクリックします。(デフォルト: クリア)
TotalAgility を 7.8.0 より前のバージョンから 7.9.0 にアップグレードする場合、[次へ] をクリックすると、キャプチャ データの移行を実行するために**最新の更新を確認**することを推奨するポップアップ メッセージが表示されます。
[資格情報] ウィンドウが開きます。
4. 資格情報 (パスワードと確認用パスワード) を入力し、[次へ] をクリックします。
[インストール レビュー] ウィンドウが開きます。設定を確認し、[次へ] をクリックしてインストールを開始します。
5. [終了] をクリックしてインストールを完了します。

システム診断のパスが定義されていない場合、アップグレード中にエラーが発生すると、デフォルトでは、TotalAgility によって setup.exe と同じ場所にログ ファイルが作成されます。ただし、`<add name="KTALog" type="System.Diagnostics.TextWriterTraceListener" initializeData="[ログ ファイル パス][ログ ファイル名]"` でパスを指定することにより、ログ ファイルのパスを定義できます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。エラーを修正します。

データベースを含む TotalAgility コンポーネントをアップグレードする

手順に従って、データベースを含む TotalAgility コンポーネントをアップグレードします。

1. **[Kofax TotalAgility のアップグレード]** ウィンドウで、**[TotalAgility データベース]** を選択します。
2. デフォルトでは、サービスは自動的に開始されます。サービスを手動で開始するには、[サービスの自動開始] チェック ボックスをオフにします。

3. Workspace パッケージをインポートするには、[システム **Workspace** パッケージのインポート] のチェック ボックスをオンにして、[次へ] をクリックします。(デフォルト: クリア)
TotalAgility を 7.8.0 より前のバージョンから 7.9.0 にアップグレードする場合、[次へ] をクリックすると、キャプチャ データの移行を実行するために**最新の更新を確認**することを推奨するポップアップ メッセージが表示されます。
[資格情報] ウィンドウが開きます。
4. 資格情報 (パスワードと確認用パスワード) を入力し、[次へ] をクリックします。
[インストール レビュー] ウィンドウが開きます。設定を確認し、[次へ] をクリックしてインストールを開始します。
5. [終了] をクリックしてインストールを完了します。
システム診断のパスが定義されていない場合、アップグレード中にエラーが発生すると、デフォルトでは、TotalAgility によって setup.exe と同じ場所にログ ファイルが作成されます。ただし、<add name="KTALog" type="System.Diagnostics.TextWriterTraceListener" initializeData="[ログ ファイル パス] [ログ ファイル名]" でパスを指定することにより、ログ ファイルのパスを定義できます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。エラーを修正します。

キャプチャ データの移行を実行するための最新の更新の確認

TotalAgility データベースと、データベースを含む TotalAgility コンポーネントを 7.8.0 より前のバージョンから 7.9.0 にアップグレードする場合は、次の手順を実行します。

1. [Kofax TotalAgility のアップグレード] ウィンドウで、[TotalAgility データベース] を選択します。
2. デフォルトでは、サービスは自動的に開始されます。サービスを手動で開始するには、[サービスの自動開始] チェック ボックスをオフにします。
3. Workspace パッケージをインポートするには、[システム **Workspace** パッケージのインポート] のチェック ボックスをオンにして、[次へ] をクリックします。
キャプチャ データの移行を実行するための最新の更新を確認するよう推奨するポップアップ メッセージが表示されます。
4. [はい] をクリックします。
[インストール レビュー] ダイアログ ボックスに、キャプチャ データ移行の事前チェック更新をダウンロードするための次のリンクが表示されます。
<https://edelivery.kofax.com/TotalAgility/7.9.0/MigrationPreCheck.ZIP>
5. リンクをクリックして、MigrationPreCheck.zip をローカル マシンに自動的にダウンロードします。
6. [インストール レビュー] ダイアログボックスで [完了] をクリックします。
7. インストール ディレクトリにある Agility.Install.ApplyCaptureMigrationUpdates.exe ユーティリティを実行して、DLL とスクリプト ファイルを置き換えます。
[移行の Capture] ポップアップが表示されます。
8. [参照] をクリックし、[Zip ファイルの場所] で MigrationPreCheck.zip がダウンロードされている場所を選択し、[OK] をクリックします。
キャプチャ移行更新ツールによって zip が自動的に抽出され、更新が TotalAgility インストーラに適用されます。
9. メッセージで [OK] をクリックします。
10. TotalAgility 7.10.0 インストール メディアに移動し、**Setup.exe** をダブルクリックして、インストールを再実行します。

11. キャプチャ データの移行を実行するための更新を確認するよう求められた場合は、[いいえ]をクリックします。
[資格情報] ウィンドウが開きます。
12. 資格情報を入力して、アップグレードを続行します。
システム診断のパスが定義されていない場合、アップグレード中にエラーが発生すると、デフォルトでは、TotalAgility によって setup.exe と同じ場所にログ ファイルが作成されます。ただし、<add name="KTALog" type="System.Diagnostics.TextWriterTraceListener" initializeData="[ログ ファイル パス] [ログ ファイル名]" でパスを指定することにより、ログ ファイルのパスを定義できます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。エラーを修正します。

データベース スクリプトを使用した TotalAgility データベースの手動アップグレード

TotalAgility を 7.0.2、7.1.0、7.2.0、7.3.0、7.4.0、7.5.0、7.6.0、7.7.0、または 7.8.0 から TotalAgility 7.10.0 にアップグレードする場合は、次の手順を実行します。



- TotalAgility データベースを 7.7.0 以前のバージョンから手動でアップグレードするには、特殊な移行ユーティリティを実行してデータベースのアップグレードを完了する必要があります。Kofax テクニカル サポートに連絡して、移行ユーティリティのコピーと、データベースの手動アップグレードを完了するための適切な手順を請求してください。
- TotalAgility 7.8.0 をクリーン インストールする場合、シミュレータ データベースおよびシミュレータ関連の SQL スクリプトは使用できなくなりました。TotalAgility を 7.8.0 以降にアップグレードすると、シミュレータ データベースとの接続が自動的に解除されます。

1. スクリプトを手動で実行するには、`\\TotalAgilityInstall\DatabaseScripts\SQL Server\Upgrade Database Scripts` に移動します。

2. アップグレード元のバージョンからアップグレード後のバージョンまでのすべてのリリースおよびパッチに対して、変換スクリプト (存在する場合) を実行します。

例: 7.2.0.0 から 7.10.0 にアップグレードする場合は、次の変換スクリプトを実行します。

- 7.2.0.0 から 7.2.1.0 への変換スクリプト
- 7.2.1.0 から 7.2.2.1 への変換スクリプト
- 7.2.2.1 から 7.3.0.0 への変換スクリプト
- 7.3.0.0 から 7.3.0.2 への変換スクリプト
- 7.3.0.2 から 7.3.1.0 への変換スクリプト
- 7.3.1.0 から 7.3.1.2 への変換スクリプト
- 7.3.1.2 から 7.4.0.0 への変換スクリプト
- 7.4.0.0 から 7.4.0.1 への変換スクリプト
- 7.4.0.1 から 7.4.1.0 への変換スクリプト
- 7.4.1.0 から 7.4.1.1 への変換スクリプト
- 7.4.1.1 から 7.5.0.0 への変換スクリプト
- 7.5.0.0 から 7.5.0.5 への変換スクリプト
- 7.5.0.5 から 7.5.0.10 への変換スクリプト
- 7.5.0.10 から 7.6.0.0 への変換スクリプト
- 7.6.0.0 から 7.6.0.5 への変換スクリプト
- 7.6.0.5 から 7.7.0.0 への変換スクリプト
- 7.7.0.0 から 7.7.0.1 への変換スクリプト
- 7.7.0.1 から 7.8.0.0 への変換スクリプト
- 7.8.0.0 から 7.9.0.0 への変換スクリプト
- 7.9.0.0 から 7.10.0.0 への変換スクリプト

データベース間で次の順序でスクリプトを実行し、各スクリプト内の指示に従います。

- a. Convert_Main.sql (TotalAgility データベースに実行)。
- b. Convert_Audit.sql (監査データベースに実行)。
- c. Convert_Archive.sql (終了済みジョブ データベースに実行)。

① 監査およびアーカイブ データベースの名前が TotalAgility データベースと同じである場合は、Convert_Audit.sql および Convert_Archive.sql スクリプトを TotalAgility データベースに対して実行します。

- d. Convert_Forms.sql (TotalAgility データベースに実行)。
- e. Convert_KLS_OnPremise.sql (TotalAgility データベースに実行)。
- f. Convert_KFS.sql (TotalAgility データベースに実行)。
- g. Convert_DataLayer.sql (TotalAgility_Documents データベースに実行)。
- h. レポート データベースに次の conversion スクリプトを実行します。
 - Kofax ReportingAnalytics.SQL_Convert.sql (TotalAgility_Reporting データベースに実行)。

- Kofax ReportingAnalytics.Staging.SQL_Convert.sql
(TotalAgility_Reporting_Staging データベースに実行)。

TotalAgility 7.0.2 などの、以前のバージョンの TotalAgility にレポート データベースが含まれていなかった場合は、最初に TotalAgility_Reporting データベースと TotalAgility_Reporting Staging データベースを作成し、それに応じて Web.config ファイルを更新する必要があります。

- a. すべての PostUpgrade_ スクリプトを、対応する Convert_ スクリプトを実行したデータベースに対して実行します。
3. <C:\Program Files\Kofax\TotalAgility\Agility.Server.Web\bin> に移動して、**Agility.Installation.Server.Upgrade.exe.config** を開きます。<appSettings> セクションで、次の設定の値を更新します。
 - <add key="UpgradeFromVersion" value="" />。value は、アップグレードの実行元の TotalAgility バージョンです。たとえば、TotalAgility を 7.7.0 から 7.8.0 にアップグレードする場合は、value を次のように設定します。<key="UpgradeFromVersion" value="7.7.0"/>。
 - <add key="SystemSessionId" value="" />。TotalAgility Designer またはデータベースからシステム セッション ID を取得します。
 - <add key="UserName" value="" />。ユーザー名は現在ログオンしているユーザーの名前です。

データベースを手動でアップグレードする前に TotalAgility コンポーネントがすでにインストールされている場合は、upgrade.exe とその構成ファイルが <C:\Program Files\Kofax\TotalAgility\Agility.Server.Web\bin> にあります。それ以外の場合は、TotalAgility インストール メディアからこれらのファイルを実行できます。Agility.Installation.Server.Upgrade.exe.config を開きます。<appSettings> セクションで、次の設定の値を更新します。

- <add key="UpgradeFromVersion" value="" />。value は、アップグレードの実行元の TotalAgility バージョンです。たとえば、TotalAgility を 7.7.0 から 7.8.0 にアップグレードする場合は、value を次のように設定します。<key="UpgradeFromVersion" value="7.7.0"/>。
 - <add key="SystemSessionId" value="" />。TotalAgility Designer またはデータベースからシステム セッション ID を取得します。
 - <add key="UserName" value="" />。ここで、ユーザー名は、現在のログオン ユーザーの名前です。
 - インストール メディアから実行している場合は、すべてのデータベース接続文字列設定が正しく、InstallDirectory 設定が config ファイルで更新されていることを確認してください。
4. コマンド プロンプトからパラメータとして Agility.Installation.Server.Upgrade.exe <ImportWorkspacepackage> (Agility.Installation.Server.Upgrade.exe false など) を渡して、Agility.Installation.Server.Upgrade.exe を実行します。Workspace パッケージをインポートする場合は、パラメータとして Agility.Installation.Server.Upgrade.exe true を渡します。
 5. エラー ログが作成されていないことを確認します。Setup.exe.config のシステム診断セクションにパスが定義されていない場合、デフォルトでは、エラーが発生すると、TotalAgility によって、setup.exe と同じ場所にログ ファイル **KofaxUpgradeDatabaseUtilityError.txt** が作成されます。ただし、<add name="KTALog" type="System.Diagnostics.TextWriterTraceListener" initializeData="[ログ ファイル パス] [ログ ファイル名]" でパスを指定することにより、ログ ファイルのパスを定義できます。これらのエラーを修正して、上記の手順を繰り返します。

6. Kofax TotalAgility Core Worker サービスを手動で開始します。
 - a. 実行時に **Services.msc** と入力して **Enter** キーを押します。
 - b. **Kofax TotalAgility Core Worker** を右クリックし、**開始** をクリックします。

レポート データベース 2.0.2 のアップグレード

次のスクリプトを実行して、レポート データベース 2.0.2 を手動でアップグレードします。

1. TotalAgilityInstall\DatabaseScripts\SQL Server\Upgrade Database Scripts \ 7.0.2 -> 7.1.0 からスクリプトを実行します。
2. TotalAgilityInstall\DatabaseScripts\SQL Server\Upgrade Database Scripts \ 7.1.0 -> 7.2.0 からスクリプトを実行します。
3. TotalAgilityInstall\DatabaseScripts\SQL Server\Upgrade Database Scripts \ 7.2.0 -> 7.3.0 からスクリプトを実行します。
4. TotalAgilityInstall\DatabaseScripts\SQL Server\Upgrade Database Scripts \ 7.3.0 -> 7.4.0 からスクリプトを実行します。
5. TotalAgilityInstall\DatabaseScripts\SQL Server\Upgrade Database Scripts \ 7.4.0 -> 7.5.0 からスクリプトを実行します。
6. TotalAgilityInstall\DatabaseScripts\SQL Server\Upgrade Database Scripts \ 7.5.0 -> 7.6.0 からスクリプトを実行します。
7. TotalAgilityInstall\DatabaseScripts\SQL Server\Upgrade Database Scripts \ 7.6.0 -> 7.7.0 からスクリプトを実行します。
8. TotalAgilityInstall\DatabaseScripts\SQL Server\Upgrade Database Scripts \ 7.7.0 -> 7.8.0 からスクリプトを実行します。
9. TotalAgilityInstall\DatabaseScripts\SQL Server\Upgrade Database Scripts \ 7.8.0 -> 7.9.0 からスクリプトを実行します。

❗ TotalAgility 7.1.0 から 7.9.0 にアップグレードする場合 (TotalAgility 7.8.0 の一部としてレポートを含む)、自動または手動アップグレードを実行する前に、すべてのレポート ステージング データベース テーブルが空であることを確認します。

こちらも参照してください。

- [アップグレード プロセス](#)
- [サイレント モードでの TotalAgility のアップグレード](#)

サイレント モードでの TotalAgility のアップグレード

TotalAgility バージョン 7.7.0 から 7.9.0 へのアップグレード (データベースやデータベースを含むコンポーネントなどのアップグレード) をサイレント モードで実行する場合は、事前に次のリンクをクリックして、キャプチャ データ移行の事前チェック更新をダウンロードする必要があります。

<https://edelivery.Kofax.com/TotalAgility/7.9.0/MigrationPrecheck.ZIP>

zip をダウンロードしたら、インストール ディレクトリにある Agility.Install.ApplyCaptureMigrationUpdates.exe ユーティリティを実行して、DLL とスクリプトを置き換えます。

TotalAgility のバージョン 7.10.0 へのサイレント アップグレードを実行するには、次の手順を実行します。

1. setup.exe のルート ディレクトリに移動します。
2. \\TotalAgilityInstall に移動し、テキスト エディタを使用して SilentInstallConfig.xml を開きます。
3. SilentInstallConfig.xml で、次のパラメータを更新します。

パラメータ	デフォルト値	説明
Identity Information		
UserName	ユーザー名	TotalAgility を実行するユーザーの名前を入力します。
Password	パスワード	TotalAgility を実行するユーザーのパスワードを入力します。
Install Info		
InstallAction	アップグレード	データベースを含む TotalAgility コンポーネントをアップグレードするには、この設定を使用します。
	TotalAgility データベースのアップグレード	<p>TotalAgility コンポーネントをアップグレードする前にデータベースをアップグレードする場合のみ、この設定を使用します。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; background-color: #e6f2ff; padding: 10px;"> <p>① データベースをアップグレードする前に TotalAgility コンポーネントをアップグレードする場合は、次の手順を実行する必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> a. 次の場所にある SilentInstallConfig.xml を開きます。 <pre>\\TotalAgility Installation Information \Kofax TotalAgility</pre> b. 次のパラメータを使用して <InstallAction> セクションを更新します。<InstallAction> =UpgradedatabasesforexistingTotalAgility c. 上記のパスから Setup.exe / Silent /U を実行します。 </div>
	TotalAgility コンポーネントのアップグレード	TotalAgility コンポーネントのみをアップグレードするには、この設定を使用します。
DatabaseInformation		

パラメータ	デフォルト値	説明
IgnoreBrokenFoldersOnUpgrade	false	移行中に破損したデータが見つかった場合、アップグレードは失敗します。 true に設定すると、TotalAgility をアップグレードするときに、壊れたフォルダを無視して、キャプチャデータの移行を続行します。
RunCaptureMigrationIgnoringErrors	false	移行中にエラーが発生した場合、破損したデータが含まれているルート フォルダは移行されません。 true に設定されている場合は、エラーを無視し、キャプチャデータの移行を続行します。
StartServices	true	アップグレードインストール後にサービスを自動的に開始します。 アップグレードインストール後にサービスを手動で開始するには、false に設定します。
ImportWorkspacepackage	false	アップグレードインストール後に Workspace パッケージをインポートするには、true に設定します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p>i Kofax TotalAgility リリース ノートをレビューして、Workspace パッケージに必要な更新をインポートします。</p> </div>

4. 管理者としてコマンド プロンプト ウィンドウを開き、コマンド ラインを Setup.exe ファイルのルート ディレクトリに変更します。
5. Setup.exe /Silent /Upgrade を実行します。
サイレント構成ファイルで true に設定されたパラメータに基づいて、次の項目が自動的にアップグレードされます。
 - Kofax TotalAgility
 - Kofax エクスポート コネクタ (KIC)
 - KofaxTransformation Designer
 - Kofax エクスポート コネクタのユーティリティ

エラーを報告するログ ファイルが生成されます (エラーがある場合)。
インストールの成功または失敗は、イベント ログに記録されます。
6. ファイルを保存して閉じます。

こちらも参照してください。

- [アップグレード プロセス](#)
- [データベースの手動アップグレード](#)

Message Connectors インスタンスのアップグレード

Message Connector の複数のインスタンスがインストールされている場合は、TotalAgility のアップグレード時に Message Connector のすべてのインスタンスをアップグレードする必要があります。次の操作を行います。

1. Message Connector の最初のインスタンスをアップグレードするには、TotalAgility をアップグレードする前に、SilentInstallConfig.xml で ImportService パラメータの値を true に設定します。「サイレントモードでの TotalAgility のアップグレード」を参照してください。
2. Message Connector の 2 番目のインスタンスをアップグレードするには、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
<\\TotalAgility\KIC\Export\MC\MC.msi> TRANSFORMS=:I02 MSINEWINSTANCE=1  
Kofax="<path>" <options>
```

ここで、<\\TotalAgility\KIC\Export\MC\MC.msi> は TotalAgility セットアップフォルダのパスです。

<path> では、Message Connector の 2 番目のインスタンスのアップグレードパスを指定します。アップグレード時に、このパスに \KIC-ED\MC02 が追加されます。

3. Message Connector の 3 番目のインスタンスをアップグレードするには、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
<\\TotalAgility\KIC\Export\MC\MC.msi> TRANSFORMS=:I03 MSINEWINSTANCE=1  
Kofax="<path>" <options>
```

ここで、<\\TotalAgility\KIC\Export\MC\MC.msi> は TotalAgility セットアップフォルダのパスです。

<path> では、Message Connector の 3 番目のインスタンスのアップグレードパスを指定します。アップグレード時に、このパスに \KIC-ED\MC03 が追加されます。

① Message Connector の 2 番目と 3 番目のインスタンスについては、必要に応じて、<options> で次のコマンド オプションを使用します。

- /qn - サイレント インストール
- /qb - 基本的なユーザー インターフェイス (進行状況バー) を使用するサイレント インストール
- ALLUSERS=1 - すべてのユーザー向けのインストール

第 19 章

トラブルシューティング

このセクションでは、発生する可能性のある問題とその解決策について説明します。

TotalAgility AppPool が存在する

TotalAgility は TotalAgility AppPool というアプリケーション プールを作成します。インストールまたはアップグレードするときに問題が発生する可能性があるため、同じ名前の既存のアプリケーション プールがないことを確認してください。

ソフトウェア更新プログラムのダウンロード

ftp.kofax.com サイトからインストール パッケージまたはサービス パックをダウンロードする場合、このサイトが信頼できるサイトとして追加されていることを確認してください。追加されていないと、ダウンロードされたファイルが破損する可能性があります。

IPv4 および IPv6 環境でのインストールの失敗

デュアルスタック (IPv4/IPv6) の IPv6 アドレスのみでリスンするように SQL Server が構成されている場合、IPv4 アドレスを使用してクライアント接続を試行すると、失敗し、接続確立ハンドシェイク中に使用されるデフォルトの TCP タイムアウト ロジックの影響を受けて、所要時間がデフォルトのタイムアウトよりも長くなることがあります。以降の IPv6 接続は、すぐに成功した場合でも、引き続き失敗する可能性があります。

この問題を解決するには、SQL Server Configuration Manager で IPv4 を無効にします。

1. **SQL Server Configuration Manager** を起動します。
2. TotalAgility サーバー インスタンスの TCP/IP プロトコルの プロパティ を開きます。
3. **すべてリスン** を **いいえ** に設定します。

i この設定により、TAServerSQLInstance が接続をリスンするインターフェイスを細かく制御できます。

4. **IP アドレス** タブをクリックします。
5. IPv6 ローカル ホスト アドレスである ::1 を除くすべてのエントリーについて、**有効** を **いいえ** に設定します。
6. **OK** を選択して変更をコミットし、サービスの再起動ダイアログで **OK** を選択します。

7. SQL Server (<TAServerInstance>) サービスを再起動します。この場合、TotalAgility (Kofax TotalAgility など) で実際に使用されるインスタンスは、TAServerInstance になります。

スキャン後に Workspace にイメージが表示されない

管理者以外のユーザーとしてマシンにログインした場合は、スキャン後に Workspace にイメージが表示されません。管理者ユーザーとしてログインした場合は、イメージが正常に表示されます。

1. WebCapture プラグインの診断ログ ツールである DosadiLog をインストールしていない場合は、今すぐインストールしてください。以下の手順とダウンロードリンクを参照してください。 <http://www.eztwain.com/dosadilog.htm>
2. Web.config ファイルの <system.diagnostics> セクションを次のように編集します。

i このガイドからコードをコピーして貼り付ける場合は、改行を修正してください。

```
<system.diagnostics>
<!--<sources>
<source name="System.ServiceModel"
switchValue="Information, ActivityTracing"
propagateActivity="true">
<listeners>
<add name="traceListener"
type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"
initializeData= "c:\log\Traces.svclog" /> </listeners> </source> </sources-->
<trace autoflush="true">
<listeners> <add name="ThinClientServer" traceOutputOptions="DateTime,ThreadId"
type="System.Diagnostics.TextWriterTraceListener" initializeData="c:
\ThinClientServerLog.txt">
<filter type="System.Diagnostics.EventTypeFilter" initializeData="Verbose" /> </
add>
<!--<add type="Microsoft.WindowsAzure.Diagnostics.DiagnosticMonitorTraceListener,
Microsoft.WindowsAzure.Diagnostics, Version=1.0.0.0, Culture=neutral,
PublicKeyToken=31bf3856ad364e35"
name="AzureDiagnostics">
<filter type="" />
</add-->
</listeners>
</trace>
</system.diagnostics>
```

3. 管理者以外のユーザーが確実にログインできるようにするには、信頼できるサイトへのリンクを追加します。
 - a. IE 11 の インターネット オプション に移動します。
 - b. セキュリティ タブをクリックします。
 - c. サイト をクリックします。
 - d. ドメインを [http://\[ドメイン\]](http://[ドメイン]) のような信頼できるサイトに追加します。

Transformation Designer プロジェクトのインポート中の例外

SSL を使用する TotalAgility Web サービスに接続する Transformation Designer を使用してプロジェクトをインポートすると、例外がスローされます。

1. SSL を使用してサーバーを実行するように選択した場合は、SSL 設定でクライアント証明書 オプションが **無視** に設定されていることを確認します。
2. 認証にクライアント証明書を使用する場合は ([承諾] または [必須])、IIS で `uploadReadAheadSize` の値を設定する必要があります。この設定を調整するには、いずれかのオプションを使用します。
 - IIS マネージャーで以下の操作を行います。
 - a. TotalAgility サイトの構成エディタを開きます。
 - b. [セクション] リストで、`system.webServer` を展開し、**serverRuntime** を選択します。
 - c. [発信元] リストで、**ApplicationHost.config <location path='Default Web Site/TotalAgility'/>** を選択します。
 - d. `uploadReadAheadSize` に適切な値をバイト単位で設定します。

最深のパス: MACHINE/WEBROOT/APPHOST/Default Web Site/TotalAgility	
alternateHostName	
appConcurrentRequestLimit	5000
authenticatedUserOverride	UseAuthenticatedUser
enabled	True
enableNagling	False
frequentHitThreshold	2
frequentHitTimePeriod	00:00:10
maxRequestEntityAllowed	4294967295
uploadReadAheadSize	83886080

- または、IIS のメイン構成ファイルを変更します。
 - a. `C:\Windows\System32\inetsrv\config\` にある **applicationHost.config** を開きます。
 - b. `<serverRuntime>` ノードがまだ存在していない場合は `<system.webServer>` 内の `<security>` ノードの下に追加します。

```
<location path="Default Web Site">
  <system.webServer>
    <security>
...
    </security>
    <serverRuntime uploadReadAheadSize="10485760" />
  </system.webServer>
</location>
```

- c. `uploadReadAheadSize` に適切な値をバイト単位で設定します。

TotalAgility のヘルプで検索機能が機能しない

- スタート > すべてのプログラム で Designer を実行した場合、『TotalAgility のヘルプ』の検索機能は機能しません。

この問題を解決するには、このサイトを信頼済みサイトとして Internet Explorer に追加します。インターネット オプション > セキュリティ > 信頼済みサイト > サイト

- Internet Explorer 9 の場合、『TotalAgility のヘルプ』の検索機能は Designer および Workspace では機能しません。
この問題を解決するには、Internet Explorer 9 の ツール > 互換設定 に移動し、次の 2 つのオプションをオフにします。
 - **Microsoft** からの更新済み **Web** サイト リストを含める
 - 互換性表示にイントラネット サイトの表示

(405) 許可されていないメソッド エラー

TotalAgility のインストール中に、「(405) 許可されていないメソッド」というエラーが発生する場合があります。

この問題を解決するには、IIS に ASP.NET 4.x を再登録します。

1. コマンド プロンプトを開きます。
2. %WINDIR%\Microsoft.NET\Framework\v4.0.30319 に移動します。
3. aspnet_regiis.exe-i を実行します。

MIME のタイプ エラー

IIS からテナント管理または TotalAgility Web サイトにアクセスしようとする、次のエラーが発生して、Web ページがレンダリングされません。Cannot add duplicate collection entry of type mimeMap with unique attribute field Extension set to .xap。これは、2 つの異なる構成ファイル内の MIME タイプが競合していることを示します (たとえば、1 つはアプリケーションレベルで、もう 1 つはサイトレベルの場合など)。

この問題を解決するには、次のいずれかを実行します。

1. 構成ファイルから、2 つの競合する mimeMap 拡張機能の 1 つを削除します。
2. IIS 管理者が競合する MIME マッピングを両方とも必要としている場合は、競合する mimemap の上に remove タグを追加します。
例 アプリケーションのアプリケーション レベル構成ファイルに次の mimemap が含まれているとします。

```
<mimeMap fileExtension=".xap" mimeType="application/octet-stream" />  
> (//inetpub/wwwroot/web.config などに配置されている)。この mimemap によつて、applicationhost.config ファイル内の同じ mimemap との競合が発生する場合は、次のように、この mimemap の上に <remove fileExtension=".xap" /> を追加します。
```

```
<remove fileExtension=".xap" />  
<mimeMap fileExtension=".xap" mimeType="application/octet-stream" />
```

ここで、.xap は MIME タイプです。